

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

近大総発第1240号
令和7年10月5日
開設者名 学校法人 近畿大学
理事長 世耕 弘成

近畿大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1
氏名	学校法人 近畿大学 理事長 世耕 弘成

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

近畿大学病院

3 所在の場所

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2
電話(072) 366-0221

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科		2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	11リウマチ科
診療実績							
アレルギー疾患内科またはアレルギー科の内容は呼吸器内科でリウマチ科の内容は血液内科で診ている。神経内科の診療内容は脳神経内科にて提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
呼吸器外科、乳腺外科、内分泌外科の内容は外科で診療している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	腫瘍内科	5	心療内科
6	緩和ケア内科	7	漢方内科	8	脳神経内科	9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0	0	0	0	919	919

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	575	127	592.6
歯科医師	19	13	20.6
薬剤師	93	2.9	95.9
保健師	0	0	0
助産師	28	0	28
看護師	1090	11.3	1101.3
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	8	1.8	9.8
管理栄養士	16	0	16

職種	員数
看護補助者	85
理学療法士	25
作業療法士	7
視能訓練士	17
義肢装具士	0
臨床工学士	44
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	54

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	102
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	10	
その他の技術員	37	
事務職員	383	
その他の職員	4	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	69	眼科専門医	10
外科専門医	57	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	6	放射線科専門医	16
小児科専門医	18	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	15
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	19
産婦人科専門医	15	救急科専門医	5
		合計	268

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (東田 有智) 任命年月日 平成 28 年 10 月 1 日

平成21年より継続して、院内感染対策委員会の委員長を平成29年3月まで務めていた。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	695 人	4.5 人	699.5 人
1日当たり平均外来患者数	1371.8 人	75.1 人	1446.9 人
1日当たり平均調剤数	入院 1235.9 外来 3228.8 合計 4464.7		剤
必要医師数	156		人

必要歯科医師数	5	人
必要薬剤師数	56	人
必要(准)看護師数	399	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	10床	心電計	有
集中治療室	215.67 ㎡	鉄骨鉄筋 コンクリート造	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	17.29	㎡	病床数	1床
	[移動式の場合]	台数	17	台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	32.03			㎡
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	622.88 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	日立自動分析装置 他		
細菌検査室	134.12 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	PCR検査システム コバスタqMan48 他		
病理検査室	155.87 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	密閉式自動固定包埋装置 他		
病理解剖室	101.56 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	解剖台 他		
研究室	4104.7 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	透過電子顕微鏡、高速液体クロマトグラフ質量分析計 他		
講義室	2042.22 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	10	室	収容定員 1,692 人
図書室	1557.83 ㎡	鉄筋コンクリート造	室数	5	室	蔵書数 137,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	96.7	%	逆紹介率	85.2	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		18,937		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		20,235		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,028		人
	D: 初診の患者の数		23,742		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
----	----	---------------	------	----------	---------------

水本 一弘	和歌山県立医科大学医療安全推進部 病院教授・麻酔科准教授	○	同医科大学において医療安全部門に就いており、医療安全に精通していることから適任と判断したもの	無	1
山口 育子	NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長		医療事故調査支援センターの運営委員等の職にも就かれ医療安全に精通していることから適任と判断したもの	無	2
小島 崇宏	大阪A&M法律事務所・弁護士		医師として医療機関での職歴もあり、法律学に関する専門知識を有することから適任と判断したもの	無	1
川村 純一郎	近畿大学病院 外科主任教授		当院の医療機器安全管理委員会委員長の経験もあり、医療安全に関する情報共有も行っていることから、適任と判断したもの	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページにて掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	多血小板血漿 (PRP)を用いた難治性皮膚潰瘍の再生医療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 血液の中には、傷を治す働きを持つ「血小板」という成分があり、この血小板を高濃度に濃縮させてものをPRP (Platelet-Richi Plasam:多血小板血漿)という。PRPにはたくさんの成長因子が含まれており、細胞の成長や組織の修復・再生を促進する力がある。これを難治性皮膚潰瘍、褥瘡に局所投与する。			
医療技術名	難治性性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ投与	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 小児発症のステロイド依存性・頻回再発型ネフローゼ症候群の成人移行例やステロイド治療困難例などに対してリツキシマブでの治療を取り入れている。成人発症のステロイド依存性。頻回再発型ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ投与では医師主導治験(多施設共同)に参加実績あり、また症例によっては臨床倫理委員会での承認を経て適用外使用も実施している。			
医療技術名	体外循環を用いたアフエレーシス治療	取扱患者数	63
当該医療技術の概要 当該医療技術の概要: 血漿の中から疾患の原因物質を取り除くアフエレーシス治療をANCA血管炎、クリオグロブリン血症、巣状分節性糸球体硬化症などの腎疾患、神経・消化器系免疫疾患などに実施している(腹水濾過濃縮再静注11名、単純血漿交換31名、選択的血漿交換5名、顆粒球除去療法10名、血液吸着療法2名、血漿吸着療法4名)。			
医療技術名	横隔膜エコーを活用した効果的な呼吸筋トレーニング方法の最適化	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者に対する呼吸筋トレーニングの効果的な実施方法については確立されていない。当科ではCOPDを対象として、個別化された最適な呼吸筋トレーニングを実施するため、超音波診断装置を使用している。横隔膜移動距離を指標として最適な負荷圧を設定することに取り組んでいる。			
医療技術名	特発性肺線維症(IPF)及び進行性肺線維症(PPF)患者を対象に、BI 1015550を経口投与したときの長期安全性及び有効性を検討する非盲検継続投与試験	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 特発性肺線維症(IPF)及び進行性肺線維症(PPF)患者を対象に、BI 1015550を経口投与したときの長期安全性及び有効性を検討する非盲検継続投与試験			
医療技術名	特発性肺線維症(IPF)患者を対象に、BMS-986278の有効性、安全性及び忍容性を検討する多施設共同ランダム化二重盲検プラセボ対照第3相試験	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 特発性肺線維症(IPF)患者を対象に、BMS-986278の有効性、安全性及び忍容性を検討する多施設共同ランダム化二重盲検プラセボ対照第3相試験			
医療技術名	進行性肺線維症(PPF)患者を対象に、BMS-986278の有効性、安全性及び忍容性を検討する多施設共同ランダム化二重盲検プラセボ対照第3相試験	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 進行性肺線維症(PPF)患者を対象に、BMS-986278の有効性、安全性及び忍容性を検討する多施設共同ランダム化二重盲検プラセボ対照第3相試験			

医療技術名	気管支熱形成術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 重症難治性喘息患者を対象とする非薬物的治療である。気管支鏡下に挿入したプローブから高周波エネルギーを気道壁に通電加熱することで、肥厚した気道平滑筋を減らし、喘息症状の改善、増悪減少をはかる。			
医療技術名	大動脈ステントグラフト治療	取扱患者数	106
当該医療技術の概要 胸部および腹部大動脈瘤に対して、開胸や開腹を行うことなく血管内治療ができる。			
医療技術名	MICS (Minimally Invasive Cardiac Surgery : 低侵襲心臓手術)	取扱患者数	49
当該医療技術の概要 ①僧帽弁疾患 ②大動脈弁疾患 ③先天性心疾患 ④不整脈 に対し、小切開により直視下またはVideo Assist下で低侵襲に心臓手術を行う。			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁移植術 (TAVI)	取扱患者数	152
当該医療技術の概要 超高齢者や人工心肺を用いた手術に耐術困難なハイリスク大動脈弁狭窄症に対して、開胸や人工心肺を用いず、カテーテル的に大動脈弁位に人工弁を移植できる。			
医療技術名	ロボット支援下僧帽弁形成術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 ダビンチ支援下による僧帽弁形成を行う低侵襲手術。			
医療技術名	糖脂質抗体(抗ガングリオシド抗体)および糖脂質複合体抗体の測定	取扱患者数	2622
当該医療技術の概要 ギラン・バレー症候群をはじめとする免疫性末梢神経障害の原因抗体である抗糖脂質抗体を測定している。糖脂質複合体抗体は、当院当科オリジナルの抗体であり、独自の手段で測定を行っている。全国の医療機関から依頼を受けており、件数は年間2500件以上である。			
医療技術名	神経変性疾患の遺伝子検査	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 脊髄小脳変性症、筋委縮性側索硬化症(ALS)などの神経変性疾患の原因遺伝子の検査を行っている。特 に、近年ALSの発症関連遺伝子が次々と明らかになり、特に若年発症ALSとの関連が示唆されている。また、 臨床遺伝専門医による診療も行っている。			
医療技術名	パーキンソン病の酸化DJ-1測定	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 DJ-1はパーキンソン病の原因遺伝子のひとつであり、パーキンソン病発症と関連が示唆されている。赤血 球膜の酸化DJ-1が未治療のパーキンソン病で上昇するとの報告があり、補助診断としての応用を検討している。			
医療技術名	脊髄小脳変性症に対する新規治療薬の開発	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 家族性脊髄小脳変性症における蛋白質凝集阻害効果を持つ新規治療薬の開発を行っている。			
医療技術名	直腸癌に対するロボット支援下手術	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 直腸癌に対して、Da Vinciシステムを用いたロボット支援下の直腸切除術を行っている			
医療技術名	結腸癌に対するロボット支援下手術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 結腸癌に対して、Da Vinciシステムを用いたロボット支援下の結腸切除術を行っている			
医療技術名	直腸癌に対する経肛門的内視鏡手術(TaTME)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 通常の内視鏡的アプローチでは視野の確保が困難が予測されるサイズの大きな直腸癌に対して、経肛門的・会陰的にア プローチするTaTMEを行っている。			

医療技術名	局所直腸癌に対する術前治療(Total Neoadjuvant Therapy)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
局所進行直腸癌に対して術前放射線化学療法及び術前化学療法の両者を導入し、その後に根治切除術を行うことにより、そのまま手術を行う場合やどちらか一方のみの前治療後に手術を行う場合よりも高い根治性が得られる可能性がある。			
医療技術名	ICG蛍光イメージングを用いた大腸癌に対するナビゲーション手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
大腸癌に対する標準手術であるD3郭清は、癌の栄養血管にそうリンパ流・リンパ節を切除することである。症例毎にリンパ流を可視化することができれば、個々の症例毎に最適な郭清範囲を特定することができる可能性がある。			
医療技術名	未熟児網膜症に対する網膜硝子体手術	取扱患者数	44
当該医療技術の概要			
未熟児網膜症に対するVEGFを用いた治療			
医療技術名	両眼開放視野計による視野検査	取扱患者数	600
当該医療技術の概要			
社会的失明の1位である緑内障の早期診断を目指し、当教室が中心となって開発した医療機器で、検査場所を選ばず精度の高い視野検査を可能とする			
医療技術名	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等により、広範囲な顎骨欠損若しくは歯槽骨欠損症例に対して、人工的構造物のインプラント体を埋入し、咀嚼機能を回復する手術			
医療技術名	PET/CT simulation	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
PET/CTの画像を用いて放射線治療計画を行う高精度治療計画法			
医療技術名	神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体核医学内用療法	取扱患者数	58
当該医療技術の概要			
ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対し、ルテチウムオキシドレオチド(177Lu)を用いて、体内からがん細胞を直接放射線治療を行う			
医療技術名	脳タウPET	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
アルツハイマー病他タウが原因とされる疾患においてタウタンパクの脳への沈着をPETにより生体で画像化できる検査			
医療技術名	ASD閉鎖術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
心房中隔欠損症を有する患者に対し、開心術を行わずにカテーテルで欠損孔を閉鎖する。			
医療技術名	胎児心エコー検査	取扱患者数	230
当該医療技術の概要			
高機能を有する胎児心エコー装置を使用し、胎児心臓病を正確に診断する。さらに、心臓病を有する胎児の予後予測と出生時に必要な予後を改善する治療を準備する。			
医療技術名	胎児心臓遠隔診断	取扱患者数	270
当該医療技術の概要			
専門的知識と技術が必要な胎児心臓病の診断を最新の遠隔装置を使用し、地域医療に専門的スキルを提供する。			
医療技術名	先天性疾患のカテーテル治療	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
従来外科手術を行っていた動脈管開存t心房中隔欠損に対して専用のデバイスで閉鎖する治療。外科治療と異なり侵襲が少なく、胸部に傷を残さない治療			

医療技術名	組織学的、臨床学的重症IgA腎症に対するミゾリビン治療	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 組織学的、臨床学的重症IgA腎症に対し、年齢や体重に応じ、投与量を調節したミゾリビン治療を行っている。			
医療技術名	小児難治性頻回再発型ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 小児難治性/頻回再発型ネフローゼ症候群に対し、リツキシマブ投与をおこなっている。			
医療技術名	小児難治性若年性特発性関節炎 (RF陽性多関節型JIA) に対するトシリズマブ治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 小児難治性若年性特発性関節炎 (RF陽性多関節型JIA) でメントレキセート治療で改善が困難な症例に対し、トシリズマブ治療を行っている。			
医療技術名	頻回再発型ネフローゼ症候群に対するミゾリビン治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 年齢や体重に応じ、投与量を調節し、小児頻回再発型ネフローゼ症候群に対するミゾリビン経口投与を行っている。			
医療技術名	Brau症候群に対するメントレキセート治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 Brau症候群患者における難治性関節炎に対するメントレキセート治療を行っている。			
医療技術名	進行性固形がん患者を対象にバイオマーカーを評価することを目的としたMK-3475の臨床試験 (KEYNOTE-158)	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 進行性固形がん患者を対象にバイオマーカーを評価することを目的としたMK-3475の臨床試験 (KEYNOTE-158)			
医療技術名	An Open-Label, Multicenter, Global Phase 2 Basket Study of Entrectinib for the Treatment of Patients with Locally Advanced or Metastatic Solid Tumors that Harbor NTRK1/2/3, ROS1, or ALK Gene Rearrangements NTRK1/2/3, ROS1 又はALK 遺伝子再構成陽性の局所進行又は遠隔転移を有する固形癌患者を対象としたentrectinib の非盲検、多施設共同、第2相国際共同バスケット試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 An Open-Label, Multicenter, Global Phase 2 Basket Study of Entrectinib for the Treatment of Patients with Locally Advanced or Metastatic Solid Tumors that Harbor NTRK1/2/3, ROS1, or ALK Gene Rearrangements NTRK1/2/3, ROS1 又はALK 遺伝子再構成陽性の局所進行又は遠隔転移を有する固形癌患者を対象としたentrectinib の非盲検、多施設共同、第2相国際共同バスケット試験			
医療技術名	ALK 陽性進行非小細胞肺癌患者を対象に、1次治療としてLORLATINIB (PF-06463922) 単剤療法とクリゾチニブ単剤療法を比較する第3相、無作為化、非盲検試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 ALK 陽性進行非小細胞肺癌患者を対象に、1次治療としてLORLATINIB (PF-06463922) 単剤療法とクリゾチニブ単剤療法を比較する第3相、無作為化、非盲検試験			
医療技術名	治療歴のない切除不能進行性、再発又は転移性の食道扁平上皮がん患者を対象に、ニボルマブとイピリムマブの併用療法又はニボルマブとフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法をフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法と比較する無作為化第Ⅲ相試験	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 治療歴のない切除不能進行性、再発又は転移性の食道扁平上皮がん患者を対象に、ニボルマブとイピリムマブの併用療法又はニボルマブとフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法をフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法と比較する無作為化第Ⅲ相試験			

医療技術名	ステージⅣの非小細胞肺癌(NSCLC)を対象とした、一次治療としてのニボルマブ＋イピリムマブと化学療法との併用療法を、化学療法単独と比較する第Ⅲ相ランダム化試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 ステージⅣの非小細胞肺癌(NSCLC)を対象とした、一次治療としてのニボルマブ＋イピリムマブと化学療法との併用療法を、化学療法単独と比較する第Ⅲ相ランダム化試験			
医療技術名	同時化学放射線療法の施行後に進行が認められていない限局型小細胞肺癌の患者を対象として、デュルバルマブ単剤療法又はデュルバルマブとトレメリマブの併用療法を実施する第3相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験(ADRIATIC)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 同時化学放射線療法の施行後に進行が認められていない限局型小細胞肺癌の患者を対象として、デュルバルマブ単剤療法又はデュルバルマブとトレメリマブの併用療法を実施する第3相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験(ADRIATIC)			
医療技術名	HER2陽性進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした1次治療としてのトラスツズマブ＋化学療法＋MK-3475療法をトラスツズマブ＋化学療法＋プラセボ療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験(KEYNOTE-811)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 HER2陽性進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした1次治療としてのトラスツズマブ＋化学療法＋MK-3475療法をトラスツズマブ＋化学療法＋プラセボ療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験(KEYNOTE-811)			
医療技術名	白金製剤を含む根治的放射線療法後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能EGFR変異陽性非小細胞肺癌(ステージⅢ)患者を対象とした、維持療法としてのオシメルチニブの第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験(LAURA)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 白金製剤を含む根治的放射線療法後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能EGFR変異陽性非小細胞肺癌(ステージⅢ)患者を対象とした、維持療法としてのオシメルチニブの第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験(LAURA)			
医療技術名	A PHASE 3, MULTICENTER, RANDOMIZED, OPEN-LABEL, ACTIVE-CONTROLLED STUDY OF TRASTUZUMAB DERUXTECAN (DS 8201A), AN ANTI-HER2-ANTIBODY DRUG CONJUGATE, VERSUS TREATMENT OF INVESTIGATOR'S CHOICE FOR HER2-POSITIVE, UNRESECTABLE AND/OR METASTATIC BREAST CANCER SUBJECTS PREVIOUSLY TREATED WITH DM1(DESTINY-Breast02)T-DM1治療歴のあるHER2陽性切除不能及び／又は転移性乳癌患者を対象として抗HER2抗体薬物複合体であるトラスツズマブ・デルクステカン(DS-8201a)を医師選択治療と比較検討する多施設共同無作為化非盲検実薬対照第Ⅲ相試験(DESTINY-Breast02)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 A PHASE 3, MULTICENTER, RANDOMIZED, OPEN-LABEL, ACTIVE-CONTROLLED STUDY OF TRASTUZUMAB DERUXTECAN (DS 8201A), AN ANTI-HER2-ANTIBODY DRUG CONJUGATE, VERSUS TREATMENT OF INVESTIGATOR'S CHOICE FOR HER2-POSITIVE, UNRESECTABLE AND/OR METASTATIC BREAST CANCER SUBJECTS PREVIOUSLY TREATED WITH DM1(DESTINY-Breast02)T-DM1治療歴のあるHER2陽性切除不能及び／又は転移性乳癌患者を対象として抗HER2抗体薬物複合体であるトラスツズマブ・デルクステカン(DS-8201a)を医師選択治療と比較検討する多施設共同無作為化非盲検実薬対照第Ⅲ相試験(DESTINY-Breast02)			
医療技術名	RET融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌、甲状腺髄様癌、及びRET活性が亢進したその他の癌を含む進行固形癌患者を対象としたLOXO-292経口剤の第Ⅰ/Ⅱ相試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 RET融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌、甲状腺髄様癌、及びRET活性が亢進したその他の癌を含む進行固形癌患者を対象としたLOXO-292経口剤の第Ⅰ/Ⅱ相試験			

医療技術名	A Multicenter, Open-Label Phase 1 Study of U3-1402 in Subjects with Metastatic or Unresectable Non-Small Cell Lung Cancer 転移性又は切除不能な非小細胞肺癌患者を対象としたU3-1402の多施設共同非盲検第I相試験	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 A Multicenter, Open-Label Phase 1 Study of U3-1402 in Subjects with Metastatic or Unresectable Non-Small Cell Lung Cancer 転移性又は切除不能な非小細胞肺癌患者を対象としたU3-1402の多施設共同非盲検第I相試験			
医療技術名	A Phase II, two arm study to investigate tepotinib combined with osimertinib in MET amplified, advanced or metastatic non-small cell lung cancer (NSCLC) harboring activating EGFR mutations and having acquired resistance to priorosimertinib therapy (INSIGHT 2 Study) オシメルチニブ前治療に耐性となった活性型EGFR変異、MET増幅を有する進行性又は転移性非小細胞肺癌 (NSCLC) を対象にテポチニブとオシメルチニブ併用療法を検討する、2群、第II相試験 (INSIGHT 2)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 A Phase II, two arm study to investigate tepotinib combined with osimertinib in MET amplified, advanced or metastatic non-small cell lung cancer (NSCLC) harboring activating EGFR mutations and having acquired resistance to priorosimertinib therapy (INSIGHT 2 Study) オシメルチニブ前治療に耐性となった活性型EGFR変異、MET増幅を有する進行性又は転移性非小細胞肺癌 (NSCLC) を対象にテポチニブとオシメルチニブ併用療法を検討する、2群、第II相試験 (INSIGHT 2)			
医療技術名	A Phase II Study Assessing the Efficacy of Osimertinib in Combination with Savolitinib in Patients with EGFRm+ and MET+, Locally Advanced or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer who have Progressed Following Treatment with Osimertinib (The SAVANNAH Study) オシメルチニブ投与後病勢進行したEGFRm+及びMET+局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にオシメルチニブとAZD6094を併用した際の有効性を検討する第II相試験 (SAVANNAH 試験)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 A Phase II Study Assessing the Efficacy of Osimertinib in Combination with Savolitinib in Patients with EGFRm+ and MET+, Locally Advanced or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer who have Progressed Following Treatment with Osimertinib (The SAVANNAH Study) オシメルチニブ投与後病勢進行したEGFRm+及びMET+局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にオシメルチニブとAZD6094を併用した際の有効性を検討する第II相試験 (SAVANNAH 試験)			
医療技術名	進展型小細胞肺癌の未治療患者を対象にベバシズマブ+アテゾリズマブ+カルボプラチン又はシスプラチン+エトポシドの併用とプラセボ+アテゾリズマブ+カルボプラチン又はシスプラチン+エトポシドの併用を比較する第III相二重盲検ランダム化試験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 進展型小細胞肺癌の未治療患者を対象にベバシズマブ+アテゾリズマブ+カルボプラチン又はシスプラチン+エトポシドの併用とプラセボ+アテゾリズマブ+カルボプラチン又はシスプラチン+エトポシドの併用を比較する第III相二重盲検ランダム化試験			
医療技術名	前治療歴がありCEACAM5陽性腫瘍を有する転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象にSAR408701をドセタキセルと比較する、ランダム化、非盲検、第III相試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 前治療歴がありCEACAM5陽性腫瘍を有する転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象にSAR408701をドセタキセルと比較する、ランダム化、非盲検、第III相試験			
医療技術名	MK-3475を用いた治験で治療中又はフォローアップ中の患者を対象に、長期の安全性及び有効性を評価する多施設共同非盲検第III相試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 MK-3475を用いた治験で治療中又はフォローアップ中の患者を対象に、長期の安全性及び有効性を評価する多施設共同非盲検第III相試験			

医療技術名	PD-L1で選択した、未治療の局所進行切除不能又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にTiragolumab (抗TIGIT 抗体)+アテゾリズマブを、プラセボ+アテゾリズマブと比較する、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照第Ⅲ相臨床試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 PD-L1で選択した、未治療の局所進行切除不能又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にTiragolumab (抗TIGIT 抗体)+アテゾリズマブを、プラセボ+アテゾリズマブと比較する、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照第Ⅲ相臨床試験			
医療技術名	日本人非小細胞肺癌患者を対象とした経口EGFR/HER2阻害薬TAK-788の第1/2相試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 日本人非小細胞肺癌患者を対象とした経口EGFR/HER2阻害薬TAK-788の第1/2相試験			
医療技術名	PD-L1陽性の再発又は転移性頭頸部扁平上皮癌 (R/M HNSCC) 患者を対象に1次治療としてペムブロリズマブ (MK-3475) とレンバチニブ (E7080/MK-7902) 併用療法の有効性及び安全性をペムブロリズマブ単独療法と比較する無作為化プラセボ対照二重盲検第Ⅲ相試験 (LEAP-010 試験)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 PD-L1陽性の再発又は転移性頭頸部扁平上皮癌 (R/M HNSCC) 患者を対象に1次治療としてペムブロリズマブ (MK-3475) とレンバチニブ (E7080/MK-7902) 併用療法の有効性及び安全性をペムブロリズマブ単独療法と比較する無作為化プラセボ対照二重盲検第Ⅲ相試験 (LEAP-010 試験)			
医療技術名	HER2陰性の切除不能又は転移性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした一次治療としてのMK-3475と化学療法の併用療法とプラセボと化学療法を比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験 (KEYNOTE-859)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 HER2陰性の切除不能又は転移性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした一次治療としてのMK-3475と化学療法の併用療法とプラセボと化学療法を比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験 (KEYNOTE-859)			
医療技術名	進行又は転移性RET 融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の初回治療として selpercatinib をペムブロリズマブ併用あり/なしの白金製剤及びペメトレキセド療法と比較する多施設共同・無作為化・非盲検第Ⅲ相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 進行又は転移性RET 融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の初回治療として selpercatinib をペムブロリズマブ併用あり/なしの白金製剤及びペメトレキセド療法と比較する多施設共同・無作為化・非盲検第Ⅲ相試験			
医療技術名	EGFR 変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象として一次治療としてのアミバンタマブとラゼルチニブの併用, オシメルチニブ, 及びラゼルチニブを比較する第3 相ランダム化試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 EGFR 変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象として一次治療としてのアミバンタマブとラゼルチニブの併用, オシメルチニブ, 及びラゼルチニブを比較する第3 相ランダム化試験			
医療技術名	固形がん患者を対象としたE7389リポソーム製剤及びニボルマブ併用の非盲検第1b/2相試験	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 固形がん患者を対象としたE7389リポソーム製剤及びニボルマブ併用の非盲検第1b/2相試験			
医療技術名	BMS 主導によるニボルマブ及びその他のがん治療薬の臨床試験に参加したがん患者のがん種横断的長期投与試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 BMS 主導によるニボルマブ及びその他のがん治療薬の臨床試験に参加したがん患者のがん種横断的長期投与試験			
医療技術名	HERTHENA-Lung01: A Phase 2 Randomized Open-Label Study of Patritumab Deruxtecan (U3-1402) in Subjects with Previously Treated Metastatic or Locally Advanced EGFR-mutated Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC)HERTHENA-Lung01: 既治療の転移又は局所進行EGFR 変異陽性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象としたpatritumab deruxtecan (U3-1402) の第Ⅱ相ランダム化非盲検試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 HERTHENA-Lung01: A Phase 2 Randomized Open-Label Study of Patritumab Deruxtecan (U3-1402) in Subjects with Previously Treated Metastatic or Locally Advanced EGFR-mutated Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC)HERTHENA-Lung01: 既治療の転移又は局所進行EGFR 変異陽性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象としたpatritumab deruxtecan (U3-1402) の第Ⅱ相ランダム化非盲検試験			

医療技術名	A Phase 1 Open-Label Study of HER3-DXd(Patritumab Deruxtecan;U3-1402) in Combination with Osimertinib in Subjects with Locally Advanced or Metastatic EGFR-mutated Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC)局所進行又は転移性EGFR変異陽性非小細胞肺癌 (NSCLC)患者を対象としたHER3-DXd(パトリツマブデルクステカン;U3-1402)とオシメルチニブの併用療法の第I相非盲検	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 A Phase 1 Open-Label Study of HER3-DXd(Patritumab Deruxtecan;U3-1402) in Combination with Osimertinib in Subjects with Locally Advanced or Metastatic EGFR-mutated Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC)局所進行又は転移性EGFR変異陽性非小細胞肺癌 (NSCLC)患者を対象としたHER3-DXd(パトリツマブデルクステカン;U3-1402)とオシメルチニブの併用療法の第I相非盲検			
医療技術名	未治療の局所進行非小細胞肺癌 (LA NSCLC)患者を対象とした、ニボルマブと同時化学放射線療法 (CCRT) 後のニボルマブとイピリムマブの併用投与、又はニボルマブとCCRT 後のニボルマブの単独投与を、CCRT 後のデュルバルマブの投与と比較するランダム化オープンラベル第III相臨床試験	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 未治療の局所進行非小細胞肺癌 (LA NSCLC)患者を対象とした、ニボルマブと同時化学放射線療法 (CCRT) 後のニボルマブとイピリムマブの併用投与、又はニボルマブとCCRT 後のニボルマブの単独投与を、CCRT 後のデュルバルマブの投与と比較するランダム化オープンラベル第III相臨床試験			
医療技術名	進行又は転移性胃食道腺癌患者を対象に、一次治療としてレンバチニブ (E7080/MK-7902) + ペムプロリズマブ (MK-3475) + 化学療法の有効性及び安全性を標準治療と比較する無作為化第III相試験 (LEAP-015)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 進行又は転移性胃食道腺癌患者を対象に、一次治療としてレンバチニブ (E7080/MK-7902) + ペムプロリズマブ (MK-3475) + 化学療法の有効性及び安全性を標準治療と比較する無作為化第III相試験 (LEAP-015)			
医療技術名	固形癌患者を対象とした安全性、忍容性及び有効性を評価するTAS-120 (Futibatinib) /MK-3475 (ペムプロリズマブ) 併用療法の臨床第1b相試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 固形癌患者を対象とした安全性、忍容性及び有効性を評価するTAS-120 (Futibatinib) /MK-3475 (ペムプロリズマブ) 併用療法の臨床第1b相試験			
医療技術名	A Phase 3, Multicenter, Randomized, Open-Label, Active-Controlled Study of Trastuzumab Deruxtecan (T-DXd) Versus Trastuzumab Emtansine (T-DM1) in Subjects with High-Risk HER2-Positive Primary Breast Cancer Who Have Residual Invasive Disease in Breast or Axillary Lymph Nodes Following Neoadjuvant Therapy 術前療法後に乳房あるいは腋窩リンパ節に浸潤性残存病変を有する高リスクHER2陽性乳癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカン (T-DXd) とトラスツズマブ エムタンシン (T-DM1) を比較する多施設共同無作為化非盲検第III相試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 A Phase 3, Multicenter, Randomized, Open-Label, Active-Controlled Study of Trastuzumab Deruxtecan (T-DXd) Versus Trastuzumab Emtansine (T-DM1) in Subjects with High-Risk HER2-Positive Primary Breast Cancer Who Have Residual Invasive Disease in Breast or Axillary Lymph Nodes Following Neoadjuvant Therapy 術前療法後に乳房あるいは腋窩リンパ節に浸潤性残存病変を有する高リスクHER2陽性乳癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカン (T-DXd) とトラスツズマブ エムタンシン (T-DM1) を比較する多施設共同無作為化非盲検第III相試験			
医療技術名	A PHASE III, OPEN-LABEL, RANDOMIZED STUDY OF ATEZOLIZUMAB AND TIRAGOLUMAB COMPARED WITH DURVALUMAB IN PATIENTS WITH LOCALLY ADVANCED, UNRESECTABLE STAGE III NON-SMALL CELL LUNG CANCER WHO HAVE NOT PROGRESSED AFTER CONCURRENT PLATINUM-BASED CHEMORADIATION (SKYSCRAPER-03)プラチナ製剤併用同時化学放射線療法後に病勢進行が認められない切除不能局所進行III期非小細胞肺癌患者を対象に、アテゾリズマブ + Tiragolumabをデュルバルマブと比較する、非盲検、ランダム化第III相臨床試験 (SKYSCRAPER-03)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 A PHASE III, OPEN-LABEL, RANDOMIZED STUDY OF ATEZOLIZUMAB AND TIRAGOLUMAB COMPARED WITH DURVALUMAB IN PATIENTS WITH LOCALLY ADVANCED, UNRESECTABLE STAGE III NON-SMALL CELL LUNG CANCER WHO HAVE NOT PROGRESSED AFTER CONCURRENT PLATINUM-BASED CHEMORADIATION (SKYSCRAPER-03)プラチナ製剤併用同時化学放射線療法後に病勢進行が認められない切除不能局所進行III期非小細胞肺癌患者を対象に、アテゾリズマブ + Tiragolumabをデュルバルマブと比較する、非盲検、ランダム化第III相臨床試験 (SKYSCRAPER-03)			

医療技術名	HER2過剰発現の切除不能進行再発大腸癌の患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同、ランダム化、第II相試験 (DESTINY-CRC02)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 HER2過剰発現の切除不能進行再発大腸癌の患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同、ランダム化、第II相試験 (DESTINY-CRC02)			
医療技術名	PHASE 3 RANDOMIZED STUDY OF DS-1062A VERSUS DOCETAXEL IN PREVIOUSLY TREATED ADVANCED OR METASTATIC NON-SMALL CELL LUNG CANCER WITH OR WITHOUT ACTIONABLE GENOMIC ALTERATIONS(TROPION-LUNG01)Actionable遺伝子変異の有無を問わず、治療歴のある進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDS-1062aとドセタキセルを比較する無作為化第III相試験 (TROPION-Lung01)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 PHASE 3 RANDOMIZED STUDY OF DS-1062A VERSUS DOCETAXEL IN PREVIOUSLY TREATED ADVANCED OR METASTATIC NON-SMALL CELL LUNG CANCER WITH OR WITHOUT ACTIONABLE GENOMIC ALTERATIONS(TROPION-LUNG01)Actionable遺伝子変異の有無を問わず、治療歴のある進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDS-1062aとドセタキセルを比較する無作為化第III相試験 (TROPION-Lung01)			
医療技術名	Phase 2, Single-arm, Open-label Study of DS-1062a in Advanced or Metastatic Non-small Cell Lung Cancer with Actionable Genomic Alterations and Progressed On or After Applicable Targeted Therapy and Platinum-based Chemotherapy (TROPION-Lung05)Actionable 遺伝子変異があり、標的療法及びプラチナ製剤ベースの化学療法による治療中あるいは治療後に疾患進行が認められた進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDS-1062a の非盲検、単一用量第II相試験 (TROPION-Lung05)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 Phase 2, Single-arm, Open-label Study of DS-1062a in Advanced or Metastatic Non-small Cell Lung Cancer with Actionable Genomic Alterations and Progressed On or After Applicable Targeted Therapy and Platinum-based Chemotherapy (TROPION-Lung05)Actionable 遺伝子変異があり、標的療法及びプラチナ製剤ベースの化学療法による治療中あるいは治療後に疾患進行が認められた進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDS-1062a の非盲検、単一用量第II相試験 (TROPION-Lung05)			
医療技術名	A Phase 3, Multicenter, 2-Arm Randomized, Open-Label Study of Trastuzumab Deruxtecan in Subjects with HER2-Positive Metastatic and/or Unresectable Gastric or Gastro-Esophageal Junction (GEJ) Adenocarcinoma Subjects who have Progressed on or After a Trastuzumab-Containing Regimen (DESTINY-Gastric04)トラスツズマブを含むレジメンの治療中又は治療後に増悪が認められたHER2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃腺癌又は胃食道接合部腺癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同2群無作為化非盲検第III相試験(DESTINY-Gastric04)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 A Phase 3, Multicenter, 2-Arm Randomized, Open-Label Study of Trastuzumab Deruxtecan in Subjects with HER2-Positive Metastatic and/or Unresectable Gastric or Gastro-Esophageal Junction (GEJ) Adenocarcinoma Subjects who have Progressed on or After a Trastuzumab-Containing Regimen (DESTINY-Gastric04)トラスツズマブを含むレジメンの治療中又は治療後に増悪が認められたHER2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃腺癌又は胃食道接合部腺癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同2群無作為化非盲検第III相試験(DESTINY-Gastric04)			
医療技術名	前治療中若しくは前治療後に進行した又は前治療に不耐容となった転移性結腸・直腸癌患者を対象にレンバチニブとペムブロリズマブの併用療法を標準治療と比較する無作為化第III相試験 (LEAP-017試験)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 前治療中若しくは前治療後に進行した又は前治療に不耐容となった転移性結腸・直腸癌患者を対象にレンバチニブとペムブロリズマブの併用療法を標準治療と比較する無作為化第III相試験 (LEAP-017試験)			
医療技術名	A Phase 2 Basket Study of Tucatinib in Combination with Trastuzumab in Subjects with Previously Treated, Locally-Advanced Unresectable or Metastatic Solid Tumors Driven by HER2 AlterationsHER2異常による固形癌で、局所進行性、切除不能又は転移性であり、治療歴を有する被験者を対象とした、Tucatinib及びトラスツズマブの併用療法第2相バスケット試験	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 A Phase 2 Basket Study of Tucatinib in Combination with Trastuzumab in Subjects with Previously Treated, Locally-Advanced Unresectable or Metastatic Solid Tumors Driven by HER2 AlterationsHER2異常による固形癌で、局所進行性、切除不能又は転移性であり、治療歴を有する被験者を対象とした、Tucatinib及びトラスツズマブの併用療法第2相バスケット試験			

医療技術名	未治療のPD-L1陽性の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、MK-7684及びMK-3475の配合剤(MK-7684A)をMK-3475単独療法と比較する多施設共同無作為化二重盲検第Ⅲ相試験(KEYVIBE-003)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 未治療のPD-L1陽性の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、MK-7684及びMK-3475の配合剤(MK-7684A)をMK-3475単独療法と比較する多施設共同無作為化二重盲検第Ⅲ相試験(KEYVIBE-003)			
医療技術名	A Phase 3, Randomized, Multi-center, Open-label Study of Trastuzumab Deruxtecan (T-DXd) Versus Investigator's Choice Chemotherapy in HER2-low, Hormone Receptor Positive Breast Cancer Patients whose Disease has Progressed on Endocrine Therapy in the Metastatic Setting (DESTINY-Breast06)HER2低発現ホルモン受容体陽性の転移性乳癌に対する内分泌療法で病勢進行が認められた乳癌患者を対象としてトラスツズマブ デルクステカン(T-DXd)と医師選択化学療法を比較検討する多施設共同無作為化非盲検第Ⅲ相試験(DESTINY-Breast06)	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 A Phase 3, Randomized, Multi-center, Open-label Study of Trastuzumab Deruxtecan (T-DXd) Versus Investigator's Choice Chemotherapy in HER2-low, Hormone Receptor Positive Breast Cancer Patients whose Disease has Progressed on Endocrine Therapy in the Metastatic Setting (DESTINY-Breast06)HER2低発現ホルモン受容体陽性の転移性乳癌に対する内分泌療法で病勢進行が認められた乳癌患者を対象としてトラスツズマブ デルクステカン(T-DXd)と医師選択化学療法を比較検討する多施設共同無作為化非盲検第Ⅲ相試験(DESTINY-Breast06)			
医療技術名	局所進行性又は転移性の悪性固形癌患者を対象としたEnfortumab Vedotinを評価する非盲検、多施設共同、複数コホート第2相試験(EV-202)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 局所進行性又は転移性の悪性固形癌患者を対象としたEnfortumab Vedotinを評価する非盲検、多施設共同、複数コホート第2相試験(EV-202)			
医療技術名	BRAF V600E 遺伝子変異を有する転移性結腸・直腸癌患者を対象に、安全性導入期として化学療法、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法を評価し、その後、一次治療として化学療法の併用または非併用下で、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法と標準治療を比較する非盲検、多施設共同、無作為化第3相試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 BRAF V600E 遺伝子変異を有する転移性結腸・直腸癌患者を対象に、安全性導入期として化学療法、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法を評価し、その後、一次治療として化学療法の併用または非併用下で、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法と標準治療を比較する非盲検、多施設共同、無作為化第3相試験			
医療技術名	ROS1融合遺伝子陽性の進行または転移性非小細胞肺癌およびその他の固形腫瘍患者を対象にTaletrectinibの有効性及び安全性を評価する単群、非盲検、多施設共同、第2相試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 ROS1融合遺伝子陽性の進行または転移性非小細胞肺癌およびその他の固形腫瘍患者を対象にTaletrectinibの有効性及び安全性を評価する単群、非盲検、多施設共同、第2相試験			
医療技術名	進展型小細胞肺癌の一次治療としてBMS-986012とカルボプラチン、エトポシド及びニボルマブとの併用療法を用いるランダム化オープンラベル第2相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 進展型小細胞肺癌の一次治療としてBMS-986012とカルボプラチン、エトポシド及びニボルマブとの併用療法を用いるランダム化オープンラベル第2相試験			
医療技術名	治療歴を有するPD-L1陽性の転移性結腸・直腸癌患者を対象にMK-4280A(MK-4280とMK-3475の配合剤)を標準療法と比較する第Ⅲ相試験	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 治療歴を有するPD-L1陽性の転移性結腸・直腸癌患者を対象にMK-4280A(MK-4280とMK-3475の配合剤)を標準療法と比較する第Ⅲ相試験			

医療技術名	A Phase 3, Randomized, Double-Blind Study of BGB-A1217, an Anti-TIGIT Antibody, in Combination With Tislelizumab Compared to Pembrolizumab in Patients With Previously Untreated, PD-L1-Selected, and Locally Advanced, Unresectable, or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer PD-L1発現で選定された、未治療の局所進行、切除不能、又は遠隔転移を伴う非小細胞肺癌患者を対象に抗TIGIT抗体BGB-A1217とtislelizumabの併用をペムプロリズマブと比較する第3相無作為化二重盲検試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 Phase 3, Randomized, Double-Blind Study of BGB-A1217, an Anti-TIGIT Antibody, in Combination With Tislelizumab Compared to Pembrolizumab in Patients With Previously Untreated, PD-L1-Selected, and Locally Advanced, Unresectable, or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer PD-L1発現で選定された、未治療の局所進行、切除不能、又は遠隔転移を伴う非小細胞肺癌患者を対象に抗TIGIT抗体BGB-A1217とtislelizumabの併用をペムプロリズマブと比較する第3相無作為化二重盲検試験			
医療技術名	再発性または転移性頭頸部扁平上皮癌患者を対象としてbuparlisib (AN2025)とパクリタキセルの併用投与とパクリタキセル単独投与を比較評価する試験 (BURAN試験)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 再発性または転移性頭頸部扁平上皮癌患者を対象としてbuparlisib (AN2025)とパクリタキセルの併用投与とパクリタキセル単独投与を比較評価する試験 (BURAN試験)			
医療技術名	2ライン以上の前治療を受けた再発又は難治性小細胞肺癌患者を対象としたTarlatabamの有効性、安全性、忍容性及び薬物動態を評価する第II相試験 (DeLLphi-301)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 2ライン以上の前治療を受けた再発又は難治性小細胞肺癌患者を対象としたTarlatabamの有効性、安全性、忍容性及び薬物動態を評価する第II相試験 (DeLLphi-301)			
医療技術名	未治療のFGFR2b過剰発現進行性胃癌又は食道胃接合部癌患者を対象としたBemarituzumabと化学療法の併用投与とプラセボと化学療法の併用投与を比較するランダム化、多施設共同、二重盲検、プラセボ対照、第III相試験 (FORTITUDE 101)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 未治療のFGFR2b過剰発現進行性胃癌又は食道胃接合部癌患者を対象としたBemarituzumabと化学療法の併用投与とプラセボと化学療法の併用投与を比較するランダム化、多施設共同、二重盲検、プラセボ対照、第III相試験 (FORTITUDE 101)			
医療技術名	An Open-label, Randomized, Multicenter, Phase 3 Study to Assess the Efficacy and Safety of Trastuzumab Deruxtecan as First-line Treatment of Unresectable, Locally Advanced, or Metastatic NSCLC Harboring HER2 Exon 19 or 20 Mutations (DESTINY-Lung04) HER2エクソン19又は20変異を有する切除不能、局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一次治療としてのトラスツズマブ デルクステカンの有効性及び安全性を評価する第III相多施設共同無作為化非盲検試験 (DESTINY-Lung04)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 An Open-label, Randomized, Multicenter, Phase 3 Study to Assess the Efficacy and Safety of Trastuzumab Deruxtecan as First-line Treatment of Unresectable, Locally Advanced, or Metastatic NSCLC Harboring HER2 Exon 19 or 20 Mutations (DESTINY-Lung04) HER2エクソン19又は20変異を有する切除不能、局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一次治療としてのトラスツズマブ デルクステカンの有効性及び安全性を評価する第III相多施設共同無作為化非盲検試験 (DESTINY-Lung04)			
医療技術名	A RANDOMIZED PHASE 3 DOUBLE-BLINDED STUDY COMPARING THE EFFICACY AND SAFETY OF NIRAPARIB TO PLACEBO IN PARTICIPANTS WITH EITHER HER2-NEGATIVE BRCA-MUTATED OR TRIPLE-NEGATIVE BREAST CANCER WITH MOLECULAR DISEASE BASED ON PRESENCE OF CIRCULATING TUMOR DNA AFTER DEFINITIVE THERAPY (ZEST) 根治的治療後の血中循環腫瘍由来DNAの存在に基づく分子的疾患を有する、HER2陰性BRCA変異陽性乳癌患者又はトリプルネガティブ乳癌患者を対象とした、ニラパリブの有効性及び安全性をプラセボと比較するランダム化第3相二重盲検試験 (ZEST)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 A RANDOMIZED PHASE 3 DOUBLE-BLINDED STUDY COMPARING THE EFFICACY AND SAFETY OF NIRAPARIB TO PLACEBO IN PARTICIPANTS WITH EITHER HER2-NEGATIVE BRCA-MUTATED OR TRIPLE-NEGATIVE BREAST CANCER WITH MOLECULAR DISEASE BASED ON PRESENCE OF CIRCULATING TUMOR DNA AFTER DEFINITIVE THERAPY (ZEST) 根治的治療後の血中循環腫瘍由来DNAの存在に基づく分子的疾患を有する、HER2陰性BRCA変異陽性乳癌患者又はトリプルネガティブ乳癌患者を対象とした、ニラパリブの有効性及び安全性をプラセボと比較するランダム化第3相二重盲検試験 (ZEST)			

医療技術名	A Phase 1/2 Open-Label Study of Sacituzumab Govitecan in Japanese Patients With Advanced Solid Tumors (ASCENT-J02) 日本人進行固形がん患者を対象としたSacituzumab Govitecan の第1/2 相非盲検臨床試験 (ASCENT-J02)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 A Phase 1/2 Open-Label Study of Sacituzumab Govitecan in Japanese Patients With Advanced Solid Tumors (ASCENT-J02) 日本人進行固形がん患者を対象としたSacituzumab Govitecan の第1/2 相非盲検臨床試験 (ASCENT-J02)			
医療技術名	転移性食道癌患者を対象に1次治療としてのペムプロリズマブ (MK-3475) +レンバチニブ (E7080/MK-7902)+化学療法の有効性及び安全性を標準治療と比較する無作為化第Ⅲ相試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 転移性食道癌患者を対象に1次治療としてのペムプロリズマブ (MK-3475)+レンバチニブ (E7080/MK-7902)+化学療法の有効性及び安全性を標準治療と比較する無作為化第Ⅲ相試験			
医療技術名	体細胞遺伝子変異に基づいた個別化療法 (癌免疫療法及び分子標的療法) のがん種横断的プラットフォーム型第Ⅱ相試験 (TAPISTRY)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 体細胞遺伝子変異に基づいた個別化療法 (癌免疫療法及び分子標的療法) のがん種横断的プラットフォーム型第Ⅱ相試験 (TAPISTRY)			
医療技術名	前治療歴を有するRET融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌患者を対象とした Pralsetinibの第Ⅱ相臨床試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 前治療歴を有するRET融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌患者を対象としたPralsetinibの第Ⅱ相臨床試験			
医療技術名	A Phase 3, Open-label, Randomized Study of Dato-DXd Versus Investigator's Choice of Chemotherapy in Participants With Inoperable or Metastatic Hormone Receptor Positive, HER2 Negative Breast Cancer Who Have Been Treated With One or Two Prior Lines of Systemic Chemotherapy (TROPION Breast01)1~2ラインの全身化学療法歴のある手術不能又は転移性ホルモン受容体陽性、HER2陰性乳癌患者を対象としてDatopotamab Deruxtecan (Dato-DXd)と医師選択化学療法を比較検討する第Ⅲ相非盲検無作為化試験 (TROPION Breast01試験)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 A Phase 3, Open-label, Randomized Study of Dato-DXd Versus Investigator's Choice of Chemotherapy in Participants With Inoperable or Metastatic Hormone Receptor Positive, HER2 Negative Breast Cancer Who Have Been Treated With One or Two Prior Lines of Systemic Chemotherapy (TROPION Breast01)1~2ラインの全身化学療法歴のある手術不能又は転移性ホルモン受容体陽性、HER2陰性乳癌患者を対象としてDatopotamab Deruxtecan (Dato-DXd)と医師選択化学療法を比較検討する第Ⅲ相非盲検無作為化試験 (TROPION Breast01試験)			
医療技術名	A Phase 3 Open-Label, Randomized, Controlled, Global Study of Telisotuzumab Vedotin (ABBV-399) Versus Docetaxel in Subjects with Previously Treated c-Met Overexpressing, EGFR Wildtype, Locally Advanced/Metastatic Non-Squamous Non-Small Cell Lung Cancer治療歴を有するc-Met過剰発現, EGFR野生型, 局所進行性 / 転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象として, Telisotuzumab Vedotin (ABBV-399)とドセタキセルを比較する第Ⅲ相, 非盲検, 無作為化, 比較対照, 国際共同試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 A Phase 3 Open-Label, Randomized, Controlled, Global Study of Telisotuzumab Vedotin (ABBV-399) Versus Docetaxel in Subjects with Previously Treated c-Met Overexpressing, EGFR Wildtype, Locally Advanced/Metastatic Non-Squamous Non-Small Cell Lung Cancer治療歴を有するc-Met過剰発現, EGFR野生型, 局所進行性 / 転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象として, Telisotuzumab Vedotin (ABBV-399)とドセタキセルを比較する第Ⅲ相, 非盲検, 無作為化, 比較対照, 国際共同試験			
医療技術名	A Phase 2, Multicenter, Randomized, Open-label Study of Ifinatamab Deruxtecan (I-DXd), a B7-H3 Antibody Drug Conjugate (ADC), in Subjects with Pretreated Extensive-stage Small Cell Lung Cancer (ES-SCLC) (Ideate-Lung01)前治療歴のある進展型小細胞肺癌 (ES-SCLC) 患者を対象とした、イフィナタマブ デルクステカン (I-DXd) の多施設共同、ランダム化、非盲検、第2相試験 (Ideate-Lung01)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 A Phase 2, Multicenter, Randomized, Open-label Study of Ifinatamab Deruxtecan (I-DXd), a B7-H3 Antibody Drug Conjugate (ADC), in Subjects with Pretreated Extensive-stage Small Cell Lung Cancer (ES-SCLC) (Ideate-Lung01)前治療歴のある進展型小細胞肺癌 (ES-SCLC) 患者を対象とした、イフィナタマブ デルクステカン (I-DXd) の多施設共同、ランダム化、非盲検、第2相試験 (Ideate-Lung01)			

医療技術名	A PHASE 2/3 STUDY OF ALX148 IN PATIENTS WITH ADVANCED HER2-OVEREXPRESSING GASTRIC/GASTROESOPHAGEAL JUNCTION ADENOCARCINOMA (ASPEN-06)HER2過剰発現の進行胃腺癌/食道胃接合部腺癌患者を対象としたALX148の第2/3相試験 (ASPEN-06)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 A PHASE 2/3 STUDY OF ALX148 IN PATIENTS WITH ADVANCED HER2-OVEREXPRESSING GASTRIC/GASTROESOPHAGEAL JUNCTION ADENOCARCINOMA (ASPEN-06)HER2過剰発現の進行胃腺癌/食道胃接合部腺癌患者を対象としたALX148の第2/3相試験 (ASPEN-06)			
医療技術名	FGFR2bを過剰発現している固形癌患者を対象としたBemarituzumab単剤療法の安全性及び有効性を評価する第Ib/II相多施設共同非盲検バスケット試験 (FORTITUDE-301)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 FGFR2bを過剰発現している固形癌患者を対象としたBemarituzumab単剤療法の安全性及び有効性を評価する第Ib/II相多施設共同非盲検バスケット試験 (FORTITUDE-301)			
医療技術名	悪性腫瘍患者を対象にバイオマーカーの状態及び試験参加の適格性を判定するマスタースクリーニング試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 悪性腫瘍患者を対象にバイオマーカーの状態及び試験参加の適格性を判定するマスタースクリーニング試験			
医療技術名	局所進行切除不能III期非小細胞肺癌患者を対象としたバイオマーカーのステータスに応じて選択されたコホートにおける複数の治療の有効性及び安全性を評価する第I-III相多施設共同試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 局所進行切除不能III期非小細胞肺癌患者を対象としたバイオマーカーのステータスに応じて選択されたコホートにおける複数の治療の有効性及び安全性を評価する第I-III相多施設共同試験			
医療技術名	A randomized, double-blind, phase 3 study of tucatinib or placebo in combination with trastuzumab and pertuzumab as maintenance therapy for metastatic HER2+ breast cancer (HER2CLIMB-05)転移性HER2陽性乳癌の維持療法としてtucatinib又はプラセボをトラスツズマブ及びペルツズマブと併用する無作為化、二重盲検、第3相試験 (HER2CLIMB-05)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 A randomized, double-blind, phase 3 study of tucatinib or placebo in combination with trastuzumab and pertuzumab as maintenance therapy for metastatic HER2+ breast cancer (HER2CLIMB-05)転移性HER2陽性乳癌の維持療法としてtucatinib又はプラセボをトラスツズマブ及びペルツズマブと併用する無作為化、二重盲検、第3相試験 (HER2CLIMB-05)			
医療技術名	HERTHENA‐Lung02:A Phase 3, Randomized, Open label Study of Patritumab Deruxtecan Versus Platinum based Chemotherapy in Metastatic or Locally Advanced Epidermal Growth Factor Receptor-mutated (EGFRm) Non small Cell Lung Cancer (NSCLC) After Failure of Epidermal Growth Factor Receptor(EGFR) Tyrosine Kinase Inhibitor (TKI) Therapy (邦訳)HERTHENA‐Lung02: 上皮成長因子受容体(EGFR)チロシンキナーゼ阻害剤(TKI)療法が奏効しなかった転移又は局所進行の上皮成長因子受容体変異陽性(EGFRm)非小細胞肺癌(NSCLC)を対象としたパトリツマブ デルクステカンとプラチナ製剤併用化学療法を比較する第III相無作為化非盲検試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 HERTHENA‐Lung02:A Phase 3, Randomized, Open label Study of Patritumab Deruxtecan Versus Platinum based Chemotherapy in Metastatic or Locally Advanced Epidermal Growth Factor Receptor-mutated (EGFRm) Non small Cell Lung Cancer (NSCLC) After Failure of Epidermal Growth Factor Receptor(EGFR) Tyrosine Kinase Inhibitor (TKI) Therapy (邦訳)HERTHENA‐Lung02: 上皮成長因子受容体(EGFR)チロシンキナーゼ阻害剤(TKI)療法が奏効しなかった転移又は局所進行の上皮成長因子受容体変異陽性(EGFRm)非小細胞肺癌(NSCLC)を対象としたパトリツマブ デルクステカンとプラチナ製剤併用化学療法を比較する第III相無作為化非盲検試験			

医療技術名	A Phase III, Randomised, Open Label Study of Savolitinib in Combination With Osimertinib Versus Platinum Based Doublet Chemotherapy in Participants With EGFR Mutated MET Overexpressed and/or Amplified, Locally Advanced or Metastatic Non Small Cell Lung Cancer Who Have Progressed on Treatment With Osimertinib (SAFFRON)オシメルチニブ投与中に進行したEGFR 変異陽性で MET 過剰発現及び/又は増幅を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に savolitinib とオシメルチニブの併用療法と白金製剤を含む 2 剤併用化学療法を比較する第 III 相無作為化非盲検試験 (SAFFRON)	取扱患者数	6
<p>当該医療技術の概要</p> <p>A Phase III, Randomised, Open Label Study of Savolitinib in Combination With Osimertinib Versus Platinum Based Doublet Chemotherapy in Participants With EGFR Mutated MET Overexpressed and/or Amplified, Locally Advanced or Metastatic Non Small Cell Lung Cancer Who Have Progressed on Treatment With Osimertinib (SAFFRON)オシメルチニブ投与中に進行したEGFR 変異陽性で MET 過剰発現及び/又は増幅を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に savolitinib とオシメルチニブの併用療法と白金製剤を含む 2 剤併用化学療法を比較する第 III 相無作為化非盲検試験 (SAFFRON)</p>			
医療技術名	A randomized, double-blind, placebo-controlled, 2-arm Phase III study to assess efficacy and safety of xevinapant and radiotherapy compared to placebo and radiotherapy for demonstrating improvement of disease-free survival in participants with resected squamous cell carcinoma of the head and neck, who are at high risk for relapse and are ineligible for high-dose cisplatin高用量シスプラチン不適の頭頸部扁平上皮癌術後再発高リスク患者を対象に無病生存期間の改善を実証するため、プラセボ及び放射線療法の併用療法と比較したXevinapant及び放射線療法の併用療法の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、2治療群、第 III相試験	取扱患者数	0
<p>当該医療技術の概要</p> <p>A randomized, double-blind, placebo-controlled, 2-arm Phase III study to assess efficacy and safety of xevinapant and radiotherapy compared to placebo and radiotherapy for demonstrating improvement of disease-free survival in participants with resected squamous cell carcinoma of the head and neck, who are at high risk for relapse and are ineligible for high-dose cisplatin高用量シスプラチン不適の頭頸部扁平上皮癌術後再発高リスク患者を対象に無病生存期間の改善を実証するため、プラセボ及び放射線療法の併用療法と比較したXevinapant及び放射線療法の併用療法の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、2治療群、第III相試験</p>			
医療技術名	FGFR2bを過剰発現している未治療の進行性胃癌及び食道胃接合部癌患者を対象としたbemarituzumabと化学療法及びニボルマブとの併用療法と、化学療法及びニボルマブ併用療法とを比較する第Ib/III相試験 (FORTITUDE-102)	取扱患者数	3
<p>当該医療技術の概要</p> <p>FGFR2bを過剰発現している未治療の進行性胃癌及び食道胃接合部癌患者を対象としたbemarituzumabと化学療法及びニボルマブとの併用療法と、化学療法及びニボルマブ併用療法とを比較する第Ib/III相試験 (FORTITUDE-102)</p>			
医療技術名	プラチナ製剤を用いた化学療法が不適格な高齢の局所進行頭頸部扁平上皮癌患者を対象とした、治験担当医師が選択する放射線単独療法又は放射線とセツキシマブの併用療法のいずれかにNBTRX3 の併用を評価する第 3 相 (ピボタル) 試験	取扱患者数	0
<p>当該医療技術の概要</p> <p>プラチナ製剤を用いた化学療法が不適格な高齢の局所進行頭頸部扁平上皮癌患者を対象とした、治験担当医師が選択する放射線単独療法又は放射線とセツキシマブの併用療法のいずれかにNBTRX3 の併用を評価する第 3 相 (ピボタル) 試験</p>			
医療技術名	Open-Label, Global, Multicenter, Randomized, Phase 3 Study of Sacituzumab Govitecan Versus Docetaxel in Patients With Advanced or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC) With Progression on or After Platinum-Based Chemotherapy and Anti-PD-1/PD-L1 Immunotherapyプラチナ製剤を含む化学療法及び抗PD-1/PD-L1 免疫療法の投与中又は投与後に進行がみられた進行又は転移を有する非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象としてSacituzumab Govitecan をドセタキセルと比較する非盲検、国際多施設共同、無作為化、第3相試験	取扱患者数	8
<p>当該医療技術の概要</p> <p>Open-Label, Global, Multicenter, Randomized, Phase 3 Study of Sacituzumab Govitecan Versus Docetaxel in Patients With Advanced or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC) With Progression on or After Platinum-Based Chemotherapy and Anti-PD-1/PD-L1 Immunotherapyプラチナ製剤を含む化学療法及び抗PD-1/PD-L1 免疫療法の投与中又は投与後に進行がみられた進行又は転移を有する非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象としてSacituzumab Govitecan をドセタキセルと比較する非盲検、国際多施設共同、無作為化、第3相試験</p>			

医療技術名	未治療の進行性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、チラゴルマブ + アテゾリズマブ + ペムトレキセド + カルボプラチン/シスプラチンの併用を、ペムブロリズマブ + ペムトレキセド + カルボプラチン/シスプラチンの併用と比較するランダム化、二重盲検、プラセボ対照第II/III 相臨床試験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 未治療の進行性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、チラゴルマブ + アテゾリズマブ + ペムトレキセド + カルボプラチン/シスプラチンの併用を、ペムブロリズマブ + ペムトレキセド + カルボプラチン/シスプラチンの併用と比較するランダム化、二重盲検、プラセボ対照第II/III 相臨床試験			
医療技術名	プログラム細胞死リガンド 1 で選択した未治療の局所進行/転移性非小細胞肺癌患者を対象とした新規複合免疫療法を評価する、マスタープロトコルを用いた第 II 相、無作為化、非盲検、プラットフォーム試験	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 プログラム細胞死リガンド 1 で選択した未治療の局所進行/転移性非小細胞肺癌患者を対象とした新規複合免疫療法を評価する、マスタープロトコルを用いた第 II 相、無作為化、非盲検、プラットフォーム試験			
医療技術名	A Phase III, Randomised, Open-label, Multicentre, Global Study of Datopotamab Deruxtecan (Dato-DXd) in Combination With Durvalumab and Carboplatin Versus Pembrolizumab in Combination With Platinum-based Chemotherapy for the First-line Treatment of Patients With Locally Advanced or Metastatic NSCLC Without Actionable Genomic Alterations(D926NC00001; AVANZAR)アクションナブルゲノム変化のない局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としての Datopotamab Deruxtecan (Dato-DXd) とデュルバルマブ及びカルボプラチンの併用療法をペムブロリズマブと白金製剤を含む化学療法の併用療法と比較する第III 相、ランダム化、非盲検、多施設国際共同試験 (D926NC00001、AVANZAR)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 A Phase III, Randomised, Open-label, Multicentre, Global Study of Datopotamab Deruxtecan (Dato-DXd) in Combination With Durvalumab and Carboplatin Versus Pembrolizumab in Combination With Platinum-based Chemotherapy for the First-line Treatment of Patients With Locally Advanced or Metastatic NSCLC Without Actionable Genomic Alterations(D926NC00001; AVANZAR)アクションナブルゲノム変化のない局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としての Datopotamab Deruxtecan (Dato-DXd) とデュルバルマブ及びカルボプラチンの併用療法をペムブロリズマブと白金製剤を含む化学療法の併用療法と比較する第III 相、ランダム化、非盲検、多施設国際共同試験 (D926NC00001、AVANZAR)			
医療技術名	進行固形がん患者を対象としたAB122プラットフォーム試験	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 進行固形がん患者を対象としたAB122プラットフォーム試験			
医療技術名	An Open-label Randomized Phase 3 Study of Tucatinib in Combination with Trastuzumab and mFOLFOX6 versus mFOLFOX6 given with or without either Cetuximab or Bevacizumab as First-line Treatment for Subjects with HER2+ Metastatic Colorectal CancerHER2陽性転移性結腸直腸癌被験者を対象に、一次治療としてのトラスツズマブ及びmFOLFOX6併用tucatinibをセツキシマブ若しくはベバシズマブ併用又は非併用mFOLFOX6と比較する非盲検、無作為化、第3相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 An Open-label Randomized Phase 3 Study of Tucatinib in Combination with Trastuzumab and mFOLFOX6 versus mFOLFOX6 given with or without either Cetuximab or Bevacizumab as First-line Treatment for Subjects with HER2+ Metastatic Colorectal CancerHER2陽性転移性結腸直腸癌被験者を対象に、一次治療としてのトラスツズマブ及びmFOLFOX6併用tucatinibをセツキシマブ若しくはベバシズマブ併用又は非併用mFOLFOX6と比較する非盲検、無作為化、第3相試験			

医療技術名	A Phase III, Randomised, Double-blind, Placebo-controlled, Multicentre, International Study of Durvalumab plus Domvanalimab (AB154) in Participants with Locally Advanced (Stage III), Unresectable Non-small Cell Lung Cancer Whose Disease has not Progressed Following Definitive Platinum-based Concurrent Chemoradiation Therapy (PACIFIC-8)白金製剤を含む根治的同時化学放射線療法の施行後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能非小細胞肺癌(III期)患者を対象として、デュルバルマブ+Domvanalimab (AB154)を投与する第III相ランダム化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験 (PACIFIC-8)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 A Phase III, Randomised, Double-blind, Placebo-controlled, Multicentre, International Study of Durvalumab plus Domvanalimab (AB154) in Participants with Locally Advanced (Stage III), Unresectable Non-small Cell Lung Cancer Whose Disease has not Progressed Following Definitive Platinum-based Concurrent Chemoradiation Therapy (PACIFIC-8)白金製剤を含む根治的同時化学放射線療法の施行後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能非小細胞肺癌(III期)患者を対象として、デュルバルマブ+Domvanalimab (AB154)を投与する第III相ランダム化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験 (PACIFIC-8)			
医療技術名	EGFR又はHER2活性化変異を伴う進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてfurmonertinibの安全性、薬物動態及び抗腫瘍効果を評価する第Ib相用量漸増及び用量展開試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 EGFR又はHER2活性化変異を伴う進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてfurmonertinibの安全性、薬物動態及び抗腫瘍効果を評価する第Ib相用量漸増及び用量展開試験			
医療技術名	A Randomized, Open-Label, Multicenter Phase 3 Trial of Domvanalimab, Zimberelimab, and Chemotherapy Versus Nivolumab and Chemotherapy in Participants with Previously Untreated Locally Advanced Unresectable or Metastatic Gastric, Gastroesophageal Junction, and Esophageal Adenocarcinoma.未治療の局所進行切除不能又は転移性の胃腺癌、食道胃接合部腺癌及び食道腺癌患者を対象とした、Domvanalimab、Zimberelimab及び化学療法の併用とニボルマブ及び化学療法の併用とを比較検討するランダム化、非盲検、多施設共同、第3相試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 A Randomized, Open-Label, Multicenter Phase 3 Trial of Domvanalimab, Zimberelimab, and Chemotherapy Versus Nivolumab and Chemotherapy in Participants with Previously Untreated Locally Advanced Unresectable or Metastatic Gastric, Gastroesophageal Junction, and Esophageal Adenocarcinoma.未治療の局所進行切除不能又は転移性の胃腺癌、食道胃接合部腺癌及び食道腺癌患者を対象とした、Domvanalimab、Zimberelimab及び化学療法の併用とニボルマブ及び化学療法の併用とを比較検討するランダム化、非盲検、多施設共同、第3相試験			
医療技術名	PD-L1陽性[Tumor Proportion Score (TPS) >=50%]の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、1次治療としてペムブロリズマブ (MK-3475)+ sacituzumab govitecan の併用療法をMK-3475単独療法と比較する非盲検多施設共同無作為化実薬対照第III相試験 (KEYNOTE D46/EVOKE-03)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 PD-L1陽性[Tumor Proportion Score (TPS) >=50%]の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、1次治療としてペムブロリズマブ (MK-3475)+ sacituzumab govitecan の併用療法をMK-3475単独療法と比較する非盲検多施設共同無作為化実薬対照第III相試験 (KEYNOTE D46/EVOKE-03)			
医療技術名	ERY974の単剤投与によるGPC3陽性の進行固形癌患者を対象とした第I相臨床試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 ERY974の単剤投与によるGPC3陽性の進行固形癌患者を対象とした第I相臨床試験			
医療技術名	上皮成長因子受容体エクソン20挿入変異を伴う局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者に対する一次療法としての Furmonertinibの有効性及び安全性をプラチナ製剤併用化学療法と比較検討する第III相国際多施設共同無作為化非盲検試験 (FURVENT)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 上皮成長因子受容体エクソン20挿入変異を伴う局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者に対する一次療法としての Furmonertinibの有効性及び安全性をプラチナ製剤併用化学療法と比較検討する第III相国際多施設共同無作為化非盲検試験 (FURVENT)			

医療技術名	プラチナ製剤をベースとした一次化学療法後の再発小細胞肺癌患者を対象としてタルラタマブと標準治療を比較するランダム化、非盲検、第III相試験 (DeLLphi-304)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 プラチナ製剤をベースとした一次化学療法後の再発小細胞肺癌患者を対象としてタルラタマブと標準治療を比較するランダム化、非盲検、第III相試験 (DeLLphi-304)			
医療技術名	A Randomized, Multicenter, Phase 3 Study of Zanidatamab in Combination with Chemotherapy with or without Tislelizumab in Subjects with HER2-positive Unresectable Locally Advanced or Metastatic Gastroesophageal Adenocarcinoma (GEA)HER2陽性の切除不能な局所進行性または転移性胃食道腺癌 (GEA) 患者を対象としたチスレリズマブ併用又は非併用下で化学療法と組み合わせたzanidatamabの無作為化、多施設共同、第III相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 A Randomized, Multicenter, Phase 3 Study of Zanidatamab in Combination with Chemotherapy with or without Tislelizumab in Subjects with HER2-positive Unresectable Locally Advanced or Metastatic Gastroesophageal Adenocarcinoma (GEA)HER2陽性の切除不能な局所進行性または転移性胃食道腺癌 (GEA) 患者を対象としたチスレリズマブ併用又は非併用下で化学療法と組み合わせたzanidatamabの無作為化、多施設共同、第III相試験			
医療技術名	An Open label, Multicenter, Phase 1b/2a Study to Evaluate Efficacy, Safety, Tolerability, and Pharmacokinetics of the ATR inhibitor M1774 in Combination with Cemiplimab in Participants with Non-Squamous Non-Small Cell Lung Cancer that has Progressed on Prior Anti-PD-(L)1 and Platinum-based Therapies抗PD-(L)1療法及びプラチナ製剤ベースの前治療で進行した非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、センプリマブ併用下のATR阻害剤Tuvusertib (M1774)の有効性、安全性、忍容性及び薬物動態を評価する非盲検多施設共同第1b/2a相試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 An Open label, Multicenter, Phase 1b/2a Study to Evaluate Efficacy, Safety, Tolerability, and Pharmacokinetics of the ATR inhibitor M1774 in Combination with Cemiplimab in Participants with Non-Squamous Non-Small Cell Lung Cancer that has Progressed on Prior Anti-PD-(L)1 and Platinum-based Therapies抗PD-(L)1療法及びプラチナ製剤ベースの前治療で進行した非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、センプリマブ併用下のATR阻害剤Tuvusertib (M1774)の有効性、安全性、忍容性及び薬物動態を評価する非盲検多施設共同第1b/2a相試験			
医療技術名	DAREON™-5:再発/難治性進展型小細胞肺癌患者及びその他の再発/難治性神経内分泌癌患者を対象にDLL3を標的とするT細胞誘導抗体であるBI 764532を静脈内投与する非盲検、多施設共同、第II相、用量選択試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 DAREON™-5:再発/難治性進展型小細胞肺癌患者及びその他の再発/難治性神経内分泌癌患者を対象にDLL3を標的とするT細胞誘導抗体であるBI 764532を静脈内投与する非盲検、多施設共同、第II相、用量選択試験			
医療技術名	上皮成長因子受容体及び未分化リンパ腫キナーゼ遺伝子変異のない転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一次治療としてのzimberelimab, domvanalimab及び化学療法併用とペムプロリズマブ及び化学療法併用とを比較評価するランダム化、非盲検、第3相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 上皮成長因子受容体及び未分化リンパ腫キナーゼ遺伝子変異のない転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一次治療としてのzimberelimab, domvanalimab及び化学療法併用とペムプロリズマブ及び化学療法併用とを比較評価するランダム化、非盲検、第3相試験			
医療技術名	KRAS p.G12C変異陽性かつPD-L1陰性の臨床病期IIIB/C又はIVの非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてのソトラシブとプラチナダブルレット併用療法の有効性をペムプロリズマブとプラチナダブルレット併用療法と比較評価する第III相、多施設共同、ランダム化、非盲検試験 (CodeBreak 202)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 KRAS p.G12C変異陽性かつPD-L1陰性の臨床病期IIIB/C又はIVの非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてのソトラシブとプラチナダブルレット併用療法の有効性をペムプロリズマブとプラチナダブルレット併用療法と比較評価する第III相、多施設共同、ランダム化、非盲検試験 (CodeBreak 202)			

医療技術名	A Phase III, Randomized, Open-Label, Multicenter, Global Study of Volrustomig (MEDI5752) in Combination with Carboplatin plus Pemetrexed Versus Platinum plus Pemetrexed or Nivolumab plus Ipilimumabin Participants with Unresectable Pleural Mesothelioma (eVOLVE-Meso) 切除不能な胸膜中皮腫患者を対象に volrustomig (MEDI5752) とカルボプラチン+ペメトレキセドとの併用療法をプラチナ製剤+ペメトレキセド又はニボルマブ+イピリムマブと比較する第 III 相ランダム化非盲検国際多施設共同試験 (eVOLVE-Meso)	取扱患者数	7
<p>当該医療技術の概要</p> <p>A Phase III, Randomized, Open-Label, Multicenter, Global Study of Volrustomig (MEDI5752) in Combination with Carboplatin plus Pemetrexed Versus Platinum plus Pemetrexed or Nivolumab plus Ipilimumabin Participants with Unresectable Pleural Mesothelioma (eVOLVE-Meso) 切除不能な胸膜中皮腫患者を対象に volrustomig (MEDI5752) とカルボプラチン+ペメトレキセドとの併用療法をプラチナ製剤+ペメトレキセド又はニボルマブ+イピリムマブと比較する第 III 相ランダム化非盲検国際多施設共同試験 (eVOLVE-Meso)</p>			
医療技術名	同時化学放射線療法後に進行が認められない限局型小細胞肺癌 (LS-SCLC) 患者を対象としたタルラタマブ療法の第III 相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験 (DeLLphi-306)	取扱患者数	2
<p>当該医療技術の概要</p> <p>同時化学放射線療法後に進行が認められない限局型小細胞肺癌 (LS-SCLC) 患者を対象としたタルラタマブ療法の第III 相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験 (DeLLphi-306)</p>			
医療技術名	HER2 陰性で化学療法未治療の治癒切除不能な進行又は再発胃がん (食道胃接合部がんを含む) を有する被験者を対象としたONO-4578、ニボルマブ、並びにフッ化ピリミジン系薬剤及びプラチナ系薬剤の化学療法 (以下、化学療法) の併用療法の有効性及び安全性を、プラセボ、ニボルマブ及び化学療法の併用療法と比較する多施設共同第 II 相無作為化二重盲検比較試験	取扱患者数	1
<p>当該医療技術の概要</p> <p>HER2 陰性で化学療法未治療の治癒切除不能な進行又は再発胃がん (食道胃接合部がんを含む) を有する被験者を対象としたONO-4578、ニボルマブ、並びにフッ化ピリミジン系薬剤及びプラチナ系薬剤の化学療法 (以下、化学療法) の併用療法の有効性及び安全性を、プラセボ、ニボルマブ及び化学療法の併用療法と比較する多施設共同第 II 相無作為化二重盲検比較試験</p>			
医療技術名	An Open-Label, Phase 2b, Global Multicenter Cohort Trial to Assess the Safety and Efficacy of Ziplertinib in Patients with Locally Advanced or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer with Exon 20 Insertion and Uncommon/Single or Compound Epidermal Growth Factor Receptor Mutations 上皮成長因子受容体のエクソン20挿入変異及び Uncommon/Single 又は Compound 変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象とした Ziplertinib の安全性及び有効性を評価する非盲検、国際多施設共同、第2b相試験	取扱患者数	8
<p>当該医療技術の概要</p> <p>An Open-Label, Phase 2b, Global Multicenter Cohort Trial to Assess the Safety and Efficacy of Ziplertinib in Patients with Locally Advanced or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer with Exon 20 Insertion and Uncommon/Single or Compound Epidermal Growth Factor Receptor Mutations 上皮成長因子受容体のエクソン20挿入変異及び Uncommon/Single 又は Compound 変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象とした Ziplertinib の安全性及び有効性を評価する非盲検、国際多施設共同、第2b相試験</p>			
医療技術名	A Phase III, Randomized, Open-Label, Multi-Center, Global Study of Volrustomig (MEDI5752) as Sequential Therapy Versus Observation in Participants with Unresected Locally Advanced Head and Neck Squamous Cell Carcinoma, Who Have Not Progressed Following Definitive Concurrent Chemoradiotherapy (eVOLVE-HNSCC) 根治的同時化学放射線療法後に進行が認められなかった未切除の局所進行頭頸部扁平上皮癌患者を対象に、逐次療法としての volrustomig (MEDI5752) と観察群を比較する第III 相ランダム化非盲検国際多施設共同試験 (eVOLVE-HNSCC)	取扱患者数	1
<p>当該医療技術の概要</p> <p>A Phase III, Randomized, Open-Label, Multi-Center, Global Study of Volrustomig (MEDI5752) as Sequential Therapy Versus Observation in Participants with Unresected Locally Advanced Head and Neck Squamous Cell Carcinoma, Who Have Not Progressed Following Definitive Concurrent Chemoradiotherapy (eVOLVE-HNSCC) 根治的同時化学放射線療法後に進行が認められなかった未切除の局所進行頭頸部扁平上皮癌患者を対象に、逐次療法としての volrustomig (MEDI5752) と観察群を比較する第III 相ランダム化非盲検国際多施設共同試験 (eVOLVE-HNSCC)</p>			

医療技術名	クローディン(CLDN)18.2を発現した転移性又は局所進行性の切除不能な胃腺癌／食道胃接合部(GEJ)腺癌患者を対象とするASP2138の単剤療法及びペムブロリズマブ+mFOLFOX6並びにラムシルマブ+パクリタキセルとの併用療法, 及び転移性又は局所進行性の切除不能な膵腺癌患者を対象とするASP2138の単剤療法及びmFOLFIRINOXとの併用療法の第1/1b相試験	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 クローディン(CLDN)18.2を発現した転移性又は局所進行性の切除不能な胃腺癌／食道胃接合部(GEJ)腺癌患者を対象とするASP2138の単剤療法及びペムブロリズマブ+mFOLFOX6並びにラムシルマブ+パクリタキセルとの併用療法, 及び転移性又は局所進行性の切除不能な膵腺癌患者を対象とするASP2138の単剤療法及びmFOLFIRINOXとの併用療法の第1/1b相試験			
医療技術名	A Phase III, Two-Arm, Parallel, Randomized, Multi-Center, Open-Label, Global Study to Determine the Efficacy of Volrustomig (MEDI5752) Plus Chemotherapy Versus Pembrolizumab Plus Chemotherapy for First-Line Treatment of Patients with Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer (mNSCLC) (eVOLVE-Lung02)転移性非小細胞肺癌(NSCLC)患者の一次治療としてのVolrustomig (MEDI5752) +化学療法とペムブロリズマブ+化学療法の有効性を比較する第III相2群並行群間比較ランダム化国際多施設共同非盲検試験 (eVOLVE-Lung02)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 A Phase III, Two-Arm, Parallel, Randomized, Multi-Center, Open-Label, Global Study to Determine the Efficacy of Volrustomig (MEDI5752) Plus Chemotherapy Versus Pembrolizumab Plus Chemotherapy for First-Line Treatment of Patients with Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer (mNSCLC) (eVOLVE-Lung02)転移性非小細胞肺癌(NSCLC)患者の一次治療としてのVolrustomig (MEDI5752) +化学療法とペムブロリズマブ+化学療法の有効性を比較する第III相2群並行群間比較ランダム化国際多施設共同非盲検試験 (eVOLVE-Lung02)			
医療技術名	HERTHENA-PanTumor01 (U31402-277): A Phase 2, Multicenter, Multicohort, Open-Label, Proof of Concept Study of Patritumab Deruxtecan (HER3-DXd; U3-1402) in Subjects with Locally Advanced or Metastatic Solid TumorsHERTHENA-PanTumor01 (U31402-277) :局所進行又は転移性固形癌患者を対象としたpatritumab deruxtecan (HER3-DXd; U3-1402) の第II相多施設共同複数コホート非盲検proof of concept試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 HERTHENA-PanTumor01 (U31402-277): A Phase 2, Multicenter, Multicohort, Open-Label, Proof of Concept Study of Patritumab Deruxtecan (HER3-DXd; U3-1402) in Subjects with Locally Advanced or Metastatic Solid TumorsHERTHENA-PanTumor01 (U31402-277) :局所進行又は転移性固形癌患者を対象としたpatritumab deruxtecan (HER3-DXd; U3-1402) の第II相多施設共同複数コホート非盲検proof of concept試験			
医療技術名	A Phase III, Open-label, Randomised Study of Datopotamab Deruxtecan (Dato-DXd) With or Without Durvalumab Compared with Investigator's Choice of Chemotherapy (Paclitaxel, Nab-paclitaxel or Gemcitabine + Carboplatin) in Combination With Pembrolizumab in Patients with PD-L1 Positive Locally Recurrent Inoperable or Metastatic Triple-negative Breast Cancer(TROPION-Breast05)Programmed death-ligand (PD-L1) 陽性の局所再発手術不能又は転移性トリプルネガティブ乳癌患者を対象としてダトポタマブ デルクステカン(Dato-DXd)の単剤療法又はデュルバルマブとの併用療法と医師選択化学療法(パクリタキセル、nab-パクリタキセル、又はゲムシタビン + カルボプラチン)とペムブロリズマブの併用療法を比較検討する第III相非盲検無作為化試験 (TROPION-Breast05)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 A Phase III, Open-label, Randomised Study of Datopotamab Deruxtecan (Dato-DXd) With or Without Durvalumab Compared with Investigator's Choice of Chemotherapy (Paclitaxel, Nab-paclitaxel or Gemcitabine + Carboplatin) in Combination With Pembrolizumab in Patients with PD-L1 Positive Locally Recurrent Inoperable or Metastatic Triple-negative Breast Cancer(TROPION-Breast05)Programmed death-ligand (PD-L1) 陽性の局所再発手術不能又は転移性トリプルネガティブ乳癌患者を対象としてダトポタマブ デルクステカン(Dato-DXd)の単剤療法又はデュルバルマブとの併用療法と医師選択化学療法(パクリタキセル、nab-パクリタキセル、又はゲムシタビン + カルボプラチン)とペムブロリズマブの併用療法を比較検討する第III相非盲検無作為化試験 (TROPION-Breast05)			

医療技術名	Phase I/II, Two-Part, Multicenter First-in-Human Study of Ifinatamab Deruxtecan (DS-7300a, I-DXd) in Subjects with Advanced Solid Malignant Tumors (IDeate-PanTumor01)進行固形癌患者を対象としたイフィナタマブ デルクステカン (DS-7300a, I-DXd) の多施設共同 2 パート第 I/II 相 First-in-Human 試験 (IDeate-PanTumor01)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 Phase I/II, Two-Part, Multicenter First-in-Human Study of Ifinatamab Deruxtecan (DS-7300a, I-DXd) in Subjects with Advanced Solid Malignant Tumors (IDeate-PanTumor01)進行固形癌患者を対象としたイフィナタマブ デルクステカン (DS-7300a, I-DXd) の多施設共同 2 パート第 I/II 相 First-in-Human 試験 (IDeate-PanTumor01)			
医療技術名	進行NSCLC患者及びその他の固形がん患者を対象とした高選択性ROS1阻害薬NVL-520の第I/II相試験 (ARROS-1)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 進行NSCLC患者及びその他の固形がん患者を対象とした高選択性ROS1阻害薬NVL-520の第I/II相試験 (ARROS-1)			
医療技術名	A Phase 1b/2 pan-tumor, open-label study to evaluate the efficacy and safety of ifinatamab deruxtecan (I-DXd) in subjects with recurrent or metastatic solid tumors (IDeate-PanTumor02)再発又は転移性固形癌患者を対象とした、イフィナタマブ デルクステカン (I-DXd) の有効性及び安全性を評価する、がん種横断的、非盲検、第 I b/II相試験 (IDeate-PanTumor02)	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 A Phase 1b/2 pan-tumor, open-label study to evaluate the efficacy and safety of ifinatamab deruxtecan (I-DXd) in subjects with recurrent or metastatic solid tumors (IDeate-PanTumor02)再発又は転移性固形癌患者を対象とした、イフィナタマブ デルクステカン (I-DXd) の有効性及び安全性を評価する、がん種横断的、非盲検、第 I b/II相試験 (IDeate-PanTumor02)			
医療技術名	CLDN18.2陽性の進行固形がん患者を対象に、AZD0901単独療法又は抗がん剤との併用療法の安全性、忍容性、有効性、薬物動態、及び免疫原性を評価する第II相、非盲検、多施設共同試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 CLDN18.2陽性の進行固形がん患者を対象に、AZD0901単独療法又は抗がん剤との併用療法の安全性、忍容性、有効性、薬物動態、及び免疫原性を評価する第II相、非盲検、多施設共同試験			
医療技術名	A PHASE 1B, MULTICENTER, OPEN-LABEL STUDY OF VALEMETOSTAT TOSYLATE IN COMBINATION WITH DXd ADCs IN SUBJECTS WITH SOLID TUMORS固形癌患者を対象としたバレットスタットトシル酸塩とDXd ADCの併用療法を検討する多施設共同非盲検第Ib相試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 A PHASE 1B, MULTICENTER, OPEN-LABEL STUDY OF VALEMETOSTAT TOSYLATE IN COMBINATION WITH DXd ADCs IN SUBJECTS WITH SOLID TUMORS固形癌患者を対象としたバレットスタットトシル酸塩とDXd ADCの併用療法を検討する多施設共同非盲検第Ib相試験			
医療技術名	KRAS G12C 変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌治療参加者を対象に、PD-L1発現率が 50%以上の患者に対する一次治療として LY3537982とペムブロリズマブの併用療法をプラセボとペムブロリズマブの併用療法と比較する、又は、PD-L1発現にかかわらず、LY3537982とペムブロリズマブ、ペメトレキセド、プラチナ製剤の併用療法をプラセボとペムブロリズマブ、ペメトレキセド、プラチナ製剤の併用療法と比較する国際共同ピボタル試験-SUNRAY-01試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 KRAS G12C 変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌治療参加者を対象に、PD-L1発現率が 50%以上の患者に対する一次治療としてLY3537982とペムブロリズマブの併用療法をプラセボとペムブロリズマブの併用療法と比較する、又は、PD-L1発現にかかわらず、LY3537982とペムブロリズマブ、ペメトレキセド、プラチナ製剤の併用療法をプラセボとペムブロリズマブ、ペメトレキセド、プラチナ製剤の併用療法と比較する国際共同ピボタル試験-SUNRAY-01試験			
医療技術名	プラチナ製剤、エトポシド及びデュルバルマブ投与後の進展型小細胞肺癌患者を対象にタルラタマブとデュルバルマブの併用投与をデュルバルマブ単独投与と比較する第III相、非盲検、多施設共同、ランダム化試験 (DeLLphi-305)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 プラチナ製剤、エトポシド及びデュルバルマブ投与後の進展型小細胞肺癌患者を対象にタルラタマブとデュルバルマブの併用投与をデュルバルマブ単独投与と比較する第III相、非盲検、多施設共同、ランダム化試験 (DeLLphi-305)			

医療技術名	EGFR又はHER2変異を有する進行非小細胞肺癌(NSCLC)患者を対象としたBAY 2927088の非盲検first in human試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 EGFR又はHER2変異を有する進行非小細胞肺癌(NSCLC)患者を対象としたBAY 2927088の非盲検first in human試験			
医療技術名	A Phase 1b/2, Multicenter, Open-label Study of Ifinatamab Deruxtecan (I-DXd), a B7-H3 Antibody-Drug Conjugate (ADC), in Combination with Atezolizumab with or without Carboplatin as First-line Induction or Maintenance, in Subjects with Extensive-stage Small Cell Lung Cancer (ES-SCLC) (IDEate-Lung03)進展型小細胞肺癌(ES-SCLC)患者を対象に一次治療の導入療法又は維持療法としてカルボプラチン併用下又は非併用下でイフィナタマブ デルクステカン(I-DXd) (B7-H3抗体薬物複合体)をアテゾリズマブと併用投与する多施設共同、非盲検、第Ib/II相試験 (IDEate-Lung03)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 A Phase 1b/2, Multicenter, Open-label Study of Ifinatamab Deruxtecan (I-DXd), a B7-H3 Antibody-Drug Conjugate (ADC), in Combination with Atezolizumab with or without Carboplatin as First-line Induction or Maintenance, in Subjects with Extensive-stage Small Cell Lung Cancer (ES-SCLC) (IDEate-Lung03)進展型小細胞肺癌(ES-SCLC)患者を対象に一次治療の導入療法又は維持療法としてカルボプラチン併用下又は非併用下でイフィナタマブ デルクステカン(I-DXd) (B7-H3抗体薬物複合体)をアテゾリズマブと併用投与する多施設共同、非盲検、第Ib/II相試験 (IDEate-Lung03)			
医療技術名	KRAS G12D 変異陽性の局所進行性又は転移性固形がん患者を対象としたASP3082の第1相試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 KRAS G12D 変異陽性の局所進行性又は転移性固形がん患者を対象としたASP3082の第1相試験			
医療技術名	Uncommon EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者を対象としたアファチニブ投与におけるDFP-14323を併用した際の有効性を検証する臨床第III相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 Uncommon EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者を対象としたアファチニブ投与におけるDFP-14323を併用した際の有効性を検証する臨床第III相試験			
医療技術名	A Phase 3, Multicenter, Randomized, Open-label Study of Ifinatamab Deruxtecan (I-DXd), a B7-H3 Antibody Drug Conjugate (ADC), Versus Treatment of Physician's Choice (TPC) in Subjects with Relapsed Small Cell Lung Cancer (SCLC) (IDEate-Lung02)再発小細胞肺癌(SCLC)患者を対象として、イフィナタマブ デルクステカン(I-DXd) (B7-H3 抗体薬物複合体)を医師選択治療と比較する、多施設共同、無作為化、非盲検、第III相試験 (IDEate-Lung02)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 A Phase 3, Multicenter, Randomized, Open-label Study of Ifinatamab Deruxtecan (I-DXd), a B7-H3 Antibody Drug Conjugate (ADC), Versus Treatment of Physician's Choice (TPC) in Subjects with Relapsed Small Cell Lung Cancer (SCLC) (IDEate-Lung02)再発小細胞肺癌(SCLC)患者を対象として、イフィナタマブ デルクステカン(I-DXd) (B7-H3 抗体薬物複合体)を医師選択治療と比較する、多施設共同、無作為化、非盲検、第III相試験 (IDEate-Lung02)			
医療技術名	2ライン以上の前治療を受けた進行小細胞肺癌患者を対象としたタルラタマブ (AMG 757) の第IIIb相、多施設共同、単群、拡大治験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 2ライン以上の前治療を受けた進行小細胞肺癌患者を対象としたタルラタマブ (AMG 757) の第IIIb相、多施設共同、単群、拡大治験			
医療技術名	A Phase 1, Two-Part, Multicenter, Open-Label First-in-Human Study of anti-CEACAM5 Antibody-Drug Conjugate M9140 in Participants with Advanced Solid Tumors進行性固形がん患者を対象とした抗CEACAM5抗体薬物複合体であるM9140の第1相、2パートからなる、多施設共同、非盲検、ヒト初回投与試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 A Phase 1, Two-Part, Multicenter, Open-Label First-in-Human Study of anti-CEACAM5 Antibody-Drug Conjugate M9140 in Participants with Advanced Solid Tumors進行性固形がん患者を対象とした抗CEACAM5抗体薬物複合体であるM9140の第1相、2パートからなる、多施設共同、非盲検、ヒト初回投与試験			

医療技術名	A randomized, phase 3, open-label study to evaluate sigvotatug vedotin compared with docetaxel in adult participants with previously treated non-small cell lung cancer (Be6A Lung-01)治療歴のある非小細胞肺癌成人患者を対象に、sigvotatug vedotinをドセタキセルと比較評価する無作為化、第III相、非盲検試験 (Be6A Lung-01)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 A randomized, phase 3, open-label study to evaluate sigvotatug vedotin compared with docetaxel in adult participants with previously treated non-small cell lung cancer (Be6A Lung-01)治療歴のある非小細胞肺癌成人患者を対象に、sigvotatug vedotinをドセタキセルと比較評価する無作為化、第III相、非盲検試験 (Be6A Lung-01)			
医療技術名	HER2活性化変異を有する局所進行又は転移性の非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象に、一次治療としてBAY 2927088を経口投与したときの有効性及び安全性を標準治療と比較する、非盲検、無作為化、実薬対照、多施設共同、第3相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 HER2活性化変異を有する局所進行又は転移性の非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象に、一次治療としてBAY 2927088を経口投与したときの有効性及び安全性を標準治療と比較する、非盲検、無作為化、実薬対照、多施設共同、第3相試験			
医療技術名	A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Multi-Regional Phase III Clinical Study of Toripalimab Alone or in Combination With	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Multi-Regional Phase III Clinical Study of Toripalimab Alone or in Combination With			
医療技術名	Tifcemalimab (JS004/TAB004) as Consolidation Therapy in Patients With Limited-Stage Small Cell Lung Cancer Without Disease Progression Following Chemoradiotherapy化学放射線療法後に疾患進行が認められない限局型小細胞肺癌患者を対象とした地固め療法としてのToripalimab単剤療法又はToripalimab + Tifcemalimab併用療法 (JS004/TAB004) に関するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多地域共同第III相臨床試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 Tifcemalimab (JS004/TAB004) as Consolidation Therapy in Patients With Limited-Stage Small Cell Lung Cancer Without Disease Progression Following Chemoradiotherapy化学放射線療法後に疾患進行が認められない限局型小細胞肺癌患者を対象とした地固め療法としてのToripalimab単剤療法又はToripalimab + Tifcemalimab併用療法 (JS004/TAB004) に関するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多地域共同第III相臨床試験			
医療技術名	根治不能な転移性/再発頭頸部扁平上皮癌の既治療患者を対象として、petosemtamabの有効性及び安全性を治験担当医師が選択した単剤療法と比較評価する第3相非盲検無作為化対照試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 根治不能な転移性/再発頭頸部扁平上皮癌の既治療患者を対象として、petosemtamabの有効性及び安全性を治験担当医師が選択した単剤療法と比較評価する第3相非盲検無作為化対照試験			
医療技術名	進行性又は転移性固形がんを対象とした ONO-4538HSC の非盲検非対照第 I 相試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 進行性又は転移性固形がんを対象とした ONO-4538HSC の非盲検非対照第 I 相試験			
医療技術名	A Phase III, Randomised, Open-label, Global Study of Datopotamab Deruxtecán (Dato-DXd) in Combination With Rilvegostomig (AZD2936) or Rilvegostomig Monotherapy Versus Pembrolizumab Monotherapy for the First-line Treatment of Participants With Locally-advanced or Metastatic Non-squamous NSCLC With High PD-L1 Expression (TC \geq 50%) and Without Actionable Genomic Alterations (TROPION-Lung10) PD-L1 が高発現している (TC \geq 50%) アクションナブルゲノム変化のない局所進行又は転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてのダトポタマブ デルクステカン (Dato-DXd) とRilvegostomig (AZD2936) の併用療法又はRilvegostomig単剤療法をペムブロリズマブ単剤療法と比較する第III相、ランダム化、非盲検、国際共同試験 (TROPION-Lung10)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 A Phase III, Randomised, Open-label, Global Study of Datopotamab Deruxtecán (Dato-DXd) in Combination With Rilvegostomig (AZD2936) or Rilvegostomig Monotherapy Versus Pembrolizumab Monotherapy for the First-line Treatment of Participants With Locally-advanced or Metastatic Non-squamous NSCLC With High PD-L1 Expression (TC \geq 50%) and Without Actionable Genomic Alterations (TROPION-Lung10) PD-L1 が高発現している (TC \geq 50%) アクションナブルゲノム変化のない局所進行又は転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてのダトポタマブ デルクステカン (Dato-DXd) とRilvegostomig (AZD2936) の併用療法又はRilvegostomig単剤療法をペムブロリズマブ単剤療法と比較する第III相、ランダム化、非盲検、国際共同試験 (TROPION-Lung10)			

医療技術名	A Phase III, Open-label, Sponsor-blind, Randomized Study of Dato-DXd With or Without Osimertinib Versus Platinum-based Doublet Chemotherapy for Participants with EGFR-mutated Locally Advanced or Metastatic Non-small Cell Lung Cancer whose Disease has Progressed on Prior Osimertinib Treatment (TROPION-Lung15)オシメルチニブ投与中に進行したEGFR変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にオシメルチニブ併用／非併用下でのDato-DXdと白金製剤を含む2剤併用化学療法を比較する第III相非盲検(治験依頼者盲検)無作為化試験(TROPION-Lung15試験)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 A Phase III, Open-label, Sponsor-blind, Randomized Study of Dato-DXd With or Without Osimertinib Versus Platinum-based Doublet Chemotherapy for Participants with EGFR-mutated Locally Advanced or Metastatic Non-small Cell Lung Cancer whose Disease has Progressed on Prior Osimertinib Treatment (TROPION-Lung15)オシメルチニブ投与中に進行したEGFR変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にオシメルチニブ併用／非併用下でのDato-DXdと白金製剤を含む2剤併用化学療法を比較する第III相非盲検(治験依頼者盲検)無作為化試験(TROPION-Lung15試験)			
医療技術名	A PHASE 3, MULTICENTER, RANDOMIZED, OPEN-LABEL STUDY OF IFINATAMAB DERUXTECAN (I-DXD) IN SUBJECTS WITH PRETREATED ADVANCED OR METASTATIC ESOPHAGEAL SQUAMOUS CELL CARCINOMA (ESCC) (IDeate-Esophageal01)前治療歴のある進行性又は転移性食道扁平上皮癌(ESCC)患者を対象としたイフィナタマブ デルクステカン(I-DXd)の多施設共同、無作為化、非盲検、第III相試験(IDeate-Esophageal01)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 A PHASE 3, MULTICENTER, RANDOMIZED, OPEN-LABEL STUDY OF IFINATAMAB DERUXTECAN (I-DXD) IN SUBJECTS WITH PRETREATED ADVANCED OR METASTATIC ESOPHAGEAL SQUAMOUS CELL CARCINOMA (ESCC) (IDeate-Esophageal01)前治療歴のある進行性又は転移性食道扁平上皮癌(ESCC)患者を対象としたイフィナタマブ デルクステカン(I-DXd)の多施設共同、無作為化、非盲検、第III相試験(IDeate-Esophageal01)			
医療技術名	治療歴のあるKRAS G12C 陽性進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてdivarasibの有効性及び安全性をソラシブ又はadagrasibと比較評価する第III相、ランダム化、非盲検、多施設共同試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 治療歴のあるKRAS G12C 陽性進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてdivarasibの有効性及び安全性をソラシブ又はadagrasibと比較評価する第III相、ランダム化、非盲検、多施設共同試験			
医療技術名	化学療法治療歴を有するKRAS/NRAS 及びBRAF 遺伝子野生型の切除不能な再発・転移の結腸・直腸癌患者を対象に、アミバンタマブとFOLFIRIの併用をセツキシマブ／ベバシズマブとFOLFIRIの併用と比較するランダム化非盲検第3相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 化学療法治療歴を有するKRAS/NRAS 及びBRAF 遺伝子野生型の切除不能な再発・転移の結腸・直腸癌患者を対象に、アミバンタマブとFOLFIRIの併用をセツキシマブ／ベバシズマブとFOLFIRIの併用と比較するランダム化非盲検第3相試験			
医療技術名	PralsetinibのRET遺伝子異常を伴う進行固形がん患者を対象とした第I相臨床試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 PralsetinibのRET遺伝子異常を伴う進行固形がん患者を対象とした第I相臨床試験			
医療技術名	A Phase 2 Basket Study of Disitamab Vedotin in Adult Subjects with Previously Treated, Locally-Advanced Unresectable or Metastatic Solid Tumors That Express HER2既治療の局所進行切除不能又は転移性HER2発現固形癌を有する成人患者を対象としたDisitamab Vedotinの第2相バスケット試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 A Phase 2 Basket Study of Disitamab Vedotin in Adult Subjects with Previously Treated, Locally-Advanced Unresectable or Metastatic Solid Tumors That Express HER2既治療の局所進行切除不能又は転移性HER2発現固形癌を有する成人患者を対象としたDisitamab Vedotinの第2相バスケット試験			

医療技術名	PD-L1発現率1%以上のステージIV又は再発非扁平上皮(NSQ)非小細胞肺癌患者を対象に、一次治療として、ニボルマブとrelatlimabの固定用量配合剤と化学療法の併用療法をペムブロリズマブと化学療法の併用療法と比較する第3相ランダム化非盲検試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 PD-L1発現率1%以上のステージIV又は再発非扁平上皮(NSQ)非小細胞肺癌患者を対象に、一次治療として、ニボルマブとrelatlimabの固定用量配合剤と化学療法の併用療法をペムブロリズマブと化学療法の併用療法と比較する第3相ランダム化非盲検試験			
医療技術名	A Phase III, Randomized, Double-blind, Multicenter, Global Study of RIlvegostomig or Pembrolizumab in Combination with Platinum-based Chemotherapy for the First-line Treatment of Patients with Metastatic Squamous Non-small Cell Lung Cancer Whose Tumors Express PD-L1 (ARTEMIDE-Lung02)PD-L1 陽性の転移性扁平上皮非小細胞肺癌患者に対する一次治療として、Rilvegostomig 又はペムブロリズマブと白金製剤を含む化学療法の併用療法を評価する第III 相ランダム化二重盲検国際多施設共同試験 (ARTEMIDE-Lung02)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 A Phase III, Randomized, Double-blind, Multicenter, Global Study of RIlvegostomig or Pembrolizumab in Combination with Platinum-based Chemotherapy for the First-line Treatment of Patients with Metastatic Squamous Non-small Cell Lung Cancer Whose Tumors Express PD-L1 (ARTEMIDE-Lung02)PD-L1 陽性の転移性扁平上皮非小細胞肺癌患者に対する一次治療として、Rilvegostomig 又はペムブロリズマブと白金製剤を含む化学療法の併用療法を評価する第III 相ランダム化二重盲検国際多施設共同試験 (ARTEMIDE-Lung02)			
医療技術名	再発又は転移性のPD-L1陽性頭頸部扁平上皮癌の1次治療におけるpetosemtamab＋ペムブロリズマブ併用療法とペムブロリズマブ単剤療法の有効性及び安全性を評価する第3相無作為化非盲検試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 再発又は転移性のPD-L1陽性頭頸部扁平上皮癌の1次治療におけるpetosemtamab＋ペムブロリズマブ併用療法とペムブロリズマブ単剤療法の有効性及び安全性を評価する第3相無作為化非盲検試験			
医療技術名	A Phase III, Open-label, Randomised Study of Osimertinib With or Without Dato-DXd, as First-line Treatment in Participants With Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR) Mutation-positive, Locally Advanced or Metastatic Non-small Cell Lung Cancer (TROPION-Lung14)EGFR変異を有する局所進行又は転移性NSCLC患者を対象に一次治療としてオシメルチニブとダトポタマブ デルクステカン (Dato-DXd) の併用又は非併用を比較する第III相非盲検ランダム化試験 (TROPION-Lung14)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 A Phase III, Open-label, Randomised Study of Osimertinib With or Without Dato-DXd, as First-line Treatment in Participants With Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR) Mutation-positive, Locally Advanced or Metastatic Non-small Cell Lung Cancer (TROPION-Lung14)EGFR変異を有する局所進行又は転移性NSCLC患者を対象に一次治療としてオシメルチニブとダトポタマブ デルクステカン (Dato-DXd) の併用又は非併用を比較する第III相非盲検ランダム化試験 (TROPION-Lung14)			
医療技術名	A Multicenter, Randomized, Open-label, Phase 3 Study of IBI343 Monotherapy Versus Treatment of Investigator's Choice in Participants with Previously Treated, Claudin (CLDN)18.2-positive, HER2-negative, Locally Advanced, Unresectable or Metastatic Gastric or Gastroesophageal Junction Adenocarcinoma既治療のClaudin (CLDN)18.2陽性HER2陰性の局所進行切除不能又は転移性の胃腺癌又は食道胃接合部腺癌を有する患者を対象とした、IBI343単剤療法と治験責任医師が選択した治療を比較する多施設共同、無作為化、非盲検、第III相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 A Multicenter, Randomized, Open-label, Phase 3 Study of IBI343 Monotherapy Versus Treatment of Investigator's Choice in Participants with Previously Treated, Claudin (CLDN)18.2-positive, HER2-negative, Locally Advanced, Unresectable or Metastatic Gastric or Gastroesophageal Junction Adenocarcinoma既治療のClaudin (CLDN)18.2陽性HER2陰性の局所進行切除不能又は転移性の胃腺癌又は食道胃接合部腺癌を有する患者を対象とした、IBI343単剤療法と治験責任医師が選択した治療を比較する多施設共同、無作為化、非盲検、第III相試験			
医療技術名	LUNAR-2: 転移性非小細胞肺癌に対する治療として腫瘍治療電場 (TTフィールド: 150 kHz) とペムブロリズマブ及びプラチナ製剤ベースの化学療法との併用を検討するピボタル、無作為化、非盲検試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 LUNAR-2: 転移性非小細胞肺癌に対する治療として腫瘍治療電場 (TTフィールド: 150 kHz) とペムブロリズマブ及びプラチナ製剤ベースの化学療法との併用を検討するピボタル、無作為化、非盲検試験			

医療技術名	A Phase 1, Open-Label, Multicenter Study to Assess the Safety, Tolerability, and Immunogenicity of mRNA-4157 Alone and in Combination in Participants with Solid Tumors固形腫瘍患者を対象としたmRNA-4157単剤療法及び併用療法の安全性、忍容性及び免疫原性を評価する第I相、非盲検、多施設共同試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 A Phase 1, Open-Label, Multicenter Study to Assess the Safety, Tolerability, and Immunogenicity of mRNA-4157 Alone and in Combination in Participants with Solid Tumors固形腫瘍患者を対象としたmRNA-4157単剤療法及び併用療法の安全性、忍容性及び免疫原性を評価する第I相、非盲検、多施設共同試験			
医療技術名	既治療進行/再発非小細胞肺癌におけるNivolumabの効果予測因子探索のための第II相試験	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 既治療進行/再発非小細胞肺癌におけるNivolumabの効果予測因子探索のための第II相試験			
医療技術名	HR陽性/HER2陰性の進行または転移性乳癌女性患者を対象に、パルボシクリブ+タモキシフェン(±ゴセレリン)併用投与とプラセボ+タモキシフェン(±ゴセレリン)併用投与を比較する、アジア共同、国際、多施設、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較第III相試験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 HR陽性/HER2陰性の進行または転移性乳癌女性患者を対象に、パルボシクリブ+タモキシフェン(±ゴセレリン)併用投与とプラセボ+タモキシフェン(±ゴセレリン)併用投与を比較する、アジア共同、国際、多施設、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較第III相試験			
医療技術名	進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ペメトレキセド+アテゾリズマブ療法とカルボプラチン+ペメトレキセド+アテゾリズマブ+ベバシズマブ療法の多施設共同オープンラベル無作為化第III相比較試験	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ペメトレキセド+アテゾリズマブ療法とカルボプラチン+ペメトレキセド+アテゾリズマブ+ベバシズマブ療法の多施設共同オープンラベル無作為化第III相比較試験			
医療技術名	第1・2世代EGFR-TKI治療後、脳転移単独増悪(T790M変異陰性/不明)もしくは第1・2世代EGFR-TKI治療およびプラチナ治療後Systemic PD(T790M変異陰性)を示したEGFR変異陽性非小細胞肺癌患者に対するオシメルチニブを用いた第II相試験	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 第1・2世代EGFR-TKI治療後、脳転移単独増悪(T790M変異陰性/不明)もしくは第1・2世代EGFR-TKI治療およびプラチナ治療後Systemic PD(T790M変異陰性)を示したEGFR変異陽性非小細胞肺癌患者に対するオシメルチニブを用いた第II相試験			
医療技術名	A Phase II study of Nivolumab plus low dose Ipilimumab as 1st line therapy in patients with advanced gastric or esophago-gastric junction MSI-H tumorMSI-Hを有する進行胃癌又は食道胃接合部癌患者を対象とした1次治療としてのニボルマブと低用量イピリムマブ併用の第II相試験(NO LIMIT試験)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 A Phase II study of Nivolumab plus low dose Ipilimumab as 1st line therapy in patients with advanced gastric or esophago-gastric junction MSI-H tumorMSI-Hを有する進行胃癌又は食道胃接合部癌患者を対象とした1次治療としてのニボルマブと低用量イピリムマブ併用の第II相試験(NO LIMIT試験)			
医療技術名	KRAS G12C変異陽性の化学療法未治療進行再発の非扁平上皮・非小細胞肺癌患者を対象としたsotorasib+カルボプラチン+ペメトレキセドの第II相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 KRAS G12C変異陽性の化学療法未治療進行再発の非扁平上皮・非小細胞肺癌患者を対象としたsotorasib+カルボプラチン+ペメトレキセドの第II相試験			
医療技術名	ALK融合遺伝子陽性の進行・再発固形腫瘍を対象としたブリグチニブの多施設共同第II相バスケット試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 ALK融合遺伝子陽性の進行・再発固形腫瘍を対象としたブリグチニブの多施設共同第II相バスケット試験			

医療技術名	進行・再発胸腺癌に対するカルボプラチン+パクリタキセル+アテゾリズマブ (MPDL3280A)の第II相試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 進行・再発胸腺癌に対するカルボプラチン+パクリタキセル+アテゾリズマブ (MPDL3280A)の第II相試験			
医療技術名	HER2遺伝子変異を有する固形癌に対するMococertinib+T-DM1併用療法の安全性と有効性を検討する多施設共同第Ia/Ib相バスケット試験	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 HER2遺伝子変異を有する固形癌に対するMococertinib+T-DM1併用療法の安全性と有効性を検討する多施設共同第Ia/Ib相バスケット試験			
医療技術名	テポチニブ、カプマチニブまたはグマロンチニブに獲得耐性を示したMET遺伝子エクソン14変異陽性非小細胞肺癌患者に対するカボザンチニブを用いた非盲検第二相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 テポチニブ、カプマチニブまたはグマロンチニブに獲得耐性を示したMET遺伝子エクソン14変異陽性非小細胞肺癌患者に対するカボザンチニブを用いた非盲検第二相試験			
医療技術名	HER2遺伝子異常を伴う固形腫瘍に対するTAS0728の第I相試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 HER2遺伝子異常を伴う固形腫瘍に対するTAS0728の第I相試験			
医療技術名	肺葉切除高リスク臨床病期IA 期非小細胞肺癌に対する区域切除と楔状切除のランダム化比較試験	取扱患者数	43
当該医療技術の概要 肺葉切除高リスク臨床病期IA 期非小細胞肺癌に対する区域切除と楔状切除のランダム化比較試験			
医療技術名	病理学的N2非小細胞肺癌に対する術後放射線治療に関するランダム化比較第III相試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 病理学的N2非小細胞肺癌に対する術後放射線治療に関するランダム化比較第III相試験			
医療技術名	胸部薄切CT所見に基づく早期肺癌に対する経過観察の単群検証的試験	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 胸部薄切CT所見に基づく早期肺癌に対する経過観察の単群検証的試験			
医療技術名	特発性肺線維症 (IPF) 合併臨床病期 I 期非小細胞肺癌に対する肺縮小手術に関するランダム化比較第 III 相試験	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 特発性肺線維症 (IPF) 合併臨床病期 I 期非小細胞肺癌に対する肺縮小手術に関するランダム化比較第 III 相試験			
医療技術名	80歳以上の高齢者肺野末梢小型非小細胞肺癌における区域切除vs.楔状切除のランダム化比較試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 80歳以上の高齢者肺野末梢小型非小細胞肺癌における区域切除vs.楔状切除のランダム化比較試験			
医療技術名	病理病期 II-III A 期非小細胞肺癌に対する術後サーベイランスに関するランダム化比較試験	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 病理病期 II-III A 期非小細胞肺癌に対する術後サーベイランスに関するランダム化比較試験			
医療技術名	EGFR変異陽性・切除可NSCLCの術前補助療法におけるオシメルチニブ単剤又は化学療法との併用を標準化学療法単独と比較する第III相無作為化多施設国際共同3群比較試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 EGFR変異陽性・切除可NSCLCの術前補助療法におけるオシメルチニブ単剤又は化学療法との併用を標準化学療法単独と比較する第III相無作為化多施設国際共同3群比較試験			

医療技術名	天然型マイクロRNA補充療法による悪性胸膜中皮腫を対象とした医師主導治験(第I相)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 天然型マイクロRNA補充療法による悪性胸膜中皮腫を対象とした医師主導治験(第I相)			
医療技術名	特発性肺線維症合併非小細胞肺癌根治切除後患者に対するニンテダニブ投与の忍容性に関する第二相単群介入試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 特発性肺線維症合併非小細胞肺癌根治切除後患者に対するニンテダニブ投与の忍容性に関する第二相単群介入試験			
医療技術名	胸部薄切CT上すりガラス成分を伴う充実成分優位な非小細胞肺癌(>2-3cm)に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 胸部薄切CT上すりガラス成分を伴う充実成分優位な非小細胞肺癌(>2-3cm)に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較試験			
医療技術名	臨床病期IA3期の肺野末梢充実型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較第III相試験	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 臨床病期IA3期の肺野末梢充実型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較第III相試験			
医療技術名	非小細胞肺癌手術例における全ゲノム解析を用いたバイオマーカー研究	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 全ゲノム解析を用いて切除した肺腫瘍検体の解析をおこない、患者の治療方針へ反映させる試料解析研究			
医療技術名	切除後の非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ術後補助療法の多機関共同前向き観察研究	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 切除後の非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ術後補助療法の日本人における有効性や安全性を検証する多機関共同前向き観察研究			
医療技術名	病理病期 IA2-IIA 期EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌における術後補助療法の実態を調査する多施設共同前向き観察研究	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 病理病期 IA2-IIA 期EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌における術後補助療法の実態を調査する多施設共同前向き観察研究			
医療技術名	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌完全切除例の前向き観察研究	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌(II~III期)完全切除例の前向き観察研究			
医療技術名	左側肺切除術後肺静脈断端血栓の発生予防におけるヘパリン投与の有効性に関する多施設共同ランダム化比較試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 左側肺切除術後肺静脈断端血栓の発生予防におけるヘパリン投与の有効性に関する多施設共同ランダム化比較試験			
医療技術名	プラチナ製剤併用術後補助化学療法による治療歴のある IIB 期, IIIA 期, 又は一部の IIIB 期の PD-L1陽性非小細胞肺癌の完全切除例を対象として, チラゴルマブ + アテゾリズマブとプラセボ + アテゾリズマブを比較する, ランダム化, 二重盲検第 III 相臨床試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 プラチナ製剤併用術後補助化学療法による治療歴のある IIB 期, IIIA 期, 又は一部の IIIB 期の PD-L1陽性非小細胞肺癌の完全切除例を対象として, チラゴルマブ + アテゾリズマブとプラセボ + アテゾリズマブを比較する, ランダム化, 二重盲検第 III 相臨床試験			
医療技術名	食道癌に対するロボット支援手術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 DaVinciとhinotoriの2種類の手術ロボットを使用して手術を行っている。等に我が国で開発中のhinotormを使った食道癌手術商手例は全国で1, 2位を争う症例数である。			

医療技術名	完全胸腔鏡下腹臥位食道切除術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 高度な侵襲を伴う胸部食道癌手術に対して、これまでの高度進行食道癌に対する手術経験を活かし、縦隔徹底郭清を伴う、6ポートによる完全胸腔鏡下の腹臥位食道切除術を行い、低侵襲性と根治性の両立に取り組んでいる。			
医療技術名	頸部食道癌に対する喉頭温存手術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 通常頸部食道癌では「喉頭合併切除＋遊離空腸再建＋永久気管孔造設」が行われる。その場合、患者は発声機能を失うため術後のQOLは著しく損なわれる。我々は術前治療効果と独自に開発した喉頭温存手術手技を駆使して声「声を残して癌を治す」ことに積極的に取り組んでいる。			
医療技術名	StageII/III進行食道癌に対するDCF術前化学療法	取扱患者数	33
当該医療技術の概要 JCOG1109試験の結果を受けて、2022年版「食道癌診療ガイドライン」ではStageII/III食道癌に対する術前DCF(DTX+CDDP+5FU)化学療法＋手術が標準治療となった。我々は以前より臨床試験として術前DCF化学療法に取り組んでおり、今後は標準治療として積極的に取り組むこととする。			
医療技術名	FDG-PETに基づいた進行食道癌治療戦略の個別化	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 我々はFDG-PETの集積値:SUVmaxが腫瘍量ならびに予後と強い相関があることを報告してきた。切除可能症例であっても、PETでLNにFDGの集積を認めるPET-N(+)やLNへの集積がなくても主腫瘍にSUCmax>6.02以上の集積があれば遠隔再発高危険群で、極めて予後不良で、術前化学療法の適応と考えられる。また、治療後のPETにおいて集積が消失した症例は組織学的効果も高く、予後も良いことも報告してきた。このようにPETにより治療前および治療後の予後予測を基に術前治療の個別化を行い、治療の質の向上を図っている。			
医療技術名	胃切除食道癌における食道切除後の有茎空腸による血行再建を伴う安全な食道再建術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 過去に胃切の既往のある患者さんは、その後に食道癌を維持制に発症する確率は比較的高い。しかし、その食道切除後の再建に関しては大腸や小腸を用いて再建せざるを得ず、その難易度は高い。近隣の施設からの依頼を多く受けるが、その術式の最大の問題点は挙上性とグラフトの血流確保である。挙上性を優先して血管丙を切離すれば血流が悪くなる。いずれをも満足するために、形成外科医と協力して積極的に血管吻合を付加して安全の向上に努めている。			
医療技術名	胃癌に対するロボット支援手術	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 T2までの根治切除可能症例に対して臨床倫理委員会の承認の下、同意が得られた患者に対してDa Vinciまたはhinotorを用いてロボット支援下に胃切除術を行っている。			
医療技術名	腹膜転移陽性進行胃癌に対する腹腔内化学療法の有用性	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 腹膜播種を疑う初発または術後再発進行胃癌に対して、審査腹腔鏡を積極的に行い、腹膜播種もしくは腹腔内遊離癌細胞の陽性を家訓した後に腹腔内にポートを留置してパクリタキセルによる腹腔内化学療法を行い、奏効例に対しては2nd lookとして再度審査腹腔鏡を行って腹膜播種が消失していれば積極的に手術を追加して根治を目指す治療に取り組んでいる。			
医療技術名	食道胃接合部癌または早期上部胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切除、偽穹窿部食道裂孔挿入・食道残胃吻合法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 食道胃接合部癌または早期上部胃癌に対して噴門側胃切除術、食道残胃吻合が行われるが、逆流性食道炎の後遺症が問題となっている。腹腔鏡下に食道と残胃前壁を吻合し残胃を食道裂孔内に挿入することにより確実に食道への逆流を防止する術式を開発し、術後のquality of lifeの低下をきたしにくい手術法を行っている。			
医療技術名	食道胃接合部癌または早期上部胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切除、ダブルトラクト再建法	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 食道胃接合部癌または早期上部胃癌に対して噴門側胃切除術が行われた後、残胃が小さい、食道浸潤で胸部下部食道を長く切除したので再建距離が長い、元々逆流性食道炎が酷い、というような場合、空腸を持ち上げて食道、次に残胃と吻合するRoux-en Y再建法を行い、良好な成績を得ている。			
医療技術名	肝細胞癌に対する新規の分子標的療法、免疫療法の臨床試験	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 切除不能進行肝癌に対して、ファーストライン・セカンドラインとして分子標的療法の有効性を立証するの臨床試験を積極的に行っている。			

医療技術名	肝細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の臨床試験	取扱患者数	160
当該医療技術の概要 切除不能進行肝臓癌に対して、ファーストライン・セカンドラインとして免疫チェックポイント阻害剤の有効性を立証するの臨床試験を積極的に行っている。			
医療技術名	肝臓癌に対するUS-US fusionガイドを用いたラジオ波焼灼術	取扱患者数	90
当該医療技術の概要 ラジオ波焼灼術に際して、焼灼前後の複数の超音波画像を重ね合わせることで、リアルタイムにablative marginを3次元的に評価し、単回の治療で高い根治性が得られる手法を開発し、臨床応用している。			
医療技術名	肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術と免疫チェックポイント阻害薬の併用療法の臨床試験	取扱患者数	45
当該医療技術の概要 外科切除不能の進行肝細胞癌について肝動脈塞栓術単独と免疫チェックポイント阻害薬との併用療法と比較検討することで、その有効性を立証する臨床試験を積極的に行っている。			
医療技術名	肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術と免疫療法の併用療法の臨床試験	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 外科切除不能の多発する肝細胞癌について肝動脈塞栓療法単独と免疫療法との併用療法と比較することで有効性を検証する臨床試験を積極的に行っている。			
医療技術名	肝細胞癌に対する免疫療法の効果判定としての造影超音波	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 造影超音波は造影CT/MRIと比べて微細な血流シグナルを検出できることから、肝細胞癌への免疫療法の効果判定としてより精度の高い判断ができるように造影超音波を活用している。			
医療技術名	神経症状を伴わない進行肝臓癌患者における脳転移の疫学調査	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 「肝臓癌の脳転移は少ない」と従来から認識されているが、治療法の進歩から脳転移の症例が増えることが予想される。神経症状を伴っていない脳転移早期の症例の疫学を他施設に先駆けて調査している。			
医療技術名	肝細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害剤の効果予測におけるMRI画像所見の役割	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 肝細胞癌のゲノム解析から予測されるMRI画像所見と癌組織の免疫微小環境の知見をもとに、MRI画像から肝細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の効果を推定する臨床研究を積極的に行っている。			
医療技術名	既存の腫瘍マーカーを用いた肝発癌予測の臨床研究	取扱患者数	585
当該医療技術の概要 既存の腫瘍マーカーを用い、統計学的に肝発癌の発生時期を推定する臨床研究を行っている。			
医療技術名	肝細胞癌画像からの分子標的薬の効果と関連する画像の特徴量の抽出	取扱患者数	340
当該医療技術の概要 肝細胞癌のCT画像からの分子標的薬の効果と関連する画像の特徴量を抽出する臨床研究を行っている。			
医療技術名	超音波エラストグラフィーでの肝硬度測定と非アルコール性脂肪性肝炎リスク群の抽出	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 超音波エラストグラフィーを用いて、積極的に肝硬度測定を行い、それを基に非アルコール性脂肪性肝炎リスク群を抽出し、肝生検による診断効率を上げる工夫をしている。			
医療技術名	超音波エラストグラフィーでの食道・胃静脈瘤の高リスク群抽出と安全な静脈瘤治療	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 超音波エラストグラフィーによる肝硬度、脾硬度より、食道・胃静脈瘤の高リスク群を抽出し、積極的に内視鏡で確認し治療を実施している。また、胃静脈瘤にはCANDISシステムを用いて安全なB-RTOを行っている。			
医療技術名	難治性腹水に対するトルバプタンの治療効果と効果予測因子の探求	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 薬物療法に不応な難治性腹水例に対して積極的にトルバプタンを投与し腹水コントロールを行っている。また、その効果予測因子を統計学的手法で探索している。			
医療技術名	食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 食道表在癌に対して、術前にNBI診断で深達度を評価し、一括切除できる内視鏡的粘膜下層剥離術を施行している。全周性の病変に対しても施行可能であり、術後狭窄予防のため、ステロイドの粘膜下層局注を行っている。			

医療技術名	早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	120
当該医療技術の概要 早期胃癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を行っており、術前に超音波内視鏡による深達度診断、NBIによる切除範囲の確定を行っている。			
医療技術名	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	90
当該医療技術の概要 大腸腫瘍に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を行っている。術前に色素内視鏡やNBIにより、質的診断、深達度診断を行ない、これらの工夫により、一括完全切除が行えている。			
医療技術名	造影超音波内視鏡検査(造影EUS)	取扱患者数	620
当該医療技術の概要 胆膵領域における超音波内視鏡検査(EUS)はその有用性が報告されているが、造影下での検査を行うことで早期膵腫瘍の診断率向上が可能となる			
医療技術名	超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)	取扱患者数	270
当該医療技術の概要 EUSで膵腫瘍や腹腔内リンパ節を評価し、そのまま穿刺吸引をして組織を摂取することで癌やリンパ腫の早期診断が可能となる。			
医療技術名	超音波内視鏡下胆道ドレナージ(EUS-BD)	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 EUSで拡張胆管や胆嚢を描出し、そのまま経胃、経十二指腸的にドレナージを行う。これまで外科的手術を要した内視鏡的処置困難症例に適応がある。			
医療技術名	超音波内視鏡下嚢胞ドレナージ(EUS-CD)	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 急性膵炎の合併症である感染性嚢胞に、EUS下にドレナージを行う。これまでは外科的手術を要していた病態も、手術を回避してQOLを確保することができる。			
医療技術名	超音波内視鏡下膵管ドレナージ(EUS-PD)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 EUSで拡張膵管を描出し、そのまま経胃、経十二指腸的にドレナージを行う。術後症例などの内視鏡的処置困難症例に適応がある。			
医療技術名	EUSガイド下腹腔神経叢ブロック術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 膵癌などの悪性腫瘍の腹腔神経叢浸潤に伴う難治性の癌性疼痛に対し、EUSガイド下腹腔神経叢ブロック術を行ない、高い除痛効果を得ている。			
医療技術名	内視鏡的経乳頭的胆道ドレナージ(金属ステントを含む)	取扱患者数	380
当該医療技術の概要 膵臓癌や胆管癌などによる胆管狭窄に対し、内視鏡を用いて経乳頭的にドレナージチューブを留置する。症例によっては金属ステントを留置する。			
医療技術名	内視鏡的乳頭腫瘍切除術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 十二指腸乳頭部にできた腫瘍を内視鏡を用いて切除する。適応症例に施行することで外科的侵襲を防ぐことが可能になる			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	226
取扱い患者数の合計(人)	8822

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	ベーチェット病	63
2	筋萎縮性側索硬化症	42	57	特発性拡張型心筋症	54
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	11
4	原発性側索硬化症	2	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	23	60	再生不良性貧血	38
6	パーキンソン病	300	61	自己免疫性溶血性貧血	4
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	3	63	免疫性血小板減少症	71
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トウス病	5	65	原発性免疫不全症候群	12
11	重症筋無力症	152	66	IgA腎症	80
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	52
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	125	68	黄色靱帯骨化症	6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／ 多巣性運動ニューロパチー	30	69	後縦靱帯骨化症	22
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	36
17	多系統萎縮症	17	72	下垂体性ADH分泌異常症	21
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	87	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	62	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	38
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	23	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	98
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	71
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	25
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	14
34	神経線維腫症	21	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	28	90	網膜色素変性症	88
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	28	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	93	原発性胆汁性胆管炎	35
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	28	95	自己免疫性肝炎	35
41	巨細胞性動脈炎	25	96	クローン病	156
42	結節性多発動脈炎	17	97	潰瘍性大腸炎	355
43	顕微鏡的多発血管炎	83	98	好酸球性消化管疾患	13
44	多発血管炎性肉芽腫症	29	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	34	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	11	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	359	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	135	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	111	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	37	107	若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	70	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人発症スチル病	21	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	11	110	ブラウ症候群	0

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	2	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	2
113	筋ジストロフィー	25	168	エーラス・ダンロス症候群	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	4
117	脊髄空洞症	0	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	1	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	0	175	ウィーバー症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	176	コフィン・ローリー症候群	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー病	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	182	アペール症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	185	コフィン・シリズ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	2
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	1
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	208	修正大血管転位症	2
154	睡眠時棘徐波活性化を示す発達性てんかん性脳症及びてんかん性脳症	0	209	完全大血管転位症	2
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	4
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	15	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	1	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2
160	先天性魚鱗癬	1	215	ファロー四徴症	6
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	33	217	エプスタイン病	3
163	特発性後天性全身性無汗症	2	218	アルポート症候群	1
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワット症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	276	軟骨無形成症	0
222	一次性ネフローゼ症候群	105	277	リンパ管腫症/ゴーラム病	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224	紫斑病性腎炎	10	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
225	先天性腎性尿崩症	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
227	オスラー病	2	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	1	283	後天性赤芽球癆	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
230	肺胞低換気症候群	2	285	ファンconi貧血	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	2
235	副甲状腺機能低下症	1	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	293	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	1
242	高チロシン血症2型	0	297	アザール症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性腭炎	0
244	メープルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	29
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	1
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
251	尿素サイクル異常症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	44
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナバン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ポルフィリン症	3	309	進行性ミオクロームステんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	1	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	1
262	原発性高カイロミクロン血症	0	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳髄黄色腫症	0	318	シトリン欠損症	0
264	無 β リポタンパク血症	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	19	326	大理石骨病	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	0	329	無虹彩症	1
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
331	特発性多中心性キャスルマン病	6			
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0			
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0			
334	脳クレアチン欠乏症候群	0			
335	ネフロン癆	1			
336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合)	0			
337	ホモシスチン尿症	0			
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0			
339	MECP2重複症候群	0			
340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0			
341	TRPV4異常症	0			
342	LMNB1 関連大脳白質脳症	0			
343	PURA 関連神経発達異常症	0			
344	極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症	0			
345	乳児発症 STING 関連血管炎	0			
346	原発性肝外門脈閉塞症	0			
347	出血性線溶異常症	0			
348	ロウ症候群	0			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	130
合計患者数(人)	3769

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・感染対策向上加算1(指導強化加算)
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・患者サポート体制充実加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療感染対策加算3	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟:7対1入院基本料、入院栄養管理体制加算)	・呼吸ケアチーム加算
・救急医療管理加算	・術後疼痛管理チーム加算
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算1(20対1)	・データ提出加算(データ提出加算2)
・急性期看護補助体制加算(25対1(看護補助者5割以上)、看護補助体制充実加算1、夜間100対1急性期看護補助体制加算、夜間看護体制加算)	・入退院支援加算(加算1、地域連携診療計画加算、入院時支援加算、総合機能評価加算)
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・認知症ケア加算(加算1)
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料3(「注2」精神疾患診断治療初回加算、救急体制充実加算1)
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料1(早期離床・リハビリテーション加算)
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・新生児特定集中治療室管理料1
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2(無菌治療管理加算1及び2、養育支援体制加算、注2に規定する加算(保育士2名以上の場合))
・栄養サポートチーム加算	・入院時食事療養/生活療養(I)
・医療安全対策加算1	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の「注11」に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・ウイルス疾患指導料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・角膜移植術(内皮移植加算)
・心臓ペースメーカー指導管理料の「注5」に規定する遠隔モニタリング加算	・羊膜移植術
・糖尿病合併症管理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん性疼痛緩和指導管理料	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・がん患者指導管理料イ	・網膜再建術
・がん患者指導管理料ロ	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・がん患者指導管理料ハ	・人工中耳植込術
・がん患者指導管理料ニ	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来緩和ケア管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)、(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・糖尿病透析予防指導管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)
・婦人科特定疾患治療管理料	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・腎代替療法指導管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・一般不妊治療管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・生殖補助医療管理料1	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・下肢創傷処置管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・外来腫瘍化学療法診療料1	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・連携充実加算	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ニコチン依存症管理料	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・薬剤管理指導料	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・医療機器安全管理料1	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・医療機器安全管理料2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・精神科退院時共同指導料2	・胸腔鏡下弁形成術
・歯科治療時医療管理料	・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・救急患者連携搬送料	・胸腔鏡下弁置換術
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的冠動脈弁置換術)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経皮的僧帽弁クリップ術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・遺伝学的検査	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・染色体検査の注2に規定する基準	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・骨髄微小残存病変量測定	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・BRCA1/2遺伝子検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・先天性代謝異常症検査	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・補助人工心臓
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・経皮的下肢動脈形成術
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)

・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・長期継続頭蓋内脳波検査	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・光トポグラフィー	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・脳波検査判断料1	・体外衝撃波胆石破碎術
・神経学的検査	・腹腔鏡下肝切除術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・黄斑局所網膜電図	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・全視野精密網膜電図	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下膵中央切除術
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内服・点滴誘発試験	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経頸静脈的肝生検	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・経気管支凍結生検法	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・精密触覚機能検査	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・画像診断管理加算4	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・遠隔画像診断	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・同種死体腎移植術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・生体腎移植術
・乳房用ポジトロン断層撮影	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術

・外傷全身CT加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・心臓MRI撮影加算	・精巣内精子採取術
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・全身MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肝エラストグラフィ加算	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・体外式膜型人工肺管理料
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・摂食機能療法の「注3」に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2	・輸血管管理料Ⅰ
・がん患者リハビリテーション料	・輸血適正使用加算
・リンパ浮腫複合的治療料	・コーディネート体制充実加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・通院・在宅精神療法の注4に規定する児童思春期精神科専門管理加算	・同種クリオプレシピテート作製術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・多血小板血漿処置	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・レーザー機器加算
・人工腎臓	・麻酔管理料(Ⅰ)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・麻酔管理料(Ⅱ)
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・歯科麻酔管理料
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・放射線治療専任加算
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・外来放射線治療加算
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・高エネルギー放射線治療
・ストーマ合併症加算	・1回線量増加加算
・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・口腔粘膜処置	・画像誘導放射線治療(IGRT)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
放射線診療の発展に対応する放射線防護の基準策定のための研究	細野 眞	医学部放射線医学教室(放射線腫瘍学部門)	2,770,000	補委
未熟児網膜症における増殖膜線維化の病態解明	日下 俊次	医学部眼科学	700,000	補委
KRAS阻害剤の耐性機序の解明及びその克服治療についての研究	米阪 仁雄	医学部内科学教室(腫瘍内科部門)	100,000	補委
食道癌術前化学療法の治療効果予測—低酸素イメージングと癌シグナル伝達因子との相関	甲斐田 勇人	高度先端総合医療センターPET分子イメージング部	900,000	補委
ヒト冠動脈における第三世代薬剤溶出ステント留置後の生体反応の検討	中澤 学	医学部内科学教室(循環器内科部門)	400,000	補委
EGCGによる脳外傷後の高齢者高次脳機能障害発症抑制関連因子発現に関する研究	佐藤 隆夫	近畿大学病院病理診断科	300,000	補委
横隔膜エコーを活用した効果的な呼吸筋トレーニング法の開発	東本 有司	医学部リハビリテーション医学教室	700,000	補委
神経接着分子に着目した新規頭蓋内輸送システムの確立と脳腫瘍創薬への展開	米重 あづさ	医学部病理学教室	600,000	補委
免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象の発症及び重症化のリスク因子解析	谷崎 潤子	医学部内科学教室(腫瘍内科部門)	300,000	補委
EGFR変異肺癌に対する第4世代EGFR-TKIの有用性とその獲得耐性機序の解明	須田 健一	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,100,000	補委
糖尿病患者におけるサルコペニア発症に関与する遺伝子と分子メカニズムの解明	廣峰 義久	医学部内科学教室(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	100,000	補委
反復配列延長に関連する筋萎縮性側索硬化症の病態解明と治療法開発	平野 牧人	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	1,000,000	補委
多発性硬化症の発症・病態におけるIgAと腸内細菌の役割	尾村 誠一	医学部微生物学教室	900,000	補委
レビ-小体型認知症における血液診断マーカーの開発について	西郷 和真	近畿大学病院遺伝子診療部	700,000	補委
高齢放射線治療患者における非がん死亡低減にむけた包括的研究	松尾 幸憲	医学部放射線医学教室(放射線腫瘍学部門)	1,300,000	補委
臨床的グリオーマ実験モデルを用いた放射線脳壊死関連マクロファージの機能解析	中松 清志	医学部放射線医学教室(放射線腫瘍学部門)	700,000	補委
間質性肺炎合併放射線肺炎モデルの確立と吸入ステロイド薬の放射線防護効果の証明	立野 沙織	医学部放射線医学教室(放射線腫瘍学部門)	600,000	補委
自己免疫性膵炎・IgG4関連疾患の発症に関わる腸管・膵臓免疫ネットワークの解明	渡邊 智裕	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,100,000	補委
免疫チェックポイント阻害剤投与に伴う急速な腫瘍増大(HPD)の発症機序の解析	萩原 智	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,000,000	補委
青黛による芳香族炭化水素受容体の活性化を用いた慢性膵疾患の治療法の開発	鎌田 研	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,000,000	補委
難治性喘息・COPDなどの閉塞性気道疾患に併存する気管支拡張の早期病態の解明	松本 久子	医学部内科学教室(呼吸器・アレルギー内科部門)	500,000	補委
治癒を目指したCML幹細胞の特性解析	松村 到	医学部内科学教室(血液・膠原病内科部門)	600,000	補委
薬物介入による血中サブスタンスP濃度制御と食道癌術後の誤嚥治療または予防効果	安田 卓司	医学部外科学教室(上部消化管部門)	700,000	補委
直腸癌術後縫合不全発症における腸管免疫・腸内細菌を含む微小環境変化の解析	川村 純一郎	医学部外科学教室(下部消化管部門)	200,000	補委
卵巣高異型度漿液性癌のシングルセルHRDの解析と腫瘍内不均一性の解明	高矢 寿光	医学部産科婦人科学教室	300,000	補委

卵巣高異型度漿液性癌に対する分子標的薬による個別化治療に向けた検討	中井 英勝	医学部産科婦人科学教室	700,000	補委
遺伝性網膜・視神経ジストロフィの症例收拾および疾患別頻度の検討	國吉 一樹	医学部眼科学教室	1,000,000	補委
水素による皮膚・軟部組織内酸化ストレスの制御:難治性潰瘍に対する新規治療法の開発	富田 興一	医学部形成外科学教室	600,000	補委
非糖尿病患者の筋肉・体脂肪分布量と個人内血糖変動等の糖代謝に関する地域疫学研究	今野 弘規	医学部公衆衛生学教室	1,100,000	補委
高血圧症における廃用性筋萎縮からの回復遅延機構の解明と早期回復へ向けた治療展望	井上 敬夫	医学部病理学教室	700,000	補委
Prospectiveな情報による把持運動制御のメカニズム	村田 哲	医学部生理学教室	800,000	補委
心肥大関連タンパク質TWEAKRの新規相互作用に焦点を置いた心肥大機構の解明	前西 修	近畿大学病院病理診断科	1,200,000	補委
アルツハイマー病の分子病態と概日リズム睡眠障害との関連の解明	久保 厚子	医学部解剖学教室	700,000	補委
黄砂、越境大気汚染が全身性炎症と血液凝固能に与える影響についての検討	佐野 博幸	近畿大学病院アレルギーセンター	1,100,000	補委
電子聴診器による聴診所見の可視化と客観的聴診情報による電子診療録のリノベーション	稲村 昇	医学部小児科学教室	400,000	補委
抗ウイルス遺伝子産物により誘導される細胞内ウイルスRNA分解の新機構	博多 義之	医学部医学部教育センター	1,300,000	補委
うつ病発症機構におけるタンパクメチル化酵素によるリン酸化シグナル制御の重要性	宮田 信吾	東洋医学研究所	1,200,000	補委
GANPのヒストンAセチル化活性欠損に起因する乳癌サブタイプの臨床病理学的意義	栗原 一彦	近畿大学病院病理診断科	1,100,000	補委
ウイルス性心筋炎における血小板の役割の解明	佐藤 文孝	医学部微生物学教室	1,400,000	補委
末梢神経に高親和性の抗体による疼痛・搔痒の抑制	萩山 満	医学部病理学教室	1,200,000	補委
B細胞におけるAPOBEC3の発現誘導機構及びその分子機能の解明	河原 佐智代	医学部免疫学教室	1,400,000	補委
次世代型低温可塑性ボラスおよび患者固定具の開発	門前 一	近畿大学病院がんセンター放射線治療部医学物理室	1,000,000	補委
細菌叢プロファイルからみたIgG4関連疾患における多臓器病変形成メカニズムの解明	三長 孝輔	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,200,000	補委
大規模疫学データベースを用いた加熱式タバコの心血管疾患発症リスクの解明	松村 光一郎	医学部内科学教室(循環器内科部門)	700,000	補委
肺線維化における短鎖脂肪酸および受容体 FFAR2/3 の寄与解明	西山 理	医学部内科学教室(呼吸器・アレルギー内科部門)	1,200,000	補委
変異受容体型チロシンキナーゼの細胞内輸送制御による白血球治療薬の開発研究	田中 宏和	近畿大学病院輸血・細胞治療センター	1,300,000	補委
インフラマソーム活性化による重症敗血症時の血球減少とmicroRNAによる制御の解明	中嶋 康文	医学部麻酔科学教室	1,500,000	補委
脳の可塑性と機能回復への新たなアプローチ:手術合併症を回避するための臨床研究	露口 尚弘	近畿大学病院脳神経外科	800,000	補委
転移性脳腫瘍の制御を目的としたCAR-T細胞療法の開発に関する研究	奥田 武司	医学部脳神経外科学教室	1,100,000	補委
慢性腎臓病の骨・筋への影響とPAI-1の役割について	梶 博史	医学部再生機能医学教室	1,200,000	補委
エクソソームmiRNAを介した筋-脂肪間応答の異常は加齢性筋減衰を誘発する	糸数 万紀	医学部リハビリテーション医学教室	1,100,000	補委
前立腺癌マウスモデルを用いた腫瘍微小免疫環境の変化に関する基礎的研究	デベラスコ マルコ	医学部ゲノム生物学教室	1,400,000	補委
腸内細菌叢によるアンドロゲンシグナル経路を介した去勢抵抗性前立腺癌進展機序の解明	藤田 和利	医学部泌尿器科学教室	900,000	補委

卵巣類内膜癌のがん関連遺伝子変異に基づく腫瘍内不均一性の探索および発生機序の解明	貫戸 明子	医学部産科婦人科学教室	1,200,000	補委
マウス細胞株ライブラリーを用いた卵巣明細胞癌に対する新規バイオマーカーの探索	宮川 知保	医学部産科婦人科学教室	1,900,000	補委
HPVワクチンの「副反応」に関する仮説の科学的な検証	城 玲央奈	医学部産科婦人科学教室	1,400,000	補委
多形腺腫由来癌の癌化予測因子の網羅的解析と診断、治療法の確立	安松 隆治	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室	900,000	補委
法医学と行政機関の有機的連携による引きこもり等のセルフネグレクト孤独死研究	垣内 康宏	医学部法医学教室	1,500,000	補委
長期的大規模コホート調査による前がんおよび前神経変性疾患に関する臨床疫学的検討	井内田 科子	医学部予防医学・行動科学教室	600,000	補委
運動介入による再生、修復促進効果の新しい機序の解析研究	高橋 英夫	医学部薬理学教室	1,200,000	補委
皮膚終末糖化産物(AGE)をバイオマーカーとした幼児期肥満の病態解明と予防策	杉本 圭相	医学部小児科学教室	160,000	補委
非荷重に伴う骨格筋萎縮における組織線溶系の役割の検討	大平 宇志	医学部再生機能医学教室	1,400,000	補委
透視下内視鏡手技における被ばくの現状評価と低減対策(全国多施設研究)	竹中 完	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,700,000	補委
病態バイオマーカーを新機軸とした心理社会的療法の共創	柳 雅也	医学部精神神経科学教室	6,500,000	補委
CNNシステムによる大腸ポリープAI自動診断	米田 頼晃	医学部内科学教室(消化器内科部門)	400,000	補委
腸内細菌を標的とした妊娠高血圧腎症の創薬開発	川崎 薫	医学部産科婦人科学教室	700,000	補委
早期肺癌へのLiquid biopsyの応用	小原 秀太	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,200,000	補委
肺間葉系幹細胞を介した肺線維化メカニズムの解明:新たな治療アプローチの開発	辻本 宜敏	医学部麻酔科学教室	900,000	補委
PTHrPの手指骨形成における役割とその分子機序の解明	下出 孟史	近畿大学病院歯科口腔外科	800,000	補委
卵巣明細胞がんの腫瘍免疫機構の解明と新たな免疫療法の探索	村上 幸祐	医学部産科婦人科学教室	1,500,000	補委
間質性肺疾患の横隔膜動態と換気応答との関連,呼吸筋トレーニングの確立	白石 匡	近畿大学病院リハビリテーション部	700,000	補委
CT・MRI検査をまたぐシームレスな肝脂肪定量モデルの開発	石川 大介	高度先端総合医療センターPET分子イメージング部	100,000	補委
疾患感受性遺伝子と生活習慣の相互作用からみたクローン病の病態解明	本庶 元	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,800,000	補委
1型糖尿病における膵β細胞破壊の新規バイオマーカーと保護因子の解明	庭野 史丸	近畿大学病院内分泌・代謝・糖尿病内科	1,800,000	補委
EGFR/HER2 exon 20 挿入変異モデルに対する新規 TKI の獲得耐性機序の解明	濱田 顕	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,200,000	補委
胎盤局所の概日リズムは胎盤機能を介して母体の健康や胎児発育に関与するか?	近藤 愛(武下愛)	医学部解剖学教室	900,000	補委
原発性眼内悪性リンパ腫三次リンパ構造内 B 細胞解析による新規治療標的の解明	坂本 万寿夫	医学部眼科学教室	1,500,000	補委
血中抗酸化ビタミン濃度と循環器疾患発症リスクに関する大規模長期疫学研究	松村 拓実	医学部公衆衛生学教室	1,600,000	補委
地域高齢者への7日間心電図測定による発作性心房細動スクリーニングの有用性の検討	田中 麻理	医学部公衆衛生学教室	1,200,000	補委
NAD分解酵素SARM1の炎症下における役割の解明	杉澤 良一	医学部生化学教室	1,100,000	補委
遺伝子変異数及び癌関連遺伝子発現量による原発性肺癌の層別化方法の開発	伊藤 正興	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,000,000	補委

心停止蘇生後の呼吸商と転機および活性酸素との関連の研究	篠崎 広一郎	医学部救急医学教室	1,100,000	補委
新規AUG非依存性RAN翻訳の分子機構とその神経変性病態における役割	永井 義隆	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	23,700,000	補委
蛋白質の液-液相分離を標的とした神経変性疾患の発症機序解明と予防・治療法開発	永井 義隆	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	11,800,000	補委
エクソソームによるタンパク質クラランス機構の解明と病的意義	武内 敏秀	ライフサイエンス研究所	3,500,000	補委
APOBEC3欠損によるBリンパ腫発生の分子機構	宮澤 正顕	医学部免疫学教室	2,500,000	補委
ガンマオシレーション誘導法の統合失調症患者への応用と海馬病態への効果	柳 雅也	医学部精神神経科学教室	3,500,000	補委
腎細胞がんに対する癌ワクチンを用いた複合免疫療法の有用性に関する検討	植村 天受	医学部泌尿器科学教室	2,600,000	補委
木質住環境での室内環境の質的变化と居住者の健康維持増進に関する前向きコホート研究	東 賢一	医学部予防医学・行動科学教室	3,300,000	補委
ネオアンチゲン特異的T細胞の分化と機能を制御する分子基盤の解明による治療法の開発	垣見 和宏	医学部免疫学教室	5,100,000	補委
循環腫瘍DNAのメチル化解析による原発不明がんの原発臓器推定モデルの検証的研究	西尾 和人	医学部ゲノム生物学教室	4,000,000	補委
TWIST1発現に基づく高組織寄与MSCを用いた新しい組織再生医療と新規MSCマーカーの開発	寺村 岳士	高度先端総合医療センター再生医療部	3,500,000	補委
卵巣明細胞癌の根治を目指す新規免疫療法の開発	松村 謙臣	医学部産科婦人科学教室	2,800,000	補委
割込みに対処しつつ目的志向の行動を遂行する脳内機構	中島 敏	医学部生理学教室	4,800,000	補委
NEDD4制御異常の急性骨髄性白血病における役割	上田 健	医学部生化学教室	1,300,000	補委
多発性硬化症の異なる病型モデルにおける抗糖脂質抗体の役割の解明	角田 郁生	医学部微生物学教室	1,400,000	補委
膵島細胞に高発現する膜蛋白を標的とする膵島炎治療抗体医薬の開発	伊藤 彰彦	医学部病理学教室	1,300,000	補委
膵癌の不均一性と治療抵抗性獲得機序の解明	岡田 斉	医学部生化学教室	1,200,000	補委
胆道癌のドライバー変異に着目した腫瘍免疫微小環境の再構築と治療最適化	西田 直生志	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,500,000	補委
腫瘍環境の影響を受けた血小板RNAIによる術後肺癌の微小残存病変の同定	坂井 和子	医学部ゲノム生物学教室	1,400,000	補委
ピロリ菌外膜小胞がアルツハイマー病マウスの神経病理変化に果たす役割	朴 雅美	医学部医学部教育センター	1,300,000	補委
転写因子NFATc2の新規活性制御機構による髄鞘機能調節	石野 雄吾	東洋医学研究所	1,200,000	補委
免疫性ニューロパチーにおける重症化および予後に関わる生物学的因子の探索	桑原 基	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	1,200,000	補委
マイクロ波を用いた呼吸同期X線単純撮影および体動検知システムの開発	小坂 浩之	近畿大学病院中央放射線部	2,100,000	補委
TGF-βを標的とした新たな治療戦略としてのピルフェニドン併用放射線治療の開発	土井 啓至	医学部放射線医学教室(放射線腫瘍学部門)	1,200,000	補委
皮膚アレルギー疾患における末梢神経及びシュワン細胞の役割	大塚 篤司	医学部皮膚科学教室	1,200,000	補委
日本人1型糖尿病の疫学的特徴を利用した戦略的遺伝子解析と機能解析による病態解明	能宗 伸輔	医学部内科学教室(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	1,400,000	補委
多因子遺伝形質の分割と統合: 2型糖尿病における遺伝子・環境相互作用の解明	馬場谷 成	医学部内科学教室(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	1,800,000	補委
亜急性/慢性B型大動脈解離への胸部大動脈ステントグラフト内挿術至適介入時期の検討	玉井 夢菓	近畿大学病院心臓血管外科	1,200,000	補委

糖化最終産物による糖尿病血管障害の形態学的検討	北浦 淳寛	医学部麻酔科学教室	1,500,000	補委
中枢神経系原発悪性リンパ腫におけるCD276発現M2マクロファージの病的意義の解明	吉岡 宏真	医学部脳神経外科学教室	1,600,000	補委
軟部肉腫のCINSARCリスク分類と腫瘍内免疫動態の解明	小林 由香利	医学部免疫学教室	1,400,000	補委
平衡障害が遷延化する病態解明と固有知覚-聴覚の感覚代行フィードバック療法の開発	山中 敏彰	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室	1,700,000	補委
頭頸部がんの新規腫瘍マーカー解析	若崎 高裕	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室	1,500,000	補委
全国レセプト悉皆データに基づく骨脆弱性惹起疾患の診療と介護サービス消費の改善	伊木 雅之	医学部公衆衛生学教室	3,200,000	補委
終末糖化産物を標的としたInflammaging制御法の開発	西中 崇	医学部薬理学教室	1,500,000	補委
パンデミックを防ぐリスクに基づいた感染経路別の流行寄与と対策効果予測モデルの構築	水越 厚史	医学部予防医学・行動科学教室	1,500,000	補委
NAD分解酵素SARM1による老化・加齢関連疾患制御の解明	杉澤 良一	医学部生化学教室	1,200,000	補委
抗腫瘍薬腎関連有害事象予防と治療の新たな戦略~介入可能な因子の同定と介入研究~	村島 美穂	医学部内科学教室(腎臓内科部門)	1,800,000	補委
KRAS阻害薬の耐性機序の解明と克服	金村 宙昌	医学部内科学教室(腫瘍内科部門)	1,800,000	補委
オルガノイド技術を駆使した胆道腫瘍モデルマウス解析からヒト胆道癌治療開発への展開	長尾 宗政	医学部内科学教室(消化器内科部門)	100,000	補委
敗血症性心筋症のメカニズムの解明と治療への展開	法里 慧	医学部麻酔科学教室	2,000,000	補委
骨・筋組織由来細胞外小胞を介した原発性骨粗鬆症発症機序の解明	水上 優哉	医学部再生機能医学教室	1,800,000	補委
絨毛膜羊膜炎の診断のための血中細菌由来セルフリーDNA解析	葉 宜慧	医学部産科婦人科学教室	900,000	補委
高生体親和性ハイブリッド人工耳介の臨床応用に向けて	末吉 遊	医学部形成外科学教室	1,200,000	補委
薬剤関連顎骨壊死治療薬としてのPTH、PTHrP製剤局所投与の効果についての検討	木下 優子	近畿大学病院歯科口腔外科	1,100,000	補委
メタボローム解析に基づく生体代謝産物と循環器疾患発症に関する大規模疫学研究	李 嘉キ	医学部公衆衛生学教室	3,100,000	補委
全身麻酔手術を受ける高齢患者の「術後睡眠障害リスク尺度」の開発	美野 多佳志	近畿大学病院NA・NP室	2,200,000	補委
食道癌患者における術前吸気筋トレーニングの有用性に関する研究 ランダム化比較試験	水澤 裕貴	近畿大学病院リハビリテーション部	1,100,000	補委
超音波内視鏡検査による早期胃癌診断における新規微細血流イメージングの有用性評価	大本 俊介	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,800,000	補委
ヒト胆道癌オルガノイドを用いた胆道癌の新規治療法の探索	長尾 宗政	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,000,000	補委
リポーム解析による重症筋無力症の遺伝的素因の解明	藤野 雄三	近畿大学病院脳神経内科	2,100,000	補委
大動脈瘤のMRエラストグラフィ: 瘤の「硬さ」はEVAR後の再増大を予測しうるか?	岡田 卓也	医学部放射線医学教室(放射線診断学部門)	400,000	補委
不信任に抗って他者を信頼する脳内機構	倉岡 康治	医学部生理学教室	600,000	補委
胃がん腹膜播種の免疫細胞ネットワーク解明に基づく複合的がん免疫治療法の開発	長岡 孝治	医学部免疫学教室	900,000	補委
急性期脳梗塞の機能予後改善のための迷走神経刺激による革新的脳保護デバイスの開発	田中 寛大	近畿大学病院救急災害センター脳卒中センター	900,000	補委
SCA8関連筋萎縮性側索硬化症の動物モデルに対する治療薬の検証	平野 牧人	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	20,000,000	補委

計 27

計 28

骨軟部腫瘍におけるゲノム異常に基づくTCR-T細胞治療と免疫制御法を併用した組織型横断的新規がん免疫治療法の開発	垣見 和宏	医学部免疫学教室	23,000,000	補 委	
患者血液検体を用いたミトコンドリア異常と免疫チェックポイント阻害薬の治療効果との関連について明らかにする後方視的研究	林 秀敏	医学部内科学教室 (腫瘍内科部門)	10,000,000	補 委	
アルギニンによるアルツハイマー病の予防および進行抑制	永井 義隆	内科学教室 (脳神経内科部門)	4,000,000	補 委	

計 3
合計140

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hiromasa Yoshioka, Takeshi Okuda, Mitsugu Fujita et al.	脳神経外科	Survival Impact of Postoperative Whole- brain Radiotherapy and Systemic Chemotherapy After Surgical Resection of Brain Metastases	Anticancer Res 2024 Aug	Original Article
2	Omer Faruk Hatipoglu, Takashi Nishinaka, Masahiro Nishibori et al.	薬理学	Histidine-rich glycoprotein inhibits TNF- α -induced tube formation in human vascular endothelial cells.	Front Pharmacol. 2025 Mar	Original Article
3	Hiroki Mizusawa, Yuji Higashimoto, Osamu Shiraishi, et al	リハビリテーション科	Inspiratory Muscle Training Before Esophagectomy Increases Diaphragmatic Excursion: A Randomized Controlled Trial.	Annals of surgical oncology. 2024 Dec	Original Article
4	Masaya Noguchi, Toshiki Takemoto, Masashi Shiraishi, et al	リハビリテーション科	Predictive Value of Preoperative Peak Oxygen Uptake for Postoperative Pulmonary Complications in Lung Cancer Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease: A Single-center Retrospective Cohort Study.	Oncology. 2025 Jan	Original Article
5	Ryo Yamazaki , Osamu Nishiyama, Kazuya Yoshikawa et al.	呼吸器・アレルギー内科	Incidence, etiology, and outcome of hospital-acquired pneumonia in patients with acute exacerbation of fibrotic idiopathic interstitial pneumonia.	Respir Invest 2024 May	Original Article

6	Kazuya Yoshikawa, Osamu Nishiyama, Ryo Yamazaki et al.	呼吸器・アレルギー内科	Selexipag for patients with pulmonary hypertension associated with lung disease:A preliminary study.	Respir Investig 2024 Sep	Original Article
7	Masashi Shiraishi, Yuji Higashimoto, Ryuji Sugiya, et al.	リハビリテーション部	Enhanced diaphragm excursion and exercise tolerance in COPD patients through inspiratory muscle training after standardised pulmonary rehabilitation:randomised controlled trial.	ERJ Open Res. 2024 Nov	Original Article
8	Naru Babaya,Sawa Yoshida,Shinsuke Noso et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	A 58-Year-Old Man with a History of Autoimmune Thyroiditis Diagnosed with Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma and Papillary Carcinoma of the Thyroid	American Journal of Case Reports, 2025 Mar	Case report
9	Atsushi Terayama, Motoi Kuwahara, Keisuke Yoshikawa et al.	脳神経内科	Takotsubo cardiomyopathy in Guillain-Barré syndrome.	J. Neurol. 2024 Jul	Original Article
10	Iwamoto, Masayoshi, Makutani, Yusuke, Ushijima, Hokuto et al	下部消化管外科	Cranial-First Approach in Robot-Assisted Right Hemicolectomy.	Diseases of the Colon & Rectum.2024 June	Original Article
11	Yusuke Makutani, Masayoshi Iwamoto, Koji Daito et al	下部消化管外科	Laparoscopically treated bowel obstruction secondary to a lesser omental hernia resulting from a previous laparoscopic total colectomy for ulcerative colitis: A report of two cases.	Asian journal of endoscopic surgery. 2024 July	Original Article
12	Kuniko Tachibana, Chiharu Iwahashi, Kazuki Kuniyoshi, et al.	眼科	Long-term visual function and refractive changes after vitrectomy for stage 4 retinopathy of prematurity	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2025 Jul	Original Article
13	Natsumi Kawaguchi, Fukutaro Mano,Hiroyuki Kondo, et al.	眼科	Two Cases of Rubinstein-Taybi Syndrome With Retinal Detachment	Cureus 2025 Mar	Case report

14	Tomoki Kurihara, Chiharu Iwahashi, Fukutaro Mano, et al.	眼科	Sweeping technique for the removal of emulsified silicone oil droplets from the anterior surface of the iris using an ophthalmic absorption sponge	Retin Cases Brief Rep. 2025 Mar	Case report
15	Yuki Goto, Kazuki Kuniyoshi, Kensuke Goto, et al.	眼科	Development of Macular Atrophy after Macular Hole Surgery in an Eye with Retinitis Pigmentosa	Case Rep Ophthalmol 2025 Jan	Case report
16	Masaki Fukushima, Kotaro Tsuboi, Ryota Akai, et al.	眼科	SPARING VERSUS REMOVAL OF EPIRETINAL PROLIFERATION IN THE SURGICAL REPAIR OF FULL-THICKNESS MACULAR HOLES	Retina 2024 Dec	Original Article
17	Akemi Wakayama, Chota Matsumoto, Keisuke Utamura et al	眼科	Measurement of paracentral stereopsis using a new method with the binocular open perimeter imovifa® in normal adults	Jpn J Ophthalmol. 2024 Jul	Original Article
18	Tomoko Sato, Kazuki Kuniyoshi, Takaaki Hayashi, et al.	眼科	Clinical course of two siblings with potassium voltage-gated channel modifier subfamily V member 2 (KCNV2)-associated retinopathy	Doc Ophthalmol 2024 Jun	Case report
19	Maki Okubo, Fukutaro Mano, Ryuya Hashimoto, et al.	眼科	Amalric triangular sign and carotid Doppler ultrasonographic findings in central retinal artery occlusion	Retina 2024 Aug	Original Article
20	Ryosuke Kakinoki, Yukiko Hara, Koichi Yoshimoto et al.	整形外科	Fabrication of Artificial Nerve Conduits Used in a Long Nerve Gap: Current Reviews and Future Studies.	Bioengineering (Basel). 2024 Apr	Original Article
21	Daichi Matsumura, Naoyuki Kawao, Ayaka Yamada, et al.	整形外科	Tmem119 deficiency delays bone repair in mice.	Bone. 2024 Sep	Original Article
22	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Tomohiko Ito, et al.	整形外科	Treatment algorithm for metastatic malignancies in the lower extremities.	Mol Clin Oncol. 2024 Jun	Original Article

23	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Yu Shinyashiki, et al.	整形外科	Grisel's Syndrome After COVID-19 in a Pediatric Patient: A Case Report.	Cureus. 2024 Jun	Case report
24	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Tomohiko Ito, et al.	整形外科	Total management of hemangiopericytoma/solitary fibrous tumor of the buttock: A case report.	Medicine (Baltimore). 2024 Jul	Case report
25	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Tomohiko Ito, et al.	整形外科	Oncological and functional outcomes of pathological fractures of lower extremities in patients with malignant bone tumors.	Mol Clin Oncol. 2024 Jul	Original Article
26	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Tomohiko Ito, et al.	整形外科	Efficacy of Surgical Intervention in Treating Pathological Fractures of the Upper Extremity: A Retrospective Case Series.	Cureus. 2024 Oct	Case report
27	Kazuhiko Hashimoto, Shigeshi Mori, Terumasa Ikeda, et al.	整形外科	Unveiling Poncet Disease: A Rare Presentation with Multiple Tubercular Foci in the Hand and Spine of an Older Patient: A Case Report.	J Hand Surg Asian Pac Vol. 2025 Feb	Case report
28	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Koji Goto.	整形外科	PD 1/PD L1 immune checkpoint in bone and soft tissue tumors (Review).	Mol Clin Oncol. 2025 Jan	Review
29	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Tomohiko Ito, et al.	整形外科	Treatment outcomes of pathological fractures in patients with benign bone tumors.	Medicine (Baltimore). 2025 Feb	Original Article
30	Teruaki Hashimoto, Masao Akagi, Ichiro Tsukamoto, et al.	整形外科	RANKL-mediated osteoclastic subchondral bone loss at a very early stage precedes subsequent cartilage degeneration and uncoupled bone remodeling in a mouse knee osteoarthritis model.	J Orthop Surg Res. 2025 Mar	Original Article

31	Ryosuke Kakinoki, Kazuhiro Ohtani, Souichi Ohta, et al.	整形外科	Treatment of Complete Brachial Plexus Injuries Using Double Free Muscle Transfer.	J Hand Surg Am. 2025 Mar	Original Article
32	Kensuke Toriumi, Hiroshi Miyamoto, Terumasa Ikeda, et al.	整形外科	Magnetic resonance imaging evaluation of cervical paraspinal muscles in dropped head syndrome.	Eur Spine J. 2025 Mar	Original Article
33	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Koji Goto.	整形外科	Comprehensive Analysis of Osteosarcoma Referral Letters: Insights into Medical Collaboration and Diagnostic Practices at Our Hospital.	Cancer Diagn Progn. 2025 Mar	Original Article
34	Shingo Toyoda, Wataru Fukuokaya, Keiichiro Mori, et al.	泌尿器科	Clinical outcomes and prognostic factors in metastatic nonclear cell renal cell carcinoma treated with immunology combination therapy.	Jpn J Clin Oncol. 2024 Dec	Original Article
35	Kazutoshi Fujita, Yuto Matsushita, Shingo Toyoda, et al.	泌尿器科	The efficacy of second-line tyrosine kinase inhibitor for patients with metastatic non-clear cell renal cell carcinoma following first-line immunology combination therapy.	World J Urol. 2024 Sep	Original Article
36	Takafumi Minami, Saizo Fujimoto, Kazutoshi Fujita.	泌尿器科	Iodine-125 low-dose rate prostate brachytherapy	Int J Urol. 2025 Feb	Review
37	Saori Tatsuno, Hiroshi Doi, Masahiro Inada, et al.	放射線腫瘍学部門	Clinical outcomes and failure patterns after postoperative radiotherapy for oral cavity squamous cell carcinoma	Strahlenther Onkol. 2024 May	Case report
38	Naoko Ishida, Yukinori Matsuo, Junki Fukuda, et al.	放射線腫瘍学部門	Radiation-Induced Lymphopenia and Its Impact on Survival in Patients with Brain Metastasis	Curr Oncol. 2024 Aug	Original Article

39	Hiroshi Doi, Yukinori Matsuo,Noriko Kishi, et al.	放射線腫瘍学部門	Optimal Duration of Consolidation Durvalumab Following Chemoradiotherapy in Stage III Non-Small Cell Lung Cancer: A Multi-institutional Retrospective Study	Target Oncol. 2025 Jan	Original Article
40	Saori Tatsuno, Hiroshi Doi, Masahiro Inada, et al.	放射線腫瘍学部門	Intensity-modulated radiation therapy can reduce acute toxicities in long-course neoadjuvant radiation therapy combined with S-1 for locally advanced rectal cancer	Int J Clin Oncol. 2025 Mar	Original Article
41	Kazunari Ishii, Takahiro Yamada, Kohei Hanaoka, et al.	放射線診断科	Regional differences in glucose metabolic decline and tau deposition in the Alzheimer's continuum brain.	J Alzheimers Dis.2024 Nov	Original Article
42	Tomoyuki Matsumoto, Tatsushige Iwamoto, Yasufumi Nakajima, et al.	麻酔科	Evaluation of Adequacy of Using the Supraglottic Airway Device (i-gel®) in Cases With Epiglottic Masses: A Mannequin Simulation Study.	Cureus.2024 Nov	Original Article
43	Atsuhiko Kitaura,Hiroatsu Sakamoto, Shota Tsukimoto, et al.	麻酔科	Total Intravenous Anesthesia Using Remimazolam for Transcarotid Approach Transcatheter Aortic Valve Replacement: A Case Report.	Cureus.2024 Jul	Original Article
44	Atsuhiko Kitaura, Hiroatsu Sakamoto, Shota Tsukimoto, et al.	麻酔科	Retrograde Aortic Valve Migration During Transcatheter Aortic Valve Replacement for Aortic Regurgitation: A Case Report Highlighting the Importance of Prompt Venoarterial Extracorporeal Membrane Oxygenation (VA-ECMO) Initiation	Cureus. 2024 Jun	Original Article

45	Shuta Ohara, Kenichi Suda, Sumedha Sudhaman, et al.	呼吸器外科	Clinical Significance of Perioperative Minimal Residual Disease Detected by Circulating Tumor DNA in Patients With Lung Cancer With a Long Follow-up Data: An Exploratory Study	JTO Clin Res Rep. 2024 Nov	Original Article
46	Shuta Ohara, Kenichi Suda, Akira Hamada, et al.	呼吸器外科	Clinical factors associated with high PD-L1 expression in patients with early- stage non-small cell lung cancer	Thorac Cancer. 2024 Nov	Original Article
47	Shota Fukuda, Kenichi Suda, Akira Hamada, et al.	外呼吸器外科	Potential Utility of a 4th-Generation EGFR-TKI and Exploration of Resistance Mechanisms-An In Vitro Study	Biomedicines. 2024 Jun	Original Article
48	Tetsuya Mitsudomi	呼吸器外科	Savolitinib in NSCLC: progress in the MET exon 14 journey	Lancet Respir Med . 2024 Dec	Others
49	Yasuhiro Tsutani, Yoshihiro Miyata, Kenji Suzuki, et al.	呼吸器外科	Pathologic Response and Survival after Neoadjuvant Chemotherapy with Bevacizumab Followed by Surgery for Clinical Stage II/IIIA Nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer: Results from a Phase II Feasibility Study (NAVAL)	Cancers. 2024 Jun	Original Article
50	Masayuki Shinkai,Moto hiro Imano,Masaki Yokokawa, et al	上部消化管外科	Phase I study of neoadjuvant chemoradiotherapy with S-1 for clinically resectable type 4 or large type 3 gastric cancer in elderly patients aged 75 years and older (OGSG1303)	Med Oncol 2024 Dec	Original Article
51	Atsushi Yasuda,Yutak a Kimura,Tsuto mu Saito, et al	上部消化管外科	Perioperative intervention of dysphagia rehabilitation team in older adults with gastric cancer: An inverse probability weighting analysis	J Geriatr Oncol 2025 Jan	Original Article

52	Hidetoshi Hayashi, Kenji Chamoto, Ryusuke Hatae, et al.	腫瘍内科	Soluble immune checkpoint factors reflect exhaustion of antitumor immunity and response to PD-1 blockade.	J Clin Invest.2024 Apr	Original Article
53	Hidetoshi Hayashi, Makoto Nishio, Hiroaki Akamatsu, et al.	腫瘍内科	Association between Immune-Related Adverse Events and Atezolizumab in Previously Treated Patients with Unresectable Advanced or Recurrent Non-Small Cell Lung Cancer.	Cancer Res Commun.2024 Nov	Original Article
54	Tomohiro Nakayama, Takayuki Takahama, Yasutaka Chiba, et al.	腫瘍内科	Evaluation of immune checkpoint inhibitor efficacy for solid tumors with CD274 (PD-L1 gene) amplification identified by comprehensive genomic profiling: retrospective study based on a nationwide database.	J Immunother Cancer. 2024 Dec	Original Article
55	Kimio Yonesaka, Takashi Kurosaki, Junko Tanizaki, et.al	腫瘍内科	Chromosomal Instability Is Associated with cGAS-STING Activation in EGFR-TKI Refractory Non-Small-Cell Lung Cancer	Cells. 2025 Mar	Original Article
56	Hisato Kawakami, Koki Nakanishi, Akitaka Makiyama, et.al	腫瘍内科	Real-world effectiveness and safety of trastuzumab-deruxtecan in Japanese patients with HER2-positive advanced gastric cancer (EN-DEAVOR study)	Gastric Cancer. 2025 Jan;28(1):51-61. doi: 10.1007/s10120-024-01555-w.	Original Article
57	Naoki Shiraishi N, Takayuki Takahama, Kazuko Sakai, et al.	ゲノム医療センター	Detection of Overlooked Rare EGFR Mutations in Non-small Cell Lung Cancer Using Multigene Testing.	Thorac Cancer. 2025 Feb	Original Article
58	Ken Kamata, Masatoshi Kudo, Yomohiro Watanabe	消化器内科	Indigo naturalis as a promising novel treatment for type 2 autoimmune pancreatitis	Pancreatology.2024 Jun	Case report

59	Masatoshi Kudo	消化器内科	Immune checkpoint inhibitors plus anti-VEGF/Tyrosine kinase inhibitors combined with TACE (Triple therapy) in unresectable hepatocellular carcinoma	Liver Cancer.2024 Apr	Others
60	Yoriaki Komeda, Hideki Ishikawa, Teruhiko Yoshida, et.al	消化器内科	Familial adenomatous polyposis with atypical clinical morphology and genetic variants	Intern Med. 2024 Apr	Case report
61	Masatoshi Kudo	消化器内科	A changing role of transarterial chemoembolization in the era of immune checkpoint inhibitor plus anti-VEGF/TKI plus transarterial chemoembolization: From total embolization to partial embolization (Immune Boost Transarterial Chemoembolization)	Liver Cancer.2024 May	Others
62	Yasuo Otsuka, Yasuhiro Masuta, Kosuke Minaga, et al	消化器内科	Reciprocal regulation of protein arginine deiminase 2 and 4 expression in the colonic mucosa of ulcerative colitis.	J Clin Biochem Nutr.2024 Jul	Original Article
63	Shigenaga Matsui, Hiroshi Kashida, Masahiro Takita, et al	消化器内科	Endoscopic glue injection therapy with N-butyl-2-cyanoacrylate for bleeding from isolated large rectal varices	Endoscopy.2024 Dec	Case report
64	Tomohiro Yamazaki, Ken Kamata, Tomoko Hyodo, et al	消化器内科	Utility of contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasonography to diagnose pancreaticobiliary maljunction.	Dig Dis Sci.2024 Aug	Original Article
65	Yasuo Otsuka, Kosuke Minaga, Akane Hara, et al	消化器内科	Detective flow imaging endoscopic ultrasound for locating optimal puncture site for a poorly vascularized pancreatic mass	Endosc Int Open.2024 Sep	Others

66	Naoya Omaru, Yasuo Otsuka, Akane Hara,et al	消化器内科	Microbe-associated molecular patterns derived from fungi and bacteria promote IgG4 antibody production in patients with type 1 autoimmune pancreatitis	Cytokine.2024 Nov	Case report
67	Akane Hara, Kosuke Minaga, Yasuo Otsuka,et al	消化器内科	An autopsy case of gas gangrene, massive intravascular hemolysis, and cytokine storm due to Clostridium perfringens type A infection	IDCases.2024 Oct	Case report
68	Sho Masaki, Yasuhiro Masuta, Hajime Honjo,et al	消化器内科	NOD2-mediated dual negative regulation of inflammatory responses triggered by TLRs in the gastrointestinal tract.	Front Immunol.2024 Sep	Review
69	Sho Masaki, Hajime Honjo, Masayuki Kurimoto,et al	消化器内科	Concurrent occurrence of ulcerative duodenitis and ulcerative colitis displaying unique responses to golimumab and Ustekinumab	Clin J Gastroenterol.2024 Oct	Case report
70	Ikue Sekai, Kosuke Minaga, Akane Hara,et al	消化器内科	Transmesenteric internal hernia: an unexpected adverse event induced by colonoscopy	Clin J Gastroenterol.2024 Oct	Case report
71	Masashi Kono, Yoriaki Komeda, Hisato Kawakami,et al	消化器内科	JAK inhibitor upadacitinib induces remission in refractory immune-related colitis triggered by CTLA-4 and PD-1 inhibitor combination therapy in malignant pleural mesothelioma: A case report	Cancer Rep(Hoboken).2024 Oct	Case report
72	Masatoshi Kudo	消化器内科	Nivolumab plus Ipilimumab: A novel first-line combination immunotherapy for unresectable hepatocellular carcinoma	Liver Cancer.2024 Aug	Others

73	Akane Hara, Tomohiro Watanabe, Kosuke Minaga,et al	消化器内科	A positive cytokine/chemokine feedback loop establishes plasmacytoid dendritic cell-driven autoimmune pancreatitis in IgG4- related disease	JCI Insight.2024 Sep	Others
74	Yasuo Otsuka, Ikue Sekai, Yasuhiro Masuta,et al	消化器内科	Clinical practice guidelines for acute pancreatitis in the United States and Japan: similarities and differences	Hepatobil Surg Nutr.2024 Oct	Case report
75	Ayana Okamoto, Ken Kamata, Tomohiro Yamazaki,et al	消化器内科	Comparison of bispectral index- guided endoscopic ultrasonography with continuous versus intermittent infusion of propofol: a retrospective study in Japan	Clin Endosc.2024 Nov	Original Article
76	Masatoshi Kudo	消化器内科	Challenges in adjuvant immunotherapy after resection or ablation for hepatocellular carcinoma at high- risk of recurrence	Liver Cancer.2024 Oct	Others
77	Masatoshi Kudo, Kaoru Tsuchiya, Tatsuya Yamashita,et al	消化器内科	Reply to the Letter regarding “Impact of bevacizumab being skipped due to adverse events of special interest for bevacizumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab plus bevacizumab: An exploratory analysis of the Phase III IMbrave150 study	Liver Cancer.2024 May	Letter
78	Masatoshi Kudo	消化器内科	Systemic therapy combined with locoregional therapy in intermediate-stage hepatocellular carcinoma	Intervent Radiol(Higashimatsuyama). 2024 Dec	Review

79	Takuya Matsubara, Satoru Hagiwara, Naoshi Nishida, et al	消化器内科	Observational pilot study of switching from entecavir to tenofovir alafenamide in patients with chronic hepatitis B	Sci Rep.2025 Jan	Others
80	Masatoshi Kudo, Zhenggang Ren, Yabing Guo, et al	消化器内科	Transarterial chemoembolisation combined with Lenvatinib plus pembrolizumab versus dual placebo for unresectable, non-metastatic hepatocellular carcinoma (LEAP-012): a multicentre, randomised, double-blind, phase 3 study.	Lancet.2025 Jan	Others
81	Kosuke Minaga, Tomohiro Watanabe, Akane Hara, et al	消化器内科	Gut microbiota involved in the immunopathogenesis of autoimmune pancreatitis	Gut Liver.2025 Mar	Review
82	Akane Hara, Tomohiro Watanabe, Kosuke Minaga, et al	消化器内科	Sequential activation of conventional and plasmacytoid dendritic cells in autoimmune pancreatitis and systemic lupus erythematosus: similarities and dissimilarities	Front Immunol.2025 Feb	Original Article

計82件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計0件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 目的・役割・責務・記録の保存・守秘義務など	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 新規に申請された臨床研究における利益相反の審査、利益相反の年次審査	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年8回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年9回
・ 研修の主な内容 臨床研究セミナーの開催 「現行の倫理指針を遵守した臨床研究を実施する上での留意点」等	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

近畿大学病院における専門研修プログラムは、内科専門研修プログラムをはじめ、各18診療科（領域）の専門研修及び歯科暫定プログラムを行う体制を構築している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 138人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平野 牧人	内科	教授	35 年	
中澤 学	循環器内科	教授	25 年	
前田 法一	内分泌・代謝・糖尿病内科	教授	30 年	
工藤 正俊	消化器内科	教授	47 年	
松村 到	血液・膠原病内科(血)	教授	42 年	
木下 浩二	血液・膠原病内科(膠)	教授	39 年	
有馬 秀二	腎臓内科	教授	35 年	
永井 義隆	脳神経内科	教授	35 年	
林 秀敏	腫瘍内科	教授	22 年	
松本 久子	呼吸器・アレルギー内科	教授	35 年	
橋本 衛	精神神経科	教授	34 年	
杉本 圭相	小児科	教授	23 年	
安田 卓司	外科	教授	39 年	
安田 卓司	上部消化管外科	教授	39 年	
川村 純一郎	下部消化管外科	教授	30 年	
上田 和毅	内視鏡外科	教授	31 年	
松本 逸平	肝胆膵外科	教授	32 年	
津谷 康大	呼吸器外科	教授	25 年	
菰池 佳史	乳腺・内分泌外科	教授	35 年	
安田 卓司	小児外科	教授	39 年	
坂口 元一	心臓血管外科	教授	33 年	
高橋 淳	脳神経外科	教授	34 年	
後藤 公志	整形外科	教授	30 年	
東本 有司	リハビリテーション科	教授	39 年	
富田 興一	形成外科	教授	22 年	
大塚 篤司	皮膚科	教授	22 年	
藤田 和利	泌尿器科	教授	25 年	

日下 俊次	眼科	教授	39 年
安松 隆治	耳鼻咽喉・頭頸部 外科	教授	30 年
松村 謙臣	産婦人科	教授	29 年
石井 一成	放射線科	教授	39 年
石井 一成	放射線科(診断学 部門)	教授	39 年
松尾 幸憲	放射線科(腫瘍学 部門)	教授	26 年
中嶋 康文	麻酔科	教授	33 年
篠崎 広一郎	救命救急センター	教授	23 年
上裕 俊法	臨床検査医学	教授	40 年
佐藤 隆夫	病理診断科	教授	44 年
榎本 明史	歯科口腔外科	教授	26 年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）</p> <p>・研修の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療機器の安全使用のための研修（外部照射装置）2. 医療機器の安全使用のための研修（密封小線源）3. 近畿大学病院技術部において、院内に勤務する多職種の方々に向けての研修会（近畿大学奈良病院とも共有。） * 中央臨床検査部「法的脳死判定～臨床検査技師の立場から～」を講演（動画）。4. 糖尿病セミナー2024 若手看護師に向けての糖尿病検査等に関する研修会（代謝内科主催）5. TeamSTEPS（米国AHRQと国防総省との合同研究企画の結果生まれたチームの新しい活動の考え方・あり方の概要で、特にストレスの高い状況下で治療や看護を行う医療提供者によるチーム活動の進め方とトレーニング方法）研修を医師・歯科医師以外の医療者を含む全職員対象で実施6. 新規採用者（4月入職以降）・中途採用者・復職者を対象にした医療安全研修を実施7. 看護師研修（別紙①参照） <p>・研修の期間・実施回数</p> <ol style="list-style-type: none">1. 2回/年2. 2回/年3. 2024年9月2日～2022年10月18日（Web視聴）4. 2024年10月2日 開催5. 定期的開催。2020年2月8日までに計64回実施（コロナの影響により延期） 2022年5月よりWeb研修と対面で再開し2025年9月までに第93回実施（'07/12/13も予定）6. 定期的に開催していたが、コロナ禍になり2021年度からは対象者にUSB録画データを貸し出しておいての自習とし、視聴後は知識の習得確認アンケートを提出することで完了とした。 今後もe-learning研修と併用していく。7. 看護師研修（別紙①参照） <p>・研修の参加人数</p> <ol style="list-style-type: none">1. 8名2. 8名3. 252名参加 202名アンケート回答有4. 30名5. 5374名（2025年9月10日現在）6. 新規採用者：182名、中途採用者・復職者：22人（2024年度）7. 看護師研修（別紙①参照）
<p>② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）</p> <p>・研修の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none">1. 放射線科医師、医学物理士、診療放射線技師、看護師による合同の放射線治療症例検討会の実施

2. 医学物理士、診療放射線技師、看護師による始業前ミーティングの実施
 3. 医学物理士、診療放射線技師による高精度放射線治療機器のQA, QCの実施結果の報告、研修の実施
 4. 放射線科医師、医学物理士、診療放射線技師、看護師による放射線治療における連絡会議の実施
 5. ISO：化学物質取り扱い研修
 6. ISO：接客全体研修
 7. 生体検査部門 接客研修
 8. 採血室 接客研修
 9. 生体検査部門 BLS研修
 10. ISO：災害訓練
 11. 生体検査部門 災害訓練
 12. 第一検体検査部門 システム障害時の運用について
 13. 医療安全対策チーム会（各部門から代表で選出された医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・臨床工学技士・栄養士・放射線技師・事務職員）を通して、TeamSTEPPSや事例分析の講義及び演習を実施。
「チーム会の目的」医療安全とは」「TeamSTEPPSの基礎編」「TeamSTEPPSの実際」「患者・家族も含めた医療チームを考える」「安全パトロール」「病院機能評価受審にあたっての医療安全の取り組み」「事例を基に患者・家族、職員間の良い対応を考える(GW)」「11月事例発表」「RCA(根本分析法)講義」「RCA実習(GW)」「TeamSTEPPS活動報告」を実施。
他に、RRS（院内急変対応システム）の考え方や事例を基にしたディスカッション、転倒転落予防への取り組み方法、心理的安全性のある組織醸成等について研修している。
 14. 看護師研修（別紙①参照）
- ・研修の期間・実施回数
1. 1回/週
 2. 1回/日
 3. 1回/週
 4. 1回/2か月
 5. 2024年5月16日～6月11日
 6. 2025年2月10日～2025年3月20日
 7. 第1回目 2024年8月10日～2024年8月24日
第2回目 2024年10月10日～2024年10月31日
 8. 2024年10月21日～10月31日
 9. 第1回目 2024年8月7日～8月13日
第2回 2024年10月16日～21日
 10. 2025年2月22日～2025年3月28日
 11. 2024年11月18日～11月26日
 12. 2024年12月1日～12月23日
 13. 11回（2024年度）
 14. 看護師研修（別紙①参照）
- ・研修の参加人数
1. 18名、 2. 10名、 3. 3～5名、 4. 8名、 5. 119名、 6. 119名 7. 第1回目：24名、第2回目：24名、 8. 22名、 9. 第1回目：24名 第2回目：23名、 10. 119名、 11. 24名、 12. 19名 13. 53名 14. 看護師研修（別紙①参照）

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

1. 認定輸血検査技師試験 施設研修
2. 学会認定・臨床輸血看護師 施設研修
3. 南大阪医療安全ネットワーク研修会・・・南大阪地域内での医療安全情報共有を目的とし、2013年に南大阪医療安全ネットワークを設立。会員・非会員を対象に定期的に研修会を開催。当院を含む幹事病院で演者を担当し、2024年度は「医療安全でのお悩みの共有と相談」「ソコ！もっと深掘り希望！」「予期せぬ死亡への向き合い方」「医療安全対策の不時着—医療安全対策の本質的な解決(アトブレナツプ)について考える—」「医療安全現場での課題の検討：現場への医療安全の委譲と医療安全後継者問題」といった内容で研修会を実施。

・研修の期間・実施回数

1. 2日間・1回
2. 1日間・1回
3. Webと集合で5回開催。

・研修の参加人数

1. 1～3名
2. 1～4名
3. 対面とweb形式の講義を交互に実施。約130名が参加した。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 東田 有智
管理担当者氏名	医学部・病院運営本部 藤原 昭彦

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規 則 第 二 十 一 条 の 三 第 二 項 に 掲 げ る	病院日誌	総務広報課
		各科診療日誌	電子カルテ端末
		処方せん	電子カルテ端末
		手術記録	電子カルテ端末
		看護記録	電子カルテ端末
		検査所見記録	電子カルテ端末
		エックス線写真	電子カルテ端末
		紹介状	電子カルテ端末
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ端末
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲 げ る 事 項 第 二 十 一 条 の 三 第 三 項 に 掲	従業者数を明らかにする帳簿	総務広報課
		高度の医療の提供の実績	医療安全対策部
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究グループ学術支援課、医療安全対策部
		高度の医療の研修の実績	医療安全対策部
		閲覧実績	安全対策課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域連携課
	掲 げ る 事 項 第 一 条 の 十 一 第 一 項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	調剤数は薬剤部門システム内 入院患者数・外来患者数は医事課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策部
			診療に関する諸記録は電子カルテにて管理しており、他医療機関からの紹介状は電子カルテにスキャナで取り込みをしている。検査画像フィルムは、2012年4月に全てフィルムレス化を実施しており、紙媒体診療録原本の院外への持ち出しについては診療情報運用管理規程に定めている。医師による退院時要約は、早期記載を維持し、管理している。
			電子媒体・紙媒体
			電子カルテ端末 (Human Bridge) で管理
			薬剤部門システム内でデータ管理
			書類・データで管理

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	1名配置している
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	データにて管理
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	業務手順書は院内薬剤部ホームページおよび医療安全対策部ホームページに掲載、実施状況は報告書類として管理
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	データ・書類にて管理
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器HP (医療機器関連運用規定 医療機器安全管理規定)	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医師、技術職員：Sayama-Net KindaiMed-Learning (GLEXA) 看護師：ナーシングスキル	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器データベース内でデータ管理			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全HP (医療安全ニュース・安全情報) ・コミュニケーションツールSlackでの通知 (狭山_医療機器関連情報チャンネル内への配信)			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全対策部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全対策部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	Sayama-net医療支援課内
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全対策部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全対策部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全対策部
		監査委員会の設置状況	総務広報課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全対策部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全対策部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	安全対策課
		職員研修の実施状況	医療安全対策部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務広報課
管理者が有する権限に関する状況	総務広報課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務広報課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務広報課 企画室		

データ、メール、書類にて管理

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	東田 有智	
閲覧担当者氏名	藤原 昭彦	
閲覧の求めに応じる場所	病院棟2階 患者様相談窓口	
閲覧の手続の概要 患者支援センターもしくは安全対策課にて関係部署と調整し対応している。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延		件
	歯科医師	延		件
	国	延		件
	地方公共団体	延		件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 総則 2. 安全管理委員会 3. 安全管理センター 4. リスクマネジャー 5. 報告等にもとづく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 6. 安全管理のためのマニュアル整備 7. 医療安全管理のための研修 8. 事故発生時の対応 9. 高難度新規医療技術等 10. 患者相談窓口 11. その他 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ ①・無 ） ・ 開催状況：2024年 39回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理センターの報告を受け、医療安全管理の検討及び研究に関すること 2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直しに関すること 3. 医療安全管理のために行う職員に対する指示に関すること 4. 医療安全管理のために行う病院長等に対する提言に関すること 5. 医療安全管理のための啓発、教育、広報及び出版に関すること 6. 医療訴訟に関すること 7. その他医療安全に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年9回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. ～近大病院の職員全員に知っていただきたい～最低限の医療安全情報＋”適応課題を技術課題として扱う危うさ” 2. -TeamSTEPPS®を知ってる人も知らない人も- 明日からできるチーム医療（TeamSTEPPS®） 3. 近大の急変予測能力の向上に向けて-明日からできるRRS/これだけは知って欲しい！「医療現場で起こりうる個人情報漏洩と適切な個人情報の取り扱い」 4. 「患者に寄り添う病院のかたち」 5. 虐待への気づきとその後の対応/チームで予防しよう！スキン-ケア 6. 医薬品と安全管理～医薬品安全使用のための業務手順書の改訂点を中心に～/MRI検査の安全管理について 7. 麻酔と手術の特殊性 8. 医療ガス研修～医療ガス・吸引（吸引ポット）・低圧持続吸引の取扱いについて 9. CV講習会（6・7月に実施） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ ①・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

リスクマネジャー会議・安全管理研修・医療安全ニュース等を通じて全職員へ周知するとともに、院内LAN、医療安全対策部のホームページに会議議事録を掲載し周知を図り、改善策の徹底を図っている。また、安全管理研修参加状況の個人識別化を実施している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近畿大学病院の院内感染防止対策に関する基本的考え方 2. 院内感染防止対策の組織の概要 3. 感染防止対策に関する職員研修 4. 院内感染症アウトブレイク時の対応 5. 感染症情報の院内への提供と広報 6. 患者等への情報提供と説明 7. 地域連携 8. 院外への情報公開 9. その他の院内感染防止対策 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染防止対策に関する重要事項の決定を行う 2. 院内感染防止対策指針およびマニュアルを検討し承認・周知する 3. 院内感染防止対策に関する情報を共有し職員へ周知する 4. 院内感染防止に関する職員研修計画を検討し周知する 5. 院内感染事例等の原因究明結果を報告し、対策を職員に周知する。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>新規採用時、感染対策の基礎、感染症診療の基本について、WEB研修で開催した。 定期研修は、WEB研修またはUSBの貸し出しを行った。耐性菌と抗菌薬適正使用、標準予防策や消毒薬についてなど全職員が興味を持てる内容とした。研修会講師は感染対策部の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師が担当した。 研修会後に〇×テストを入力して頂き、受講者の理解度を確認した。 手洗い研修は、各部署で演習を取り入れ実施した。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>定期、および臨時的ICTラウンド、ICTニュース、院内感染防止対策委員会、各ICTメンバーの参加している委員会、研修などを通じ、院内感染発症防止、院内感染対策の情報を発信して、啓発を繰り返し行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> R6.4月4日 研修医オリエンテーション（医師対象） R6.4月～5月 特別な管理を要する薬品の取扱いについて（新人看護職員研修） R6.6月3日 糖尿病の薬物療法について（看護師対象） R6.6月11日 抗てんかん薬における発作時、予防薬の種類や注意点について（看護師対象） R6.8月6日、8月9日、9月11日、9月18日 がん性疼痛に使用する鎮痛薬（看護師対象） R6.9月19日 オピオイドについて、ミオコールについて（看護師対象） R6.10月5日 医療用麻薬の取り扱いについて（看護師対象） R6.10月25日、10月28日 注射薬について（看護師対象） R6.11月6日、11月7日、11月13日、12月27日 抗がん薬について（看護師対象） R6.11月8日、11月22日 抗血小板薬・抗凝固薬の特徴について（看護師対象） R6.12月13日～ 安全管理研修（全職員対象） R6.12月26日、12月27日 抗がん薬による曝露について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p style="margin-left: 20px;">医薬品の採用・購入、医薬品の管理方法、投薬指示・調剤、患者への与薬や服薬指導、医薬品の安全に係る情報の取扱い（収集、提供）、各部門における薬剤の取扱い（手術・麻酔、救急・集中治療室、血液透析関連、画像診断、内視鏡、臨床検査、歯科領域、輸血）、外来化学療法部門、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修未承認等医薬品への対応、医薬品関連の情報システムの利用</p> 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） <p style="margin-left: 20px;">院内で使用される未承認薬については臨床倫理委員会を通した場合のみ、許可されることとなっている。院内で適応外使用する薬剤については、医師から臨床倫理委員会あるいは薬剤情報室等へ連絡があり、基本的に臨床倫理委員会で承認を受けることとしている。薬剤部では、臨床倫理委員会で審議される医薬品に関しては、認定・専門薬剤師を中心に案件担当者を設定し、情報収集や審査承認後の運用について関わる体制を取っている。それ以外の薬剤の適応外使用に関しては、病棟業務時や調剤時等に薬剤師が可能な範囲で把握を行い、薬学的知見に基づき、処方医に対して処方の必要性やリスク検討の有無、処方の妥当性等を確認し、必要に応じて、医薬品安全管理責任者または医療安全対策部薬剤師と情報共有している。</p> ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 	

気管支断端瘻に対して硝酸銀の使用

骨巨細胞腫の搔把術に補助的高純度エタノールを用いた再発予防

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

高濃度カリウム、プロポフォール処方実績を毎月集計し、使用状況を確認している。
処方内容に問題がある場合はカルテにて実施状況を確認する。処方内容に問題がある場合、
電子カルテのメール機能を使い、処方医に対し注意喚起を行っている。このメール機能は、
メールを開封しない限り画面上にメール通知が表示され続ける。
臨床倫理委員会で承認された疾患に対する適応外使用医薬品についても同様に、後方視的に
使用状況を確認している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年81回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 呼吸器、保育器、補助循環装置、除細動器、血液浄化装置 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容：2024年度実績 <p>点検項目はメーカーの推奨点検項目を順守する運用となっている。 点検項目は大項目として外観点検、作動点検、精度管理、定期点検などである。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAやメーカーから公開された安全使用のための情報を入手し、院内LANにて閲覧可能な、S ayamanet内 医療安全ホームページに情報を公開している。 重要情報は、2カ月毎に開催されているリスクマネージャー会議にて報告することで、全部 署に通知することができる。 コミュニケーションツールSLACKでも通知し（狭山_医療機器関連情報チャンネル内への配信 ）情報共有をおこなっている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	㊦・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者には安全管理センター長（副病院長）を配置。 安全管理委員会においては、委員長を安全管理センター長とし、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を委員として任命している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊦（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全に関連する委員会および会議への参加 安全管理委員会、安全管理部会議、リスクマネジャー会議、薬剤部安全小委員会などに参加し、院内医薬品関連インシデントの発生状況の共有および対策をしている。必要に応じて、院内研修に取り入れている。 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品検索システム MDview（株式会社ユヤマ）を使用している。また、薬事委員会資料・添付文書情報・勉強会案内など薬剤情報室が入手した全情報は、電子媒体資料にして薬剤部内ネットワークに存在する共有フォルダに保管管理している。薬事委員には、薬事委員会資料・添付文書情報・削除薬品の在庫状況・新規採用薬品のオーダー開始日など随時メールで配信している。また、医薬品の採用・削除に関しては、電子カルテのお知らせ機能を利用して配信している。緊急安全性情報・安全性情報に関しては、富士通電子カルテポータル「掲示板／お知らせ」と、MDviewに掲示している。薬剤部員にはメール配信し、看護部・病棟・外来など関係全部署には紙面の配布を行っている。各部署の薬事委員にはメールを配信し、「緊急安全性情報（安全性速報）の周知徹底について（お願い）」とともに各科薬事委員に紙面の配布を行い、薬事委員は速やかに医局内へ情報を周知徹底し、伝達方法を記入し署名後、薬剤情報室に返却するように徹底している。提出期限は、配布日から2週間以内である。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認および適応外医薬品の使用時は事前に診療科から臨床倫理委員会に審査申請をし、臨床倫理委員会で審査される。承認を得た未承認および適応外医薬品については病院として使用可能としている。説明文書には、適応外使用である旨および医薬品副作用被害救済制度が適用されない可能性がある旨が記載されている。臨床倫理委員会で承認された医薬品の適応外使用については、申請部署から臨床倫理委員会事務局へ定期的に報告している。また、承認内容に応じて、医薬品安全管理責任者は、医療安全対策部薬剤師が月に一度後方視的に確認した院内使用状況について報告を受けている。 臨床研究における未承認および適応外使用の場合には、院内の倫理委員会に責任医師から申請し、承認を得て頂く運用としている。 処方を受ける薬剤部においては、承認された内容を、部内全員配信メールで周知している。薬剤部（調剤室、薬品管理室、病棟担当および薬剤情報室）が未承認および適応外医薬品の使用に関する情報を把握した際は、疑義照会をした上で、適宜、医薬品安全管理責任者や医療安全対策部薬剤師と情報共有し、臨床倫理委員会で承認を受けるよう処方医に提案している。 疾患禁忌について、登録された病名に禁忌となる薬剤を医師が処方しようとする、富士通電子カルテに警告が表示される。ただし、エラーではなく、ワーニングのため、処方を確定することは可能である。システムとしては、電子カルテに MDbank（株式会社ユヤマ）を連携させて処方チ 	

エック機能が作動するように設定されている。また、薬剤禁忌については、電子カルテで医師が薬剤を処方しようとすると、電子カルテに警告が表示される。ただし、これもエラーではなく、ワーニングのため、処方を確定することは可能である。システムとしては、電子カルテに MDbank を連携させて処方チェック機能が作動するように設定されている。その後、処方された薬剤は薬剤部でチェックをかけ、必要に応じ薬剤師が疑義照会している。これらの状況について、薬事委員会で報告している。

・ 担当者の指名の有無 (有 ・ 無)

・ 担当者の所属・職種：

(所属：医療安全対策部, 職種 薬剤師) (所属： , 職種)

(所属：薬剤部, 職種 薬剤師) (所属： , 職種)

(所属： , 職種) (所属： , 職種)

(所属： , 職種) (所属： , 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有 ・ 無

・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有 ・ 無)

・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

インフォームド・コンセントマニュアルに、インフォームドコンセントの定義、説明すべき項目と留意事項などを記載している。説明すべき項目と留意事項に沿った内容で説明文書を作成、監査後に電子カルテに掲載している。

説明文書は、患者個々の病態・治療内容に応じて追記を行う。追記した場合は、追記した内容が分かるよう電子カルテ端末にスキャナを用いて取り込み、該当患者のカルテで閲覧できるようにしている。カルテ記載の内容については、カルテの質向上委員会で定期的にチェックリストを用いて監査を実施している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有 ・ 無

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療情報管理部長が担い、病院全体の診療情報の管理、運用に努めているが、診療録の確認は、カルテの質向上委員会と医療支援課が共同で、カルテの監査を実施している。カルテの監査方法は3段階あり、①監査対象科の医師同士がそれぞれの症例を監査、②他の診療科の医師が監査対象科を監査、③医療支援課が監査対象科を監査し、診療情報管理委員会で結果を実名で報告している。尚、院内カルテ監査の管理責任者は、安全管理部 医療安全対策室長が担っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有 ・ 無

・ 所属職員：専従 (5) 名、専任 () 名、兼任 (2) 名

うち医師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名

うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 定期的に医療安全対策部会議を開催し、必要事項を管理委員会に報告する
2. 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査
3. 定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検
4. マニュアルの作成及び点検並びに見直しの提言等
5. アクシデント・インシデントレポートの収集、保管、分析、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価
6. 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
7. 医療安全に関する職員への啓発、広報
8. 医療安全に関する職員研修の企画、立案、運営

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 8 件）、及び許可件数（ 6 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）

・活動の主な内容：

臨床倫理委員会規程をもとに、臨床倫理委員会を設置。

臨床倫理委員会規程より

本規程は、近畿大学病院における医療行為等（医療行為に準じ又は附随する行為を含み、以下、本規程において同じ）に関し、临床上の倫理的問題を含む事案について、わが国の法令やその他の規範を遵守しつつ十分な審議検討を行うことで、当院の方針とともに、その安全性維持の施策について明示するとともに、その安全性を継続して担保することを目的とする。

高難度新規医療技術とは、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）に則り、当院で実施経験のない医療技術（軽微な術式の変更等を除く）であってその実施により患者の死亡またはその他の重大な影響が想定されるものを指す。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（17件）、及び許可件数（13件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

臨床倫理委員会規程をもとに、臨床倫理委員会を設置。
臨床倫理委員会規程より
本規程は、近畿大学病院における医療行為等（医療行為に準じ又は附随する行為を含み、以下、本規程において同じ）に関し、臨床上の倫理的問題を含む事案について、わが国の法令やその他の規範を遵守しつつ十分な審議検討を行うことで、当院の方針とともに、その安全性維持の施策について明示するとともに、その安全性を継続して担保することを目的とする。
未承認新規医薬品等とは、当院で使用経験のない未承認医薬品・医薬品の適応外使用・禁忌薬の使用・未承認医療機器・医療機器の適応外使用が該当する。未承認医薬品・未承認医療機器とは、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）に規定する承認又は認証を受けていない医薬品又は高度管理医療機器を指す。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年695件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年279件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 安全管理センターの報告を受け、医療安全管理の検討及び研究に関すること
 2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直しに関すること
 3. 医療安全管理のために行う職員に対する指示に関すること
 4. 医療安全管理のために行う病院長等に対する提言に関すること
 5. 医療安全管理のための啓発、教育、広報及び出版に関すること
 6. 医療訴訟に関すること
 7. その他医療安全に関することそのほか、必要に応じて委員長が召集する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：久留米大学病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：久留米大学病院）・無
- ・技術的助言の実施状況

- ・救急カート内に向精神薬が配置されているため、施錠されていました。複数の鍵を病棟責任者が管理しており、急変時は速やかな対応が求められます。向精神薬の保管場所の変更や鍵の管理方法について検討するよう助言を受けました。救急部門と協議し、リスクマネジャー会議等で周知の上、救急カートから向精神薬を撤去し施錠を外すことで、急変時に速やかに救急カートを使用できるよう変更した。

- ・高難度新規医療技術に関する入院中の能動的なモニタリングが実施されていないため、タイミングを決めて調査する仕組みの構築を検討するよう助言を受けた。安全対策部で実施状況と患者状態を確認するようにした。

- ・診療に使う医療機器全ての把握ができていないことは、今後の課題と感じました。特に外来に設置している医療機器の把握・管理が必要と助言を受けた。左記助言に対して、外来で使用する医療機器の把握には課題が多く、管理に向けた計画を検討中。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

患者支援センターに患者様相談窓口を設置し、安全対策課職員・患者支援センター職員・ソーシャルワーカーが対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

全職員を対象とし、新規採用職員医療安全・感染対策研修、TeamSTEPPS 研修を実施している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者が日本医療機能評価機構主催の2024年度特定機能病院管理者研修に出席

【管理者】

2024年度特定機能病院管理者研修（継続研修）：2025年2月3日受講

【医薬品安全管理責任者】

2024 年度特定機能病院管理者研修（継続研修）：2025 年 2 月 3 日受講

【医療機器安全管理責任者】

2024 年度特定機能病院管理者研修（継続研修）：2025 年 2 月受講予定だったが、
体調不良のためキャンセル、2026 年 2 月に受講予定

【医療安全管理責任者】

2024 年度特定機能病院管理者研修（継続研修）：2025 年 2 月 3 日受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構 一般病院 3 を令和 5 年 5 月 12 日認定

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院正面玄関に認定証を掲示し、また、公式ホームページに評価の状況とともに掲載

・ 評価を踏まえ講じた措置

- ・ 説明と同意に関して、指摘事項を踏まえて改善策を見直し確実に実行している。
- ・ 指摘事項に対して改善策を継続的に実践している。
- ・ 指摘事項に対して手順を見直し確実に実行している。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 臨床研修等を修了し、高度な医療機関において臨床実績のある者 (2) 高度な医療安全に関する資質・能力を有し、高度な医療機関において医療安全関係の業務を経験した者 (3) 組織管理に関する資質・能力を有し、高度な医療機関の要職を通じて病院経営管理を経験しており、リーダーシップを有する者 (4) 高等教育機関等において教育実績を有する者 (5) 高度な研究機関等において研究実績を有する者 (6) 近畿大学病院の理念・基本方針を理解し実行する者 (7) 収益性の高い病院経営の実績を有する者、もしくは実践する能力を有する者 (8) 心身ともに健康であり、多職種からなる病院の組織管理においてガバナンス能力を発揮し得る者 (9) 病院経営に関して創造性豊かな企画力を発揮できる者 (10) 新病院移転を滞りなく、最適な形で進捗させる能力を有する者 (11) 新病院において DX 戦略によるスマートホスピタル化など先進かつ革新的な改革を実現できる者 (12) 病院が抱える問題、課題を迅速に解決できる者 (13) 計画的かつ戦略的な後継者の育成ができる者 (14) 先進医療を推進し、近畿大学病院のブランド力向上に貢献できる者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページにて公表 	

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページにて公表 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を 付す)	選定理由	特別の関 係
工藤 正俊	学校法人 近畿大学 理事	○	近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第1号に基づき、 理事長が指名する理事	有・無
松村 到	近畿大学 医学部 学部長		近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第2号に基づく、 近畿大学医学部 医学部長	有・無
笠井 千秋	近畿大学病院 副病院長		近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第3号に基づき、 理事長が指名する副病院長	有・無
前田 裕弘	医療法人社団日翔会 まえだクリニック 院長		近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第4号に基づき、 理事長が委嘱する学外の有識者	有・無
松田 公志	関西医科大学附属病院 病院長		近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第4号に基づき、 理事長が委嘱する学外の有識者	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☑・無		
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 診療実績に関する事項 (2) 各種委員会等からの報告及び懸案事項 (3) 中長期目標・中長期計画及び年度計画に関する事項 (4) 規程の制定又は改廃に関する事項 (5) 予算及び執行並びに決算に関する事項 (6) 自ら行う点検及び評価に関する事項 (7) その他病院管理運営に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> 関連会議において議事録を配布、各部署で共有している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・☑） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・☑） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
近畿大学病院管理者会議		別紙②参照	

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法
病院ホームページに掲載（病院長選考の公表にも投機、病院HPに公表している）
- ・ 規程の主な内容
近畿大学病院長に関する規程より
第2条 病院長は、病院管理者として部門の長等の任命、組織の設置・改廃、人員配置、予算策定を執り行うなど、病院の業務を統括する。
 - 2 病院長は、病院で行われる診療、教育及び研究について、その実施を許可し、実施状況について報告をもとめ、必要に応じて是正又は停止を命ずることができる。
 - 3 病院長は、実務者会議、診療部長会議、管理者会議など、病院の管理・運営に関する重要事項を審議するための会議を開催する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 病院長代理（空席）
 - ・ 病院長補佐
 - ・ 理事
 - ・ 統括副病院長
 - ・ 副病院長
 - ・ 看護部長
 - ・ 医学部・病院運営本部長
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 1. 研修名
日本領機能評価機構 特定機能病院管理者研修
 2. 受講者
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	④・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 監査委員会規程をもとに監査委員会を設置。 監査委員会規程より この規定は、近畿大学病院（以下「本院」という。）が、特定機能病院として高度な医療安全管理体制を構築し、安心・安全な医療を提供するため、医療の質にかかる医療統治、医療安全管理の取り組み等の状況に関する監査機関として、近畿大学病院 監査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ④・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ④・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ④・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ④・無 ） ・ 公表の方法： <ul style="list-style-type: none"> 病院ホームページにて公表 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
水本 一弘	和歌山県立医科大学医療安全推進部病院教授・麻酔科准教授	○	同医科大学において医療安全部門に就いており、医療安全に精通していることから適任と判断したもの	有・④	
山口 育子	NPO 法人ささえあい医療人権センター COML 理事長		医療事故調査支援センターの運営委員等の職にも就かれ医療安全に精通していることから適任と判断したもの	有・④	
小島 崇宏	大阪 A&M 法律事務所 医師・弁		医師として医療機関での職歴もあり、法律学	有・④	

	護士		に関する専門知識を有することから適任と判断したもの		
川村 純一郎	近畿大学病院 外科主任教授		当院の医療機器安全管理委員会委員長の経験もあり、医療安全に関する情報共有も行っていることから、適任と判断したもの	<input checked="" type="radio"/> ・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
監査室が実施する業務監査時に改正省令等に定める事項につき監査を実施した。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事長に対し、月次報告として、診療実績報告等の報告が行われ、また、年2～3回開催されている医学部・病院管理者会議（理事長出席）において、病院運営に関する事項が協議されており、その内容等に関し、理事会にて報告されている。 ・ 会議体の実施状況（ 年6回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・<input checked="" type="radio"/> ）（ 年 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="radio"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 周知の方法 各部署でのポスター掲示、院内ホームページでの公開

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>① 他の医療機関向けに</p> <ul style="list-style-type: none">○ 医療機関訪問○ ホームページ掲載○ 「診療のご案内」（特集疾患、診療内容、トピックス、専門医などの紹介）の発送○ 「KINDAI CARELINK」（各診療科の活動内容、トピックスなど）を1回/2か月発行○ 連携医向けLINE公式アカウントによる情報発信（診療医一覧、広報誌閲覧、講演会・セミナー案内） <p>② 地域の住民患者向けに</p> <ul style="list-style-type: none">○ 「きずな（2回/年）」発行、ホームページ掲載、公開講座の開催○ 「近大メディカルラジオ」（日々の健康づくりに役立つ情報や医学部・病院スタッフからの情報発信）	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <ul style="list-style-type: none">① 該当科へ対診依頼② 緩和ケアチーム等が主科と連携して診療③ 救急災害センターにてER医が初期対応を行った後に専門診療科等へ後送	